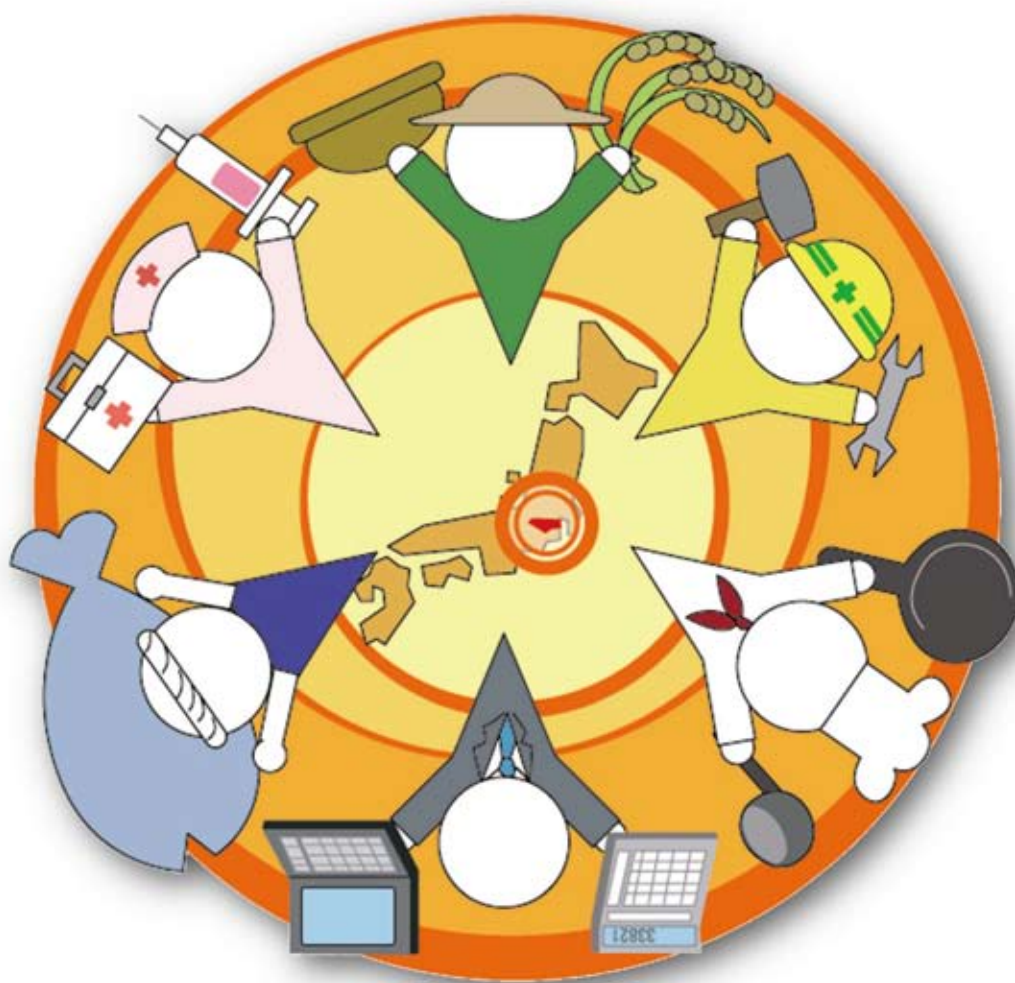


東京の産業教育

特集 生徒の進路実現を図る専門教育の取組



平成25年度 51号

東京都産業教育振興会



CG分野

コンピュータグラフィックス科	2年
コンピュータグラフィックス研究科	3年
CG映像制作科	2年

ゲーム分野

ゲーム制作科	2年
ゲーム制作研究科	3年
ゲーム企画科	2年

アニメ分野

アニメーション科	2年
アニメーション研究科	3年

デザイン分野

Webデザイン科	2年
グラフィックデザイン科	2年

IT分野

情報処理科	2年
情報システム開発科	2年
高度情報処理科	3年
情報ビジネスライセンス科	2年
ネットワークセキュリティ科	2年
ケータイ・アプリケーション科	2年

電気・電子分野

高度電気工学科 新設	3年
電気工学科	2年
電気工事技術科	2年
電子応用工学科	2年

夜間部

ネットワークセキュリティ科	2年
情報処理科	2年
ゲーム制作科	2年
電気工学科	2年
電気工事士科	1年
キャラクターデザイン科	1年

一人ひとりの未来に向き合う

1951年創立。常に社会のニーズに対応した多彩な学科構成と、プロ仕様の充実した施設・設備、現場経験豊富な教員陣で、11万人を数える卒業生を世界のあらゆる業界へ輩出、社会から高い評価と信頼を得ています。「先進的な学習環境」と「独自の教育システム」で、学生一人ひとりの個性と能力を最大限に伸ばし、希望の就職へと導きます。



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

〒169-8522 東京都新宿区百人町1-25-4 お問い合わせ・資料請求は ☎ 0120-00-9691 ✉ jp@jec.ac.jp

〈アクセス〉 JR総武線「大久保」駅南口徒歩2分／JR・私鉄各線「新宿」駅西口徒歩10分 ほか

日本電子専門学校

検索

東京の産業教育 第51号 目次

巻頭のことば

「若者の育成を産業界と連携で」

東京商工会議所 総務統括部長・東京都産業教育振興会 副会長 小林 治彦・・・1

特集 「生徒の進路実現を図る専門教育の取組」

- 1 進路希望 100%実現を掲げる専門教育の取組
東京都立農産高等学校長 後 藤 哲・・・2
- 2 実習を通してのキャリア教育と資格取得
東京都立府中工業高等学校長 瀧 澤 勝・・・4
- 3 工業科エンカレッジスクールのキャリア教育
(生徒に自信を持たせるキャリア教育の取組)
東京都立練馬工業高等学校 主幹教諭 笹 沼 克 宜・・・6
- 4 生徒の進路実現を図る専門教育の取組
東京都立葛飾商業高等学校 全日制課程 副校長 加 藤 哲 次・・・8
- 5 生徒の進路実現を図る専門学科の取組
東京都立瑞穂農芸高等学校生活デザイン科 主任教諭 福井 智子・教諭 田村 優加子・・・10
- 6 総合学科高校における専門教育の役割と取組
～キャリア教育における専門教科の役割と課題～
東京都立青梅総合高等学校 主幹教諭 一 ノ 瀬 淳・・・12
- 7 多様化した生徒に対する進路実現を図る専門教育の取り組み
～本校の国際工学科における工芸教育と社会福祉技術への取り組み～
日本工業大学駒場高等学校 工業科長 松 林 孝・・・14
- 8 「生徒の進路実現を図る専門教育の取り組み」
安部学院高等学校長 安 部 元 彦・・・16
- 9 キャリア教育の充実による進路実現への取組
～ストーリーベースドラミング教材を用いた社会人基礎力の養成～
日本電子専門学校 校長 古 賀 稔 邦・・・18
- 10 自動車整備士資格を取得した若者の業界ニーズの変化について
東京工科自動車大学校 校長 佐 藤 康 夫・・・20
- 11 中学校技術・家庭科教育に期待されるもの
練馬区立豊玉第二中学校長 長 南 良 子・・・22
- 12 学生の進路実現を図る高専教育の取り組み
～国際的に活躍できる技術者の育成を目指して～
東京都立産業技術高等専門学校 副校長 田 原 正 夫・・・24
- 13 都立専門高校の新たな事業を活用した農業教育の取組
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 平 柳 伸 幸・・・26

東京の産業界

- 1 未来を担う次世代への貢献 ～持続可能な社会実現のために天然ガスができること～
東京ガス株式会社 学校教育情報センター所長 庄 司 武・・・ 28
- 2 食べる為に仕事をするのか 仕事をする為に食べるのか
株式会社昭和理化 取締役 中 村 義 次・・・ 30

情報スクエア

- 1 平成 25 年度高校生夕張キャンプ第 I 期
「夕張メロン等農産物の流通体験と現地交流活動」
東京都立工芸高等学校長 松 本 光 正・・・ 32
- 2 第 23 回全国産業教育フェア愛知大会での取り組み
東京都立荒川商業高等学校 主任教諭 早 田 智 洋・・・ 34
- 3 都立芝商業高校「模擬株式会社 ^{しばしょう} 芝翔」の活動を通して
東京都立芝商業高等学校 主幹教諭 久 保 静 生・・・ 36
- 4 第 11 回創造ものづくりフェア in TOKYO
東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長・中央区立佃中学校長 加 藤 譲 司・・・ 38
- 5 第 23 回全国産業教育フェア・第 55 回全国産業教育振興大会（愛知大会）・・・・・・・ 40

報 告

- 1 平成 25 年総会・講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
- 2 平成 25 年度東京都産業教育振興会教育功労者表彰・・・・・・・・ 47
- 3 平成 25 年度東京都産業教育振興会後援事業・・・・・・・・・・・・ 48
- 4 平成 25 年度産学懇談会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
- 5 平成 25 年度第 24 回東京都産業教育振興会作文コンクール
① 入賞者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
② 最優秀作文（中学校・高等学校の部）・・・・・・・・・・・・・・ 53
③ 応募校一覧・応募数の推移・分野別応募数・応募男女比等・・・・ 56

本会の概要

- 1 平成 25 年度 事業経過報告（平成 26 年 2 月 20 日現在）・・・・ 59
- 2 平成 24 年度 決算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
- 3 平成 25 年度 予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
- 4 平成 25 年度 役員、委員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
- 5 本 会 会 則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
- 6 平成 25 年度 会員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82

「若者の育成を産業界との連携で」

東京商工会議所 総務統括部長

東京都産業教育振興会 副会長

小林 治彦



私ども東京商工会議所は東京都 23 区内の商工業者約 76,000 社を会員として、さまざまな取り組みを実施しています。東京都や国に対する政策提言や、個々の会員企業への経営支援活動などが代表的な活動になります。

2013 年 11 月、本商工会議所の役員・議員の改選が行われ、新日鐵住金の三村明夫相談役・名誉会長が第 21 代の会頭に就任されました。三村会頭は「日本再出発の礎を築く」を所信に掲げ、今後取り組むべき重要な課題を 5 つ示されました。それは、「震災復興」、「成長政策の再構築」、「オリンピック・パラリンピックを起爆剤とした東京・日本再出発」、「若者の育成・就職支援」、「個々の企業の経営基盤の強化」です。

特に、「若者の育成・就職支援」については、「次代の日本を背負うのは若者であり、日本再出発は彼らの双肩にかかっています。若者に夢と希望を与えることが何よりも必要ですが、そのためには、我々自身が将来に希望を持ち、成長に向け、行動する姿を若者に見せることが必要です。」との強い表現で決意を述べています。東京商工会議所としても、日本経済を支える人材育成は最重要課題のひとつであり、現在、東京商工会議所に加盟する 100 近くの大学との間で、さまざまな共同事業を検討・実行しています。

具体的には、11 月に、「若者・産業人材育成委員会」を設置し、会員企業と大学が連携する形で、インターンシップ受入れや中小企業への就職情報の提供などを実施し、若者育成および中小企業の人材確保に取り組んでいくことにしています。また、私ども 23 支部におきましても、ここ数年、産業教育の重要性に鑑み、支部単位の取り組みとして中学生・高校生を対象にした会員企業の職場見学・体験なども実施しています。

多くの資源を有しない日本にとって、ものづくりに代表される技術力の高さは世界に誇ることでできる大きな特長です。こうした技術力を支えているのは、企業数の 99.7%、そして従業員数の約 7 割を占める中小企業といっても過言ではありません。商工会議所の会員企業の大部分が中小企業であることから、今後、若者が技術力をもつ中小企業に目を向けてもらうことが何より重要です。先述した、大学の担当者との意見交換会においても、とかく大企業志向が強い学生を中小企業の素晴らしさに目を向けさせるため、中小企業経営者から学生へ講演を行ってほしい、さらには中小企業の技術力などについてセミナーを実施してほしいとの意見が多数寄せられました。

東京都産業教育振興会の活動については、私どもと連携できることが多いと考えております。東京商工会議所としては、「若者」と「産業教育」をしっかりとむすぶことができるよう取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

特 集

「生徒の進路実現を図る専門教育の取組」



進路希望 100%実現を掲げる専門教育の取組

東京都立農産高等学校長 後 藤 哲

1 はじめに

目指す生徒像を、「タフでしなやかな生徒」から、今年度、「勤労意欲に富んだタフでしなやかな生徒」に修正した。それは進路指導部からの要請によるものであった。産業人の育成を使命とする本校において、勤労観の育成を強く意識する教員集団の指摘は、前向きに学び、主体的に行動し、自ら様々な課題を解決できる生徒の育成に邁進しようとする姿勢の発現で、校長として意を強くするところである。

普通教科を基礎基本とする学力を基に、農業教科の持つ優れた特性を生かして、進路希望 100%達成を目指す本校の具体的な取組について以下に紹介する。

2 学校経営計画の具現化に向けて

生徒の目指す進路の実現とさらなる向上を図るため、その具体的な取組を学校経営計画の中にくつつか示している。その核となるものは、次の3つである

(1) 農産丸ごとミュージアム構想

農業教育を中心に、その学習内容が生徒・保護者・中学生・来校者・小学生や保育園児に至るまで誰にでもわかりやすい環境を創り出し、学校に一歩足を踏み入れるとまるで博物館のように、知的好奇心をくすぐり、学習意欲を喚起する場となることをねらいとしている。例えば校内の樹木全部に樹木名が掲示してある学校というコピーに代表されるように、樹木や草花、雑草等々校内全てが教材であること、生徒の成果物が至る所に展示してあること等、現在進行形ではあるが、一歩一歩農産丸ごとミュージアム化が進行している。

(2) 産業人の育成

園芸デザイン科・食品科の育成しようとする生徒像と価値観、そして身に付けるべき実践力、目標とする具体的な進路、さらにそれらに必要な資格取得等を明確に示している。示したこれらの目



校内樹木全部に樹木名が掲示してある学校
生徒手作りのラベルが好評

標を達成するために、わかりやすい授業からさらに進化した考え抜く授業への発展、課題解決型学習をととした言語能力の向上、一人一資格取得の奨励、インターンシップの推進、授業規律の徹底、自然な髪型の生徒指導として染髪や化粧、装飾品の禁止等の指導に取り組んでいる。そして今年度は、東京都教育委員会より言語能力向上推進、ICT活用推進の指定校として、教職員の授業力の向上を図るとともに、農業人、産業人の育成、将来のスペシャリストの育成を図っている。

(3) 地域貢献する学校

農業教育で身に付けた知識・技術、例えば植物栽培や造園、ジャムやクッキーなどの食品製造等を活用した生徒による地域貢献活動を計画的に実施している。昨年度実施回数は、年間 187 回で一覧表にまとめると、その達成感・充実感をずしりと体感できる。学校・保護者・地域社会、即ち社



地域住民（花のまちづくり協議会）とともに制作した亀有駅前花壇

会全体で子どもを育てようとする必要性やその機運が高まる中で、地域貢献活動の意味するものは、地域から育てられること、地域を育てること、この双方向の取組により、生徒は専門教育の学びの成果を実感するとともに、自己有用感や自己肯定感が醸成され、社会で主体的に生き抜こうとするたくましさを身に付けるものと確信する。

3 進路実現のための特色ある実践例

(1) 徹底した衛生指導

食品系実験実習授業の開始前には、必ず衛生指導が行われる。衛生チェック表（頭髮・実習服・実習帽・マスク・ベルト・タオル・筆記用具・実習資料・爪・靴下・上履き・装飾品等）には一人



徹底した衛生指導のもと、低温でじっくり仕上げる農産名物「かめさん味噌」の製造実習

一人項目毎に細かくチェックされ、記入されていく。頭髮が染色されていれば、その日は実習に参加できず、見学になる。装飾品を身に付けていると卒業時まで預かることになる。販売実習や校外学習においては、制服規定が守られていないと、参加できないなど、衛生指導の共通理解、共通実践は徹底している。これらをとおして、授業参加意識や規範意識の向上、安全に生活する力を身に付けている。

(2) JA 中標津と連携したインターンシップ

夏季休業中に実施する酪農体験インターンシップは、平成 11 年度の試行を経て、今年度で 15 回を数える。耕地面積 100 ～ 150ha と見渡す限りの広大な牧場、搾乳牛 50 頭以上の農家での酪農実習は、事前指導を十分実施するものの、想像を超える重労働は農業の厳しさを実感させられる。しかし、給餌や搾乳、飼料作物の収穫・調整、さらには出産を体験することで、生徒たちは異口同音に生命、自分の生き方、人と人のつながり、農業学習の大切さを口にする。これは作文コンクール明日に生きる 22 号（平成 23 年度）でも優秀賞として掲載されている。

(3) 一人一資格取得の奨励

平成 24 年度卒業生資格取得一覧
(卒業生数 133 名)

日本農業技術検定 3 級 53 名
造園技能士 3 級 8 名
マミーフラワーデザイン基礎科修了証 44 名
販売士検定 2 級 8 名
食生活アドバイザー 3 級 7 名
食品衛生責任者 20 名
パソコン検定 3 級 43 名
料理検定 2 級 2 名 3 級 19 名
漢字検定 2 級 1 名 準 2 級 10 名 3 級 3 名
総計 218 名

4 おわりに

「農業教科で育てる」という強い意識と誇りを持ち、農業教科の教員は日々の生徒指導に取り組んでいる。特に農業学習導入科目である「農業と環境」では農業の基礎を学ぶとともに農業教育の最も大きな特長といえるプロジェクト学習の基礎を学ぶ。課題設定→課題解決のための実施計画→実施→まとめ→発表→自己評価。このプロジェクト学習法の集大成として「課題研究」に取り組み卒業を迎える。「農業教科で育てる」とは、前向きに学び、主体的に行動し、課題解決しようとする「労働意欲に富んだタフでしなやかな生徒」を育てることだ。本校の校訓でもある、学びに勤しみ、不屈の大志を培い、優れた技術を究める、そして自他をおもいやる、このような取組をとおして今年度も進路希望 100% 達成を目指している。



真夏の炎天下、7 月下旬に実施された造園技能士検定に挑戦する生徒



実習を通してのキャリア教育と資格取得

東京都立府中工業高等学校長 瀧澤 勝

1 はじめに

本校は、1学年、機械科1学級(35名)、工業技術科1学級(35名)、情報技術科1学級(35名)、電気科2学級(70名)の計5学級(175名)規模の工業高校である。昭和37年(1962年)に東京都府中市に機械科、電気科の2科を持つ工業高校として誕生し、平成24年度(2012年)に開校50周年を迎えたところである。国際化に伴う日本の産業界の変遷に伴い、ニーズに応えるべく機械科が工業技術科に、電気科が情報技術科に1学級学科改編を経ながら、現在の科の編成となっている。近年は、ものづくり推進校、技能スタンダード推進校の指定を受け、工業高校として、社会に有用な人材を送り出すべく、試行錯誤している。キャリア教育、国際理解教育を進めながら、国内をはじめ、世界で活躍できる人材の育成を目指し、国内の伝統技術を有機的に継承し発展させるために、若い人材を育成していくことが工業高校の大きな使命と考え力を入れている。

本校は、電気工事士、旋盤技能士の資格取得をはじめ、資格取得に力を入れてきたところである。昨年度の主な資格取得の概要は、表1(種・級等の区別なく述べ人数で掲載)のとおりである。基礎的な資格、更に高度な資格取得を目標として日々教育活動を進めている。

資格取得概要(表1) 平成24年度

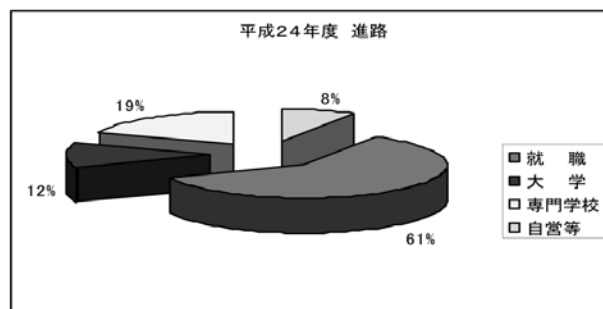
資格名等	合格者数
電気工事士(2種・3種)	47名
旋盤技能検定	16名
情報処理検定(2級、3級)	71名

2 教育活動

工業高校における授業内容は、普通科目、専門科目、実習である。時間割合は、6割が普通科目、4割が専門科目、実習である。3年生においては、専門科目が中心となり、実習の時間が多く配当されている。専門科目は、各科における専門の基礎基本的な内容を中心として広く学んでいる。実習は、基礎的な実験等とおし測定器や工具の使い方を1年生で学び、2年、3年生でより高度な技術・技能を中心に資格取得等を目標の一つにおいて学んでいる。実習においては、卒業後の進路について、現場に出てすぐ働くことへの心構え等の意識付けのために朝礼を実施し、また表現力などの育成のために生徒に発表させるなど工夫をしている。1、2年生に対し進路講話や進路ガイダンスの実施、3年生は、「先輩の話を聞く」、「各企業の進路担当者から話を聞く」会等の中から、働くことへの意義や意識付けまた将来へのイメージを持たせ、職業選択におけるミスマッチを防ぐ動機付けとしている。

3 進路状況

平成24年度卒業生は157名に対して、就職107名(約7割)、進学49名(約3割)であり、ここ数年割合はほとんど変化していない。



平成24年度卒業生進路状況

就職は、都内中心で中小企業への就職者がほとんどであり、就職先企業の状況も大きく変はしていない。近年、就職が厳しい状況の中で、基礎学力やコミュニケーション能力等、特に企業が求める力を日ごろの教育活動の中で生徒に身につけさせるため、様々な工夫を始めている。基礎学力向上のために、朝学習の実施や読書のすすめ、補講の実施等の取り組みを行っている。

また、各科に進学希望者が一定の割合で在籍をしている。進学者の多くは、大学の工学部関係への進学であり、専門学校への進学者が多くなっている。受験方法はほとんどの場合、推薦入試や、AO入試等での進学者であり、一般受験での進学者は一部である。3年前より土曜日に、希望者による数学と英語の土曜講習を年間20回から30回、全学年対象に実施し、各学年20名程度受講をしている。入試に対応すると同時に、入学後の学習に対応するためである。

4 資格取得に向けて

学校での専門教育の延長上にある資格を就職先で活かすことにより、技術者として自信を持って生き生き働けるような意識付けが資格取得に向けた学習指導の中で育成できればと考えている。

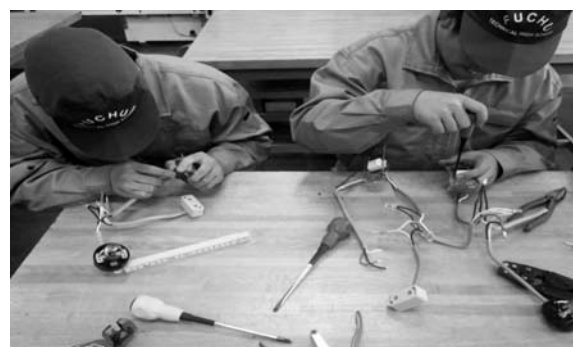


六尺旋盤実習（機械科・工業技術科）

資格取得は自信と挑戦への意欲が高まり、人間形成を進める上でも有用であり、資格は一生の財産でもある。

本校では、資格取得に向けて、各科が中心となり、組織的に講習会を実施している。講習会は、放課後約2時間から3時間実施し、2月から7月までの長期にわたり実施をしている講習

もある。更に休業中に集中して実施をしている。講習には、各科が指導書やテキストを独自に作成し使用している。講習会は、資格にあわせて分担して指導を行っている。資格取得について、筆記試験の合格は、学校での専門科目の学習では不十分であるため、講習による補填が不可欠である。また、実技検査は、その資格にあわせた練習が必要であり、通常の実習授業ではできない部分もあり、多くの技術・技能取得の時間が必要であるのが現状である（実習等の様子）。取得においては、一定時間内に実際の作業工程に従って進めていく技術・技能が必要である。失敗や成功体験をとおして課題に対し自らが考えて解決していこうとする態度、判断し行動する力等を養うこともこの講習の中で育んでいる。また、実習や、資格取得講習会等を外部からの指導員に依頼し、直接指導を受けることにより技術の向上を図っている。



電気工事士講習会（電気科・情報技術科等）

5 おわりに

本校生徒は、卒業後すぐに仕事を持ち、社会人として生活をしていく。企業で必要とされる力の育成と共に、働くことの意義、働くための体力、気力を、日々の教育活動をとおして低学年から段階を踏み指導する体制を構築し充実させていくことが必要であると考え。そのために資格取得を中心におきながら、キャリア教育を充実させ、実習や行事、生活指導等に、社会人として必要な力を意図的に組み込み生徒一人一人が充実した学校生活を送ると共に進路実現ができるようサポートすることにより工業高校としての役割を果たしていく。



工業科エンカレッジスクールのキャリア教育

(生徒に自信を持たせるキャリア教育の取組)

東京都立練馬工業高等学校 主幹教諭 笹沼 克宜

1. はじめに

本校は、昭和38年に機械科6クラス、電気科2クラスの工業高校として誕生以来、50年の歴史を持つ工業高校である。その後、16教学高第1991号「エンカレッジスクールの指定について」により、平成18年度「学習への関心、意欲、態度や基本的生活習慣等に課題を抱え、可能性はありながら力を発揮しきれずにいる生徒」を受け入れる、初の工業科エンカレッジスクールに生まれ変わった。現在、機械系・自動車系・設備系（電気系）・デザイン系・インテリア系・コンピュータ系の6系列を持つ、5クラスのキャリア技術科がある。

キャリア技術科では、共通の普通教科に加えて1・2年次に、各系の共通科目（工業科科目）と各系の専門実習の一部を学習する。また、3年次から、各系別にクラス編成が行われ、専門教科を学習する。担任は一つのクラスに2名を配置し、きめ細やかな生徒指導体制をとっている。さらに、1年次では、授業に集中させるために、30分授業を国語・数学・英語で実施するなど、特色を持った教育課程を実践している。



写真1 1・2年生が行う共通の実習内容

2. 工業科エンカレッジスクールの三つの使命

- (1)「生徒に学習の習慣を身につけさせ高校の3年間の学びを継続させること」である。
- (2)「生徒に規範を遵守する姿勢を身につけさせ集団生活としての高校生活を円滑なものとすること」である。
- (3)「就職希望生徒を確実に希望就職先へと就職させること」である。

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
中途退学者数(人)	55	29	27	33	20	16	22
就職一次内定率(%)	75	77	68	49	42	36	58

表1 中途退学者数と就職一次内定率の変化

3. 工業科エンカレッジスクールの取組

(1) 中途退学者数の改善

平成18年度は55名であった中途退学者数を、下記の対策により、23年度には、16名まで減少させた。

①全教職員による授業中の校内巡回・指導体制

校内巡回は、教科・担当学年の異なる教職員を二人一組で、時間割上に巡回の時間を明記した。

中抜けした生徒に対しては、教室に戻し、記録ノートに学年・氏名を記載し、直ちに学年に報告した。担任は、該当生徒を放課後、呼び、中抜けした理由を聞くとともに、生活指導部と連携を図り、指導を行い、家庭にも連絡をした。

②欠時が多い生徒に関する情報共有

授業の欠席時間の多い生徒、または5日間以上連続して欠席している生徒は、企画調整会議で、学年から報告を受け、原因と対策について検討を行い、生徒に関する情報の共有化を図った。

③各科目の評価基準・達成目標の明確化

年間授業計画とは別に、具体的な各科目の達成目標と評価基準を作成し、達成目標は具体的に「～ができる。」のように、成果として修得すればよいことを明確にわかるようにした。小さな目標を一つ一つ達成することにより、単位の修得ができるように設定した。さらに、それらの目標に達した場合の評価も明確化した。

(2) 生徒に自信を持たせる活動

本校に入学してくる生徒は、自らの力で目標を達成した体験を持つものが少なく、活動に取り組む前から、諦めてしまう生徒が多い。地域と連携を深め、地域活動の中で生徒達に自信をつけさせた。

①地域の警察署・消防署等の連携

防犯ボランティア団体「練馬ピーポーズ・練馬工業高校」の登録を行い、防犯活動の啓発や近隣町会と協力して公園に花壇を作り、地域や本校生徒に関心をもって貰い、犯罪抑止効果を狙った活動に生徒達を参加させた。これらの活動は、東京都青少年・治安対策本部からも注目された。



写真2 防犯キャンペーン、除雪ボランティア

生徒自身が自分たちの活動について、誇りと自信を持つようになった。また、消防署と連携し、教科「奉仕」の時間に修得した「上級救急救命士」の資格を活用して、2学年の多くの生徒が、練馬消防署等に「災害時支援ボランティア」の登録を行った。これらの活動も、消防庁より評価されている。また、生徒の自信にもつながった。その後、近隣道路の除雪作業等のボランティア活動に参加

する生徒も増えてきた。地域からの感謝の声がさらに、生徒たちに自信を与えた。

②インターンシップの体験・発表会

2年生、約160名の生徒が全員参加で約70社の企業でインターンシップを行う。東京商工会議所練馬支部の協力やハローワーク池袋の尽力のおかげで実施している。この活動を通じて、生徒は、地域への関心も上がり、企業は学校の教育活動に理解を示し、就職活動にも繋がってくる。また、企業を招待して、インターンシップの活動を、生徒自らが発表することにより、生徒には達成感と自信が生まれた。

(3) 学力の向上

本校の目標とする学力は、就職試験を突破できる学力を身につけることである。就職一次内定率は36%まで下がったが、下記の対策を実施した結果、60%前後まで回復した。(毎年、最終就職内定率は、ほぼ100%である。)

①平成22年度より、検定試験、小テストに加えて、就職試験に対応するために、定期試験として学期末確認テストを導入した。

②年3回の学力向上に向けた校内研修を実施して、外部の力も借りて、外部テストの導入などの学力向上のための対策を行った。

③教育課程の変更により学力の改善を図った。

(i) 自由選択8単位を必修4単位と自由選択4単位に改善した。

(ii) 専門教科を必修で2単位を追加した。

(iii) 必修選択2単位(基礎力・進学対策)を創設した。

(iv) 10分間朝学習の時間を作り、授業時間1単位とし実施することを決めた。

4. 終わりに

本校は、現在、全面改築の最中であるが、都民の本校に寄せる期待に応えるため、今後も、工業科エンカレッジスクールの三つの使命を着実に達成して行くと共に、良き職業人を地域社会に送り出す使命も果たしていく。



生徒の進路実現を図る専門教育の取組

東京都立葛飾商業高等学校 全日制課程 副校長 加藤 哲次

1 はじめに

東京都立葛飾商業高等学校は、昭和37年に創立し、今年で52年目を迎える。平成4年に情報処理科を新設し、商業科とあわせて2学科になり、現在に至っている。

進路は、毎年およそ60%が就職希望であり、毎年110名前後の就職者を輩出している。進学者には商業系も多く、本校で学んだ商業の知識を深化させ、幅を広げていく生徒も多い。

生徒の進路実現に向けて取り組むべきことは、社会に出て通用する知識・技能を身につけさせることである。就職者は高校を卒業してすぐ社会に出る。進学者もいずれ社会に出て行く。専門的な知識・技能の習得、検定・資格の修得、社会人として必要なコミュニケーション能力の育成、規範意識の向上、知識・技能を生かした地域貢献活動、そして実学としてのビジネス教育である。

本校は平成23・24・25年度と「言語能力向上推進校」に指定され、その取組みを行ってきた。授業では発問を工夫し、できるだけ多くの生徒に、はい・いいえ、ではなく、自分の考えを自分の言葉にして発言することを求めた。また、調査・研究の内容を発表させる場を設けてきた。さらに外部講師を招き、講習会や研修会を行ってきた。教員対象の研修会では、教員の力をつけることと、授業等で応用できるものを学んだ。また、平成25年度は規範意識向上先行実施校に指定された。時間管理（登校時間、チャイムでの授業の開始と終了、ノーチャイムデーによる時間管理）、言葉遣いの徹底、挨拶の励行、交通ルール（特に苦情の多い自転車指導）、生活態度、マナー等、規範意識の向上に向けた取組みを進めている。以下、本校の特色ある学習活動を紹介する。

2 夕張市との連携をはかる取組

2年生総合選択（文書処理・情報処理科）の授業の中でFacebookページの運営を行っている。これは、昨年度本校が商業高校の代表として「高校生夕張キャンプ」に参加したことがきっかけとなった。夕張市と葛飾区の交流を深める一環としてFacebookページの運営を始めた。これは個人のページではなく、企業や地域のブランドイメージを向上させることを目的としている。

今年度も夕張キャンプ選抜大会に出場した。今年度は昨年度の研究を生かし、さらに発展させる取組となっている。この研究発表は、日頃の授業で取り組んでいることの成果を生かしていくものである。夕張市の町おこしに高校生がどんな形で協力し、発展させられるのか真剣に考え可能性を探った。そして発表会でその思いをプレゼンテーションし、多くの人にその思いを伝えることができた。教科書に頼らない、教科書にはない勉強をすることができている。ただ文章を打つだけの授業ではない。自ら考え、発展させ、実際に社会に役立たせる取組を行っている。6月に立ち上げたFacebookページへのカウントも徐々に増えてきている。さらに深化・進化する取組を行っている。

3 民間企業との連携

3年生課題研究「日商販売士検定」において（株）ディスカヴァー・トゥエンティワン社（出版業）との連携による講座を進めている。講座の中で、1学期に2つの企画を立てた。

まず、若者の読書離れ・活字離れを指摘されて久しい。そこで、若者の興味・関心を引くような本は何か、高校生の立場からこんな本を読みたいという提案を企業に対して行った。

①作者は誰？②なぜ興味を持ったの？③その内容は？・・・各生徒が、図書館で作者発掘をするために調査研究を行い、書店ではどのような作者の本に魅かれたのかまとめた。それら調査研究したことを、企業担当者の前でプレゼンテーションを行った。企業担当者に思いを伝える、提案をわかりやすく伝えることの難しさと大切さもわかった。企業からプレゼンテーションの内容について講評をいただき、企業には高校生の豊かな発想を参考にいただいた。また売れる商品についてのヒントやアドバイスをいただき、さらに今後、ブックカバーの色やデザインなど魅かれる本への取組も行う。

次に、高校生ではどんな手帳が使いやすいのかを研究した。手帳にどんな項目があれば使いやすいのか。構成、大きさ、厚さ、機能、カラー、デザインなどの研究を進めている。企業から、「つきぬけた感じのかわいい手帳」という要望・アドバイスを受けた。もし、いいものがあれば採用してもらえる。生徒の発想した手帳が商品化される可能性を秘めている。企業担当者には4回来校していただき授業でご指導いただいた。また、生徒も企業を2度訪問し、担当者の話だけではなく、現場の空気を肌で感じた。生徒は企業の考え方・姿勢を学び、企業は高校生の若い発想・柔軟な発想を期待してくれる。とても貴重な経験であり、良い勉強になっている。なお、この取組を8月31日（土）の平成25年度東京都生徒商業研究発表大会にて発表し、優良賞をいただいた。

4 学習成果発表会

2月7日（金）に学習成果発表会を予定している。3年生「課題研究」の11講座のほか、マーケティング、文書デザイン、夕張キャンプ選抜大会、言語能力推進活動において、1年間授業で取り組んだこと、学んだこと、これからのように生かしていくのかを生徒が発表する。各講座での知識・技能に加え、プレゼンテーション能力の育成、全校生徒の前で発表する態度や精神力を養う。

5 地域貢献活動

商業の知識・技能を生かして、地元の高砂商店街等の販売促進活動のためポスターを作成している。文書デザインや文書処理などの授業の中で、パソコンの活用能力を生かしている。また、体育祭・文化祭、学校説明会のポスターなど、学校のPR活動にもその知識・技能を生かしている。多くの機会の中で生徒作品を前面に出すことで、生徒の知識・技術力向上に大いにつながっている。

また、奉仕体験活動として地域に関わること、部活動や生徒会の生徒などが地域の各種イベントへの参加・運営補助など深くかかわることで、高校生の社会参加、地域貢献が実現している。

6 検定資格への取り組み

検定資格取得への取り組みに力を入れ、特に基礎検定（3級）には100%合格することを目標に指導している。その基礎の上に2級、1級への上級資格取得に取り組んでいる。到達目標を明確にし、達成感を実感させることで、学習意欲を高める。教科会で授業の進捗・達成度を確認し、補習では、習熟度別など当該科目の教員が組織的な体制を構築し、担当クラス以外の生徒も指導する。また、ITパスポートなど高度な資格取得も目指し、知識・技能の向上を図っている。今年度、ITパスポートは1年生で合格者を出している。2学期末に検定指導週間を設け、学校全体として取り組んでいることを強く意識付けている。

7 終わりに

進路実現（特に社会に出るため）に向けて、社会で必要とされる力を身につけさせることが求められる。知識・技能だけではなく、対応力、折衝力、規範意識、コミュニケーション能力等を身につけさせることがビジネス教育であり、ビジネス教育はあらゆる場面で行われている。

生徒の進路実現を図る専門学科の取り組み

東京都立瑞穂農芸高等学校 生活デザイン科

主任教諭 福井 智子
教 諭 田村 優加子

1 はじめに

東京都立瑞穂農芸高等学校は西多摩地区にある、「園芸科学科」「畜産科学科」「食品科」の3つの農業学科と、「生活デザイン科」の家庭学科を含め4学科をもつ専門高校である。

生活デザイン科は類型選択制度をとっており、1年次は全員共通科目を履修し幅広い知識技術を身につけることを目標としている。2年次からは、食物・調理類型、服飾・デザイン類型、保育・福祉類型の3つの類型に分かれてそれぞれ専門的な学習を行っている。生徒の幅広い進路ニーズに応えるため、少人数制を生かしてきめの細かい指導を行っている。

2 生活デザイン科のカリキュラム

1年 必修	家庭基礎(2)ファッション造形基礎(2) 生活産業基礎(2)生活産業情報(2) フードデザイン(2)
2年 必修	子どもの発達と保育(2) ファッション造形基礎(2) フードデザイン(2)
2年 類型	ファッション造形(4)調理(4) 子ども文化(2)生活と福祉(2)
3年 必修	課題研究(3)*科内選択(3)
3年 類型	ファッション造形(5) 調理(3)食文化(2) 子ども文化(3)学校設定 手話(2)

*リビングデザイン・ファッション造形基礎
子どもの発達と保育・服飾手芸・フードデザイン

3 各類型の特徴

食物・調理類型では、食に関する技術の習得に留まらず、自らの生活を工夫し努力する人材の育

成を目指している。2年生では、加工食品、和菓子、洋菓子、点心、テーブルコーディネートや食卓作法を学んでいる。3年生では、日本料理・西洋料理・中華料理の実習とマナー、世界各国の料理や食文化を学び、知識を通してグローバルな見方、考え方を身につけさせている。外部講師を招いてより専門的な講習会も行っている。

服飾・デザイン類型では、専門技術だけでなく、社会性、協調性などの社会人として必要な素養の習得を目指している。2年生では、浴衣と着付け、裏地付きのセミタイトスカートの製作、デザイン画、製図実習を行い、3年生では、ウェディングドレス・フォーマルワンピース・スーツなどの製作を行っている。文化祭では、日頃の成果を発表するため、ファッションショーを行っており、授業では、身につけることが難しい企画力や柔軟な発想、リーダーシップのとり方などを学んでいる。

保育・福祉類型では、子どもや高齢者、障害者に関する学習を通して「人とのかかわり」を学び、保育士や介護福祉士を目指した体験的な学習に力を入れている。全員が保育分野と福祉分野を平等に学び、それぞれの共通点や相違点をしっかり見極めた上で、進路選択の土台としているところが本校の特徴である。

ここでは保育系、福祉系の取り組みについて詳しく記述する。

4 保育・福祉類型での取り組み

(1) 保育での取り組み

2年生では実習を多く取り入れるよう心がけており、ポップアップカード制作や牛乳パックなどの身近な廃材を利用したおもちゃ作りなど生徒自身が自ら考え、発想豊かに取り組めるような課題

を提示している。また、近隣の家庭支援センターでパネルシアターを披露し、地域で子育てをしている方々との交流を図っている。3年生では、オリジナル絵本制作や季節ごとの壁面制作を行っている。また、今まで学んだ知識や技術をより体験的に身につけるために、保育園での現場実習を行っている。この実習は、今までの学習成果を現場で生かすと共に、子どもたちや外部の方との交流を通して保育に関する知識をより深められるようなキャリア教育としての役割も果たしている。文化祭では子どもたちが安全に遊べる保育スペースを作り、人形劇を披露している。人形を手作りし、ストーリーも発表時間を考え生徒たちが練り直している。また、現場実習で交流のあった保育園で披露するなど地域との継続的な交流も図っている。

2、3年共に長期休業中にはボランティア活動を必修としている。



保育園実習

(2) 福祉での取り組み

2年生では、介護職員初任者研修にほぼ沿った内容の実技・実習を授業で行っている。また、近隣にある特別養護老人ホームや障害者自立支援センターで、施設見学やハンドベル演奏などの交流を年数回行っている。3年生では、市民講師による手話の学習を通じ、手話検定の資格取得を目指している。単なるコミュニケーション手段に留まらず、聴覚障害者の生活を深く知り、障害者への

理解を深めることを目指している。その他にも、視覚障害者による点字の学習や、肢体不自由者の生活を知る学習会、美容福祉に関する講習会や認知症サポーター講習会など、地域社会とのつながりや、互いを知り理解を深めるような授業を展開している。文化祭では、実習先の特別養護老人ホームの高齢者を招待して交流を継続できるようにしている。長期休業中はボランティア活動を必修



とし、キャリア教育としても位置づけている。

ハンドベル演奏（施設）

5 まとめと今後の課題

本校は、保育園や幼稚園、老人ホームが比較的多く点在する環境にある。また、施設側も大変協力的で恵まれている。毎年、昨年の反省をもとに双方で実習の内容を見直すなど、良いものにしていくとする姿勢で取り組んでいる。このような取り組みは、双方にメリットがないと継続しないと感じる。高校としては、学習内容を実習によってより深めることができること。現場を見ることによって、進路ミスマッチを防ぐことにもなる。また、施設側としては、子どもや高齢者がハンドベル演奏や人形劇などの催し物を楽しむ機会になること。保育士や介護福祉士を目指す生徒達に、仕事の大変さや魅力を直に伝えられる機会となることなどがあげられる。課題としては、担当教諭が異動等で変わっても継続していけるように、引継ぎ体制などをしっかりとしていく必要があると考える。



総合学科高校における専門教育の役割と取組 ～キャリア教育における専門教科の役割と課題～

東京都立青梅総合高等学校 総合学科 主幹教諭 一ノ瀬 淳

1 はじめに

東京都立青梅総合高校は、東京都教育委員会が策定した「都立高校改革推進計画」に基づき、平成18年に都立農林高校と都立青梅東高校を発展的に統廃合して創られた西多摩唯一の総合学科高校で、今年で8年目を迎える。多彩な授業や体験活動を通して進路意識を涵養し、自らの進路を開拓し、夢を実現していく学校である。旧農林高校の誇った都立高校随一の広大な校地と充実した施設・設備を生かし、『文化・理科』『生命・自然』『食品・健康』『環境・資源』『生活・福祉』の5つの系列分野を設け、自分の興味・関心や進路に合った授業を選択することができる。これを基盤に、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を中心に自分を見つめ、社会を知り、学びを見つけ、どのように生きていくのかを考えるキャリア教育を実践している。専門教科では、学校設定科目である「自然と農業」「自然と環境」各2単位の農業科目を全生徒が履修し、農業や環境について学び、様々な体験や実習をしている。家庭科は家庭基礎と選択科目で食物や被服、福祉に関する学習を行っている。また、本校所在地青梅市の姉妹都市であるドイツ・ボッパルト市の高校との相互短期交流留学などの国際理解教育や小笠原での自然体験活動なども実施している。

2 産業社会と人間 ～夢を見つける～

「産業社会と人間」（以後産社と表示）は、総合高校では1年次の必修科目として、全ての総合高校で実施されている。産社では、人間関係形成領域〔①自他理解力・②コミュニケーション力〕、情報活用能力領域〔③情報収集探索能力・④職業理解力〕、将来設計領域〔⑤役割把握認識力・⑥計画実行能力〕、意思決定領域〔⑦選択能力・⑧問

題解決能力〕、4領域8能力を身に付けさせことを目指している。本校では、『自分を知り、他者を知ること』『社会を知り、世界を知り、将来を考える。』『卒業までの予定を立て、人生の計画を立てる。』の3目標を掲げ実施されている。入学直後に、本校演習林のある御岳山フレッシュマンキャンプでは、学校を知り、仲間理解を深め、総合高校生として心得を学ぶ。自らを知る適性検査や職業調べ、社会を知るキャンパス訪問等に取り組み、進路実現に向け、2年次の自分だけの時間割作りを行なう。3学期は卒業後どのような夢を持ち、生き方をしていくかを考え、総まとめとして、ライフプラン発表会を行なう。



ライフプラン発表会

3 『自然と農業』・『自然と環境』～体験する～

『自然と農業』は、一年次生の必修修農業科目で、生命、自然、食品、環境、資源分野について様々な角度から、体験を通し食の大切さや環境・農業の役割や重要性を理解させることを目指している。一学期はエダマメやトウモロコシ、マリーゴールド、ペチュニアなどの野菜や草花の栽培管理について学習し、茶摘みや製茶体験も行う。2、3学期は秋野菜の栽培、フラワーアレンジなど園芸分野の他に、ロールケーキ、マドレーヌなどの

食品製造の基礎についても学習する。

『自然と環境』は、地域の環境保全から地球規模の環境問題まで、広範に基礎的知識を習得させ、水田や森林を対象に、農業・食料・環境の関連性・重要性について体験を通して理解させることを目指している。本校の敷地外にある城前農場水田や黒沢演習林が有効活用されている。



自然と環境・田植え実習

4 選択科目 ～学ぶ～

2年次より、100科目以上の選択科目から進路希望に応じ、自分だけの時間割を作る。2年次は12単位(6科目)、3年次は20単位(10科目)が選択可能である。

系 列	主な選択科目
文化・理科	日本史A, 日本史B, 地理A, 政治・経済, 倫理, 音楽Ⅱ, 書道Ⅱ, 工芸Ⅱ, 美術Ⅱ, 器楽Ⅰ, 色彩理論, ハングル, フランス語, ドイツ語, 中国語, 時事英語, コンピュータ会計, マルチメディア, プログラミング入門, コンピュータ検定, 国際理解, 起業家精神, 秘書検定, 日本文化A, B
生命・自然	野菜園芸, 草花園芸, 果樹園芸, 生物活用, フラワーデザイン, ハーブ入門, 植物バイオテクノロジー, ガーデニング, 作物, 微生物利用, 動物科学, 野菜, 果樹, 草花
食品・健康	陸上競技Ⅰ, 室内球技A, 剣道Ⅰ, ダンス, トレーニングⅠ, 食品製造, 食品化学, 微生物基礎, 茶と文化・栄養調理, 食品衛生, 食品学入門, 食品栄養, 製菓実習
環境・資源	森林レンジャー入門, 森林総合, 地球環境, 木工, ウッドクラフト, ガーデンデザイン
生活・福祉	発達と保育Ⅰ, リビングデザイン, ファッション造形基礎, 子どもの発達と保育Ⅰ, 家庭看護入門, 3年次看護数学, 発達と保育Ⅱ, テーブルコーディネート, 服飾手芸, 被服製作Ⅱ, 保育実習研究, 介護福祉援助技術, 介護福祉実習, 手話, フードデザイン, 食文化, ファッション造形, 子どもの発達と保育Ⅱ

主な系列と選択科目



選択科目 『保育実習研究』保育実習

5 総合的な学習の時間 ～将来を考える～

総合的な学習の時間は、2年次1単位、3年次2単位で実施され、最終的に卒業論文作成を行っている。産社で学んだ「自己」を土台に、生徒自らが興味関心あるもの及び進路系列に関するテーマを決め、自ら計画立案し研究する。調査・研究方法は多様であり、収集データから考察を行い、1万字程にまとめる。クラス毎に発表を行い、各クラス優秀者が発表する全校発表会を実施している。また、卒業論文は、推薦入試やAO入試等にも活かされている。

6 終わりに

本校卒業生の約半数は大学・短大へ進学し、残り35%専門学校へ、数%が就職となり、卒業時の進路決定率は90%以上となっている。多様な進路希望は、総合学科の特色だと考えている。科目選択の際専門科目の学習が出来ること、女子在籍数が65%を占め地元出身者が多いこともあり、看護、保育、栄養、調理、製菓、美容理容などの資格取得できる進路先への進学決定者が多い。また、農林高校の礎を活かした教育基盤もあり、農業分野についても農学系大学・短大や動物系専門学校への進学者が毎年10名程度いる。以上が、母体の農林高校の伝統と、総合高校としての新しい成果である。今後は、キャリア教育のさらなる整備を進めると共に、普通科目同様に専門科目についても学力スタンダードを確立し、資格試験等を取り入れ専門教育の一層の充実を図ることが、生徒の可能性の伸長に肝要である。



多様化した生徒に対する進路実現を図る 専門教育の取り組み

～本校の国際工学科における工芸教育と社会福祉技術への取り組み～

日本工業大学駒場高等学校 工業科長 松 林 孝

はじめに

本校は、常に実社会のニーズに対する即戦力の育成を柱に、創立以来 106 年の工業教育を実践してきた学園である。昭和 42 年には本校が母体となって日本工業大学を設立(東武動物公園駅下車)学校法人日本工業大学として附属中学・高校及び大学院を有する学園として法人組織された。

今回、本紙面をお借りする機会を頂いて、入稿するに当たり熟慮した結果、本学園の運営計画に基づいて歩んできた工業教育の変遷そのものが、取りも直さず標題の答えである。1～7 項に本学園の「工業教育」の変遷を要約することで、その蓄積された「生徒の進路実現を図る専門教育の取組」をご理解頂きたい。とりわけ、本稿では平成 17 年から取り組んだ「国際工学科」について 8～11 項の報告を以って私見を述べさせていただく。

1、ものづくり教育（インターンシップの魁）

昭和 40 年頃まで卒業生から仕事を受け、これを教材とした生産実習を学園内で実践していた。

2、就職への進路（伝統の強み）

本校の伝統の強みを以って現在も希望業種への実現を達成している。

3、大学進学への進路（併設の日本工業大学）

昭和 42 年の設立によって、昭和 47 年以降の大学全入時代の到来に対応してきた。

4、飛び級の導入（文科省:教育研究開発指定校）

昭和 12 年より教育研究開発指定校の委嘱。高校との接続カリキュラムの実施によって高校在学中に大学単位を認定する科目を高校カリキュラム上に設定、高校在学中に先行履修することで高校大学を計 6 年間に短縮する取り組み。

5、知的財産教育（特許庁:実験協力校）

平成 7 年より、「工業所有権テキスト」活用の実験協力校として、知的財産教育の一端を担い「産業財産権」である特許取得を工業高校生初の「電子特許出願」のかたちで果すと同時に、進路に繋がる教育カリキュラムに反映した。

6、新設学科による進路（理数工学科）

理数工学科は、平成 17 年から工業科機械 / 建築 / 電子情報システムに加えて新設。日本工業大学大学院と他大理工系大学への進路を目指す。

7、普通科の併設（他大文系 / 理系進学への進路）

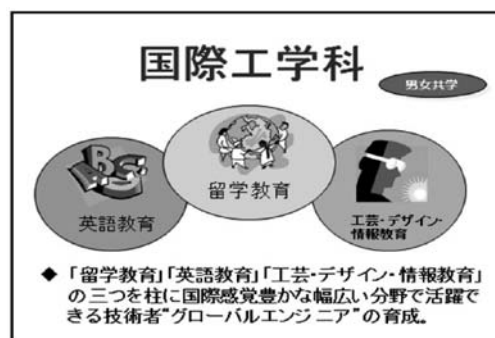
普通科は、平成 20 年より工業専一の冠を外し工業科との併設の道を歩むこととした。

【新設「国際工学科」の専門教育と進路実現】

平成 17 年から、理数工学科と共に新設した学科ですが、その特色と進路について報告致します。

8、国際工学科は、今後ますます必要とされる

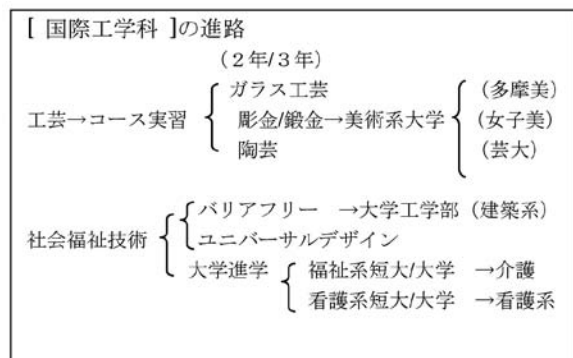
国際社会で活躍できるエンジニアやクリエイターの育成を目標にしています。



「国際工学科」では実習内容に特色を持せました。学年進行で体験する間に、興味関心を持ち進路にも影響を及ぼしている報告です。

本学科は、語学／留学／工学を 3 本柱として展開しています。

「語学」は外国語の単位数の強化ですが、「留学」では2年次に全員参加の「カナダ短期語学研修」で臨んでいる。この短期留学に期待して入学する生徒もいて、この2年次の4週間の留学体験を将来の進路にいかす生徒もみられる。



2年次からのコース選択では、三つのコース「ITコース/クラフトデザインコース/インテリアデザインコース」に別れます。

このコース実習は、生徒自身も入学前から「コース内容」や「留学」の事を期待していますから、実際に体験することで進路に直接つながる可能性を大きく含んでいます。

ITコースは、卒業までにアプリケーションソフトやPCの分解組立等の技術を習得します。従って、実際にIT関連の仕事に従事する進路希望者が多いことになります。

9、留学への進路（カナダ長期留学）

本学園で運営されるカナダキャンパスにTOEFL免除で長期留学が出来る進路です。

10、芸術系への進路（美術大/多摩美/芸大etc）

クラフトデザインコースは、陶芸や日本古来の伝統工芸「とんぼ玉/サンドブラスト/彫金/鍛金」と言った「ものづくり系」に特化しているコースのため進路は、アクセサリー・アパレル系の専門学校進学、更に上級の、芸術系大学進学（女子美/多摩美/武蔵美/芸大etc）を目指します。



インテリアコースでは、ほとんどが日本工業大学建築学科への進学を希望します。比較的多い例ですが高校卒業後カナダ留学（2年間）を経て、日本工業大学の3年次から編入を果たす生徒。

英語力・コミュニケーションを身に着けることで、卒業後の進路の選択肢が更に広がります。

11、社会福祉技術

本科目は2単位で設定している。内容は「ふくし」全般と関連して発生する介護福祉機器の情報、デザイン、整備etcを勉強する。これによって現在までに介護/看護を進路にしたケースもある。ハイテク技術の導入には目覚ましいものがある。当然、バリアフリーやユニバーサルデザインの文言を外して建築設計やデザインは語れない時代である。従って、大学の建築系に進む人にとってはタイムリーな予備知識となる。



12、結言

前述の通り、本学園の運営計画と社会的背景に基づいて積み重ねて蓄積した「工業教育の変遷」こそが、本校の財産であり「多様化した生徒の進路にフレキシブルに対応」することが出来る最大の理由である。即ち、1～7項の蓄積した財産が、本学園にしっかり定着している事を再確認する結果となった。

また、「国際工学科」における進路の拡大についても、「多様化した生徒の進路実現」の実績として受け止めて頂きたい。

今後も本校がここまでの経験則から学んだ、技術教育の有用性を活かして生徒の進路実現に取り組んで行きたい。



「生徒の進路実現を図る専門教育の取り組み」

安部学院高等学校 校長 安部 元彦

1. はじめに

東京都北区にあります安部学院高等学校です。本校は、昭和15(1940)年4月に「滝野川第一商業女学校」として、安部元章により創立されました。

昭和19(1944)年に「滝野川女子商業学校」と改称しました。

昭和25(1950)年9月に、現在の北区栄町35-4へ移転し、「安部学院高等学校」と改称。現在に至ります。

平成25年度に創立満73年となり、平成25年3月の時点での卒業生は、14,319名を数えます。

2. 挨拶の励行

初代校長・安部元章、二代校長・安部恵一は、「学業成績は悪いよりは良い方が良いに決まっている。でも、社会に出たら、学校での成績よりも、気持ちの良い挨拶を出来ることが大切になる。」と、常日頃から言っていました。

私立学校はそれぞれに建学の精神を持っていますが、本校では「5つの挨拶」を人間教育の中に取り入れています。

- * 「おはようございます」
- * 「さようなら」
- * 「有り難うございます」
- * 「ごめんなさい」
- * 名前を呼ばれたら、「はい」の返事

この「5つの挨拶」は簡単なことのように思えますが、実際に声に出してみようということは意外と難しいようです。

本校でも、教職員一丸となって挨拶の指導に力を入れています。3年かけて何とか「挨拶の出来る生徒」を育てたいと願っています。

相手に対して挨拶がきちんと出来ると、挨拶をした自分も気持ち良くなるもので、生徒にはこのことを体験して欲しいとも願っています。

3. 資格の取得

本校は商業高校ですので、他の商業高校と同じように必然的に「検定・資格の取得」という目標が出てきます。

本校へ入学してくる生徒の多くは、学業面での苦手意識・コンプレックスを持っています。

初代も二代目も「評定2という成績は、勉強が出来ないのではなく、やっていないだけ。頑張れば、理解できるし、成績もきちんと取れる。」とよく言っていました。

そこで、まず基礎的な部分を復習し、苦手意識を無くすようにしています。その中から「やれば出来る」という気持ちが生まれてきます。

そして、簿記・電卓などの公の検定を取れるようになると、生徒は「やれば出来る」という自信を強く持つことが出来るようになります。せっかく商業科の学校へ入学したのですから、

- * 1つでも多くの資格を取ること
- * 1つでも上の級の資格を取ること
- * 1人でも多くの生徒が合格すること

を目標として、資格の取得について頑張らせたいと考えています。

実施している検定試験は下記の通りで、在校生には、「資格の取得」ということを通して、大きな自信を持ってもらいたいと願っています。

- * 商業科目…簿記、電卓、ワープロ
- * 一般教科…英語、ペン字
- * その他……秘書、サービス接遇

5. 進路指導

本校に於いても、ここ最近は就職希望者よりも進学希望者が多い状況になっています。

大雑把な内訳は、就職；25%、進学；65%、その他・未定；10%となります。

昭和から平成に変わる頃では、90%以上が就職希望で、進学希望者は殆どいなかったもので、様子は変わりました。

卒業後の進路を意識するために、2・3年生で校内・校外での進路説明会へ行かせるようにしています。

例年、3年生の卒業試験が終わった後の2月中旬に「3年生からの進路報告会」を実施しています。

これは、就職や進学を決めた3年生が、進路決定に至るまでに経験したことを、2年生へ伝えるものです。

成功談だけでなく、失敗談や反省点も含めて、次に控える下級生たちへアドバイスをします。

「進路報告会」は、実施して10年以上にな

りますが、話す側の3年生の代表生徒には、原稿作りや発表という面で良い経験となります。

また、聴く側の2年生にとっても、年代の近い上級生からの実体験に基づく話を聴くことは、普段の教員から受ける指導とは違う面があり、3年生の話を真剣に聴く姿が印象的です。

2年生の年度末には「適性検査」も行い、検査結果を通じて、生徒本人だけでなく、保護者の方にも子どもの適性・特徴を知って頂きます。

最近は携帯電話やパソコン等の影響か、コミュニケーションを苦手にする生徒、漢字の読み書きや一般常識が低下していることといった課題が、見受けられます。

6. 最後に

本校は、決して規模は大きくない、こじんまりとした学校です。

創立者の思いを引き継いで、社会で役立ち活躍する人材を1人でも多く育てていきたいと願っています。

最後になりますが、東京都産業教育振興会、そして関係する企業・団体・学校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



キャリア教育の充実による進路実現への取組

～ストーリーベースドラニング教材を用いた社会人基礎力の養成～

日本電子専門学校校長 古賀 稔 邦

1. はじめに

本校は、「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する。」という建学の精神のもと1951年に創立し、以来60年以上に渡り一貫して電子技術関連の専門職業人教育を行ってきた。現在、電気・電子技術はもとより、IT・情報処理からゲーム、コンピュータグラフィックス、アニメといったデジタルコンテンツクリエイターの育成まで、昼間部23学科、夜間部6学科を設置している。

昨今、産業の高度化やアジア諸国の台頭による産業の空洞化など、若者を取巻く就業環境は厳しさを増している。現在、企業から専門学校生に求められているものは、専門的な知識・技能に加えて、コミュニケーション能力や課題対応能力といった社会人としての基礎力である。専門的な知識・技能の教育については、これまでの永年の蓄積により、産業界や高等学校など本校を取巻く関係者から一定の評価を頂いている。

本校では、企業が求めている基礎力を養成するために、株式会社ウチダ人材開発センタとの産学連携により、物語を通して学習する教材「ストーリーベースドラニング」(Story Based Learning: 以下SBL)を開発し、平成25年度よりカリキュラムに導入している。

2. SBLの概要

コミュニケーション能力や課題対応能力といった基礎力の養成には、アクティブラーニング(能動的学習)という学習形態が効果的であるとされている。アクティブラーニングの代表的なものは、プロジェクトベースドラニング(Project Based Learning: 以下PBL)であり、専門職大学院などで、高度な知識・技術を修得した後に、そのまとめとしてPBLが行われるケースが多い。しかし、実際のプロジェクトを進めるためには、その前段としてプロジェクトに応じた専門性が

不可欠で、入学間もない学生には適していない。SBLは、物語によって現実には起こりうる場面を作り出し、登場人物等とのロールプレイング(疑似体験)によって学習を進めていく、課題対応型の能動的学習アプローチである。

3. 開発教材について

今回開発したSBL教材では、PBLやその他のアクティブラーニングへの移行に向けて、特に専門的な知識・技能がない初年次生を対象に、日常生活で直面する様々な問題をテーマに設定。グループでのディスカッションやプレゼンテーションを通して、経済産業省が提唱している社会人基礎力を向上させることを目的としている。

社会人基礎力(経済産業省)

能力	能力要素
前に踏み出す力	主体性、働きかけ力、実行力
考え抜く力	課題発見力、計画力、創造力
チームで働く力	発信力、傾聴力、柔軟性、 状況把握力、規律性、 ストレスコントロール力

1) ストーリーの背景・登場人物

今回開発した教材は、ある情報系専門学校の1年生クラスを対象に、クラス担任と4名のクラスメートを主な登場人物としている。物語のテーマは、日常の学園生活、チーム課題、学園祭や体育祭などの学校行事、インターンシップなど、専門学校生に身近な題材を設定している。

2) 教材の構成

教材は、90分×15時限(2単位)を、基礎編、応用編、実践編の3部で構成している。

■基礎編(1～6限): 直面する課題とその課題に対して各登場人物の判断・行動・発言が示される。自分だったらどの登場人物に最も近いのか、またグループとしては、誰に賛同するかを決定する。

基礎編の課題例

設問5 スポーツフェスティバルの実行委員

スポーツフェスティバルの実行委員の募集が始まった。

スポーツフェスティバルは学校全体で盛り上がる大運動会だ。学年を越えて、学科を越えて、いろんな人と知り合えるチャンスでもある。実行委員はその準備から、当日の進行までを担う重要な役割だという。

広報スタッフの仕事は毎回同じことをきっちりこなす、というタイプのものだが、スポーツフェスティバルはテーマやポスターなど「今年ならでは」を話し合い、決め、実行するという、またひと味違う経験ができるらしい。広報スタッフにもなっているのも忙しい、とも思ったが、広報スタッフの先輩の中には、スポーツフェスティバルの実行委員にもなっている人もいるとのことだけど、どうしようかな。

こんな時、あなたなら、下記の4人のうち、誰の **判断、行動、発言** を支持しますか？



(心の声) スポーツフェスティバルの実行委員のほとんどは放課後の活動か……。広報スタッフの仕事と重なることはないみたいだな。ただ、「今年ならでは」を話し合うって言うけど、1年生の意見はまた通りにくいだろう。なんでもかんでも足を突っ込んで、結局みんな中途半端になったら本末転倒だから、オレの答えは「No」。日々、自分で決めたことをしっかりやる、それが一番いいよな。



(心の声) 水樹さんに誘われて参加した広報スタッフは、確かにいい体験ができています。スポーツフェスティバルの実行委員も違う体験ができることはよくわかるけど……。1日は24時間、1週間は7日間、その中で何を優先し、何を優先しないかは大事な問題だ。スポーツフェスティバルの実行委員になった時の忙しさのシミュレーションもしてみたりして、慎重に考えていこう。



(心の声) キター。広報スタッフは水樹さんのうるうるした目にやられて、すっかり応募しちゃったけど。なんてったってフェスティバル、ワタシの心を躍らせるのは祭りじゃない！！でも、去年の種目をみると「大玉送り」じゃなかったけど、運動会なのに「大玉送り」がないなんてあり得ない！もうぜったいスポーツフェスティバルの実行委員になって、種目の一つに入れてもらわんから！



(心の声) 先輩の体験入学のとき親切に教えてくれた先輩も、スポーツフェスティバルの実行委員やっているとって言ってたなあ。仕事を任されて頼りにされる、というのなら好きだけど、新しくいろいろ考えるのは苦手だから、足手まといになるのも申し訳ない気もする……。でも、中原先生は「学校生活は意外に短いので、今の自分にはないものにもチャレンジするように」ってよく言ってるし、応募してみようかな……。

また、社会人基礎力12の能力要素のうち、どの能力を発揮することが最適かもグループで討議する。

上図は、基礎編の実際の課題である。

■応用編(7～11限)：課題は示されているが、基礎編の様な登場人物の判断・行動・発言はない。各自で、自身の解決策を見出し、その後グループでの解決策および発揮する能力要素をまとめる。

■実践編(12～15限)：教材では、グループで取組むプロジェクト(ビジネスモデルの作成とプレゼン)の物語が示されており、その物語に沿って、各グループで同様のプロジェクトに取り組む。

3) 社会人基礎力診断

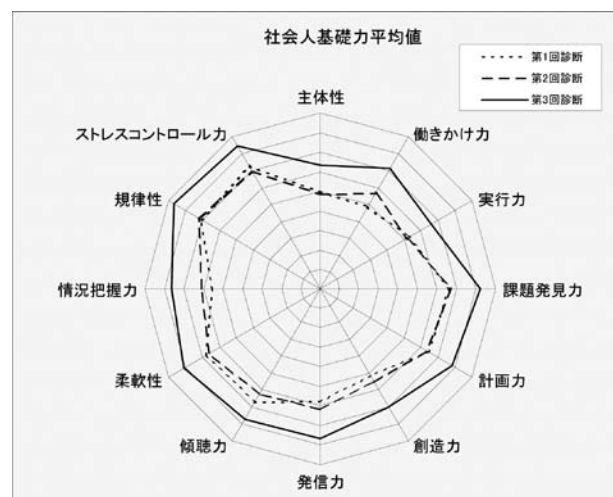
学習の開始時、応用編終了時、実践編終了時の3回、自己評価による社会人基礎力診断を行っている。測定は、経済産業省が示している各能力要素の到達レベルを、非常に当てはまる(5)～まったく当てはまらない(1)の5段階で行っている。

診断設問の例<主体性>

「物事を達成するために、できるだけ自分一人で解決しようと試みている。」

診断結果は、レーダーチャート(図2)で示す。

社会人基礎力診断の表示例



4. 今後に向けて

本原稿執筆時では、まだ最初の学生の学習途中であり、最終結果は確認できていない。この教材で学習した学生の今後の成長を把握しつつ、教材の課題(物語)の充実や社会人基礎力診断方法等、更なる改善を図る所存である。



自動車整備士資格を取得した若者の 業界ニーズの変化について

東京工科自動車大学校 校長 佐藤 康夫

1 まえがき

自動車における公害の防止、環境の保全及び安全性の確保は、国土交通省の道路運送車両法により推進されている。さらに自動車の登録や整備についての技術の向上に併せて自動車の整備事業の健全な発達にも関わり、自動車のリサイクル促進、リコール制度、不正改造などに関しても法改正が行われている。その中で、自動車の整備に関わる技能水準の向上と自動車整備体制の充実については、自動車整備士検定制度により国家資格として位置付けられている。その内容は三級から一級までレベル分けされ、実務経験等により受験資格が定められている。日本の基幹産業である自動車業界に従事している人は現在 540 万人であり全就業人口の約 8.7% にのぼる。その中で、自動車の構造機能をはじめ搭載されている機器類のシステム及びその点検・故障診断に至る専門的な知識や法的知識の修得を認められているのは、この自動車整備士資格が唯一であるが、その取得者数は一割にしか満たない。環境・エネルギー問題を背景とした次世代自動車への転換期を迎え、また安全性向上に伴う自動車技術のさらなる高度化など、技術の進化は留まることを知らない。さらに、自動車がエコやスマートなどをテーマとして他業種との関連が深まる中、自動車業界における人材ニーズがどのように変化してゆくか、またその中で自動車整備士を取得した若者の活躍の場がどのように変化してゆくかについて考察したい。

2 自動車技術の変化と整備士数の推移

昭和 24 年に自動車整備士検定制度がスタートして以来、分解整備作業に従事するため自動車整備士は三級取得者が主を占め、作業の完成検査を担う二級整備士はごく僅かであった。しかし、図 1 のようにオイルショックがあった昭和 48 年からの本格的な排出ガス

規制により車の構造が一変した時代、3 級整備士と二級整備士の数が逆転している。これは資格そのものと仕事の位置づけが変化したわけではなく、自動車技術の変化に対応して、自動車整備士の人材ニーズが大きく変化したものである。

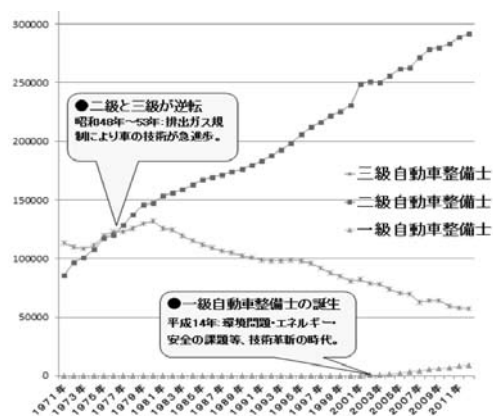


図 1 自動車整備士数の推移

この時の排出ガス浄化対策と燃費性能向上策により車の機能が大きく変化したものを列記すると①電子制御燃料噴射システム②触媒採用、空燃比制御による排出ガス浄化③コンピュータの多用化が挙げられる。これら従来に比較して格段に進歩した自動車技術に対応するため、自動車整備士の技術スキル向上が人材ニーズとして求められた結果である。その後も走行安全性向上のための ABS(アンチロックブレーキ) およびエアバックの標準化などさらなる技術革新が続き、自動車ディーラーにおける新卒採用では二級整備士資格取得が求められるようになった。また、自動車整備専門学校が国土交通省認定の一種養成施設として人材教育を拡大しこれに拍車をかけた。近年では平成 14 年に、自動車整備士検定試験スタート以来約 50 年目にして初めて一級自動車整備士試験が実施された。環境・エネルギー問題が国際的な課題となり、国の施策として

もCO₂削減に取り組み、自動車の燃費基準もさらに厳しいものになり、ブレーキ時のエネルギーを回収し動力として活用も可能な電気モータを搭載したハイブリッド車の市販化が始まった時期である。一級整備士に期待される役割は①電子装置、低公害車の普及等による高度な整備技術への対応②ユーザーへの正確で分かり易い情報の提供をするための整備士の先導的な役割③リサイクルの推進、環境保全に向けた取り組み等である。

3 自動車整備技術の高度化検討会

一級自動車整備士が誕生して10年が経過する2013年現在、一級自動車整備士合格者はまだ約9000名しかいないが、自動車はさらなる環境・安全技術の進化によって電子制御による新技術の利用が汎用化してきている。これに合わせて国土交通省では自動車整備技術を高度化するための検討会が実施され、第一回報告書によると電子制御装置の故障診断を推進するためスキャンツール(システム状態や故障コードを読み取る機器)の汎用化およびそのスキルの技能向上を図るための研修が提案されている。さらに、これらの知識を習得した一級整備士の役割や位置づけが重要となることが確認されている。



図2 整備技術の高度化への対応事項

4 今後の自動車産業変化とニーズ

現在急速にハイブリッド車、電気自動車が普及している背景には、CO₂削減と化石燃料の限界を想定したエネルギー問題を政府が政策的に取り組んでいることがある。今後いわゆる次世代自動車が普及することに

よって自動車産業界の構図も大きく様変わりしてることが予想される。電化化による部品の変化やインフラの整備、特長を生かした交通システムの変更等、様々な分野でその対応が検討されている。産業の構造の変化とともに仕事の内容が変化し、今までの人材ニーズに変化が現れ、また新しい仕事については、新たな人材ニーズが必要となる。

次世代自動車戦略2010(2020年・2030年普及見通し/政府目標)

乗用車車種別普及見通し(民間勢力ケース)			乗用車車種別普及目標(政府目標)		
○メーカーが販費削減、次世代自動車開発等に最大限の努力を行った場合の民間勢力ケースについて普及見通しを推計。 ○乗用車の車種別普及率(注1)は、2020年で20%未満、2030年で30～40%程度。			○次世代自動車の普及加速のため、政府が目標すべき車種別普及目標を設定。 ○2020年の乗用車の販売台数に占める割合は最大で30%。 ○この目標実現のためには、政府による積極的なインセンティブ施策が求められる。		
	2020年	2030年		2020年	2030年
従来の車	80%以上	60～70%	従来の車	50～80%	30～50%
次世代自動車	20%未満	30～40%	次世代自動車	20～30%	50～70%
ハイブリッド自動車	10～15%	30～30%	ハイブリッド自動車	20～30%	30～40%
電気自動車	5～10%	10～20%	電気自動車	15～20%	20～30%
プラグイン・ハイブリッド自動車	僅か	1%	プラグイン・ハイブリッド自動車	～2%	～3%
燃料電池自動車	僅か	～5%	燃料電池自動車	～2%	～3%
クリーンディーゼル自動車	僅か	～5%	クリーンディーゼル自動車	～5%	5～10%

図3 次世代自動車の普及目標(経済産業省)

さらに、文部科学省では3年前より「成長分野における中核専門人材養成の戦略的推進事業」を進めており、この中の環境・エネルギー分野において平成25年には「自動車分野職域プロジェクト」がスタートし、より具体的に自動車産業界の将来の姿を見据えた人材ニーズの明確化が期待されている。このように、今後は自動車産業の変革および他産業との融合、そして新しい産業の出現など、自動車技術者の活躍の場は広がる傾向になり、現状では人材不足が予想されている。自動車整備士資格取得者は、その中でも専門的な知識・技能を有した自動車専門の技術者であり今後の自動車産業を担う位置づけになると思われる。

5 あとがき

自動車は今後も我々の生活に欠かせないものとして存在するであろう。自動車整備士は、自動車や社会環境の変化に対応してその位置づけを変えてきた。それは、社会からの要請でもあり、我々自動車大学校は人材ニーズに対応した職業教育を提供できるよう引き続き研究し取り組んでゆく必要があると考える。

参考文献

- [1] 国土交通省 自動車技術の高度化研究会報告書(2012)
- [2] 経済産業省 次世代自動車戦略2010



中学校技術・家庭科教育に期待されるもの

練馬区立豊玉第二中学校長 長 南 良子

1 はじめに

毎年実施される東京都産業教育振興会主催の作文コンクールと、入選作品集「明日に生きる」の発行を楽しみにしています。多くの作文には、体験や人との出会いなどをとおして得られ芽生えた勤労観や職業観、生き方についての発見などが生き生きと綴られています。そして、その作品の中の中学校での技術・家庭科の授業での体験学習を見逃すことができません。技術・家庭科の担当者として、この上ない喜びを実感します。そして、改めて技術・家庭科は、キャリア教育と深くつながっていることを認識します。

2 技術・家庭科教育とキャリア教育との関係性

技術・家庭科は、教科としての目標はひとつですが、技術分野と家庭分野の2分野で構成されているため、分野ごとの目標もあります。そして、技術・家庭科の目標と両分野の目標は、キャリア教育の目標と大きく重なっています。したがって、技術・家庭科の目標と両分野の目標の実現を目指すことが、「キャリア発達」（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を促すことに深くつながります。

以下は『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』（平成20年9月）に示された教科及び両分野の目標についての解説から、キャリア教育と特にかかわりの深い箇所を示したものです。

<技術・家庭科の目標>

○従来の実践的・体験的な学習活動の内容を吟味し、仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせるなど、

充実感や成就感を実感させるとともに、学習内容と将来の職業の選択や生き方とのかかわりの理解にも触れるなど、生徒の実態に即した内容や活動を準備し、自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習を一層充実させることが重要である。

<技術分野の目標>

○以上のような技術分野の学習は、工夫・創造の喜びを体験する中で、勤労観や職業観、協調する態度などを併せて醸成するものであり、それは、これからの社会で主体的に「生きる力」の育成を目指して展開されるものである。

<家庭分野の目標>

特に中学生の時期は、生徒が生活の自立を目指す中で、人々に支えられて生活していることに気付くことや自分も家庭生活を支える一員としての自覚をもち、生活をよりよくしようとする態度を育成することが大切である。

3 技術・家庭科ならではの働きかけ

技術・家庭科の両分野では、先の目標を受けて、次のような働きかけを両分野共通で、長期的・計画的に取り入れることが求められています。

<両分野共通の働きかけ>

●問題解決的な学習を通して、生活上の課題を計画的に解決するために課題対応能力の基礎や、主体的に対応できる能力や態度をはぐくむ。

●実践的・体験的な学習活動を通して充実感や成就感を実感させる。

- 集団活動などを通して、集団の一員としての自覚や役割をもたせ、協調性や責任感をはぐくむ。
- 卒業後の職業教育との関連、将来の職業の選択や生き方のかかわりなどを理解させる。

＜両分野の留意点＞

技術分野では、技術と社会や環境とのかかわりを理解させながら、勤労観や職業観、倫理観、協調性、忍耐強さなどをはぐくみ、技術的な視点で吟味する能力や態度をはぐくむことが重要です。家庭分野では、生徒自身の生活と、地域や社会生活とのかかわり、環境とのかかわりなどを理解させながら、家庭や社会の一員としての自覚や役割をもたせ、生活の自立を目指すことで、「キャリア発達」との関係性につながります。

こうした働きかけは、技術・家庭科ならではのものです。3年間を通じて、促すことが大切です。

4 実践から

家庭分野ならではの働きかけを生かし、キャリア教育との関連性をもたせた取り組みを紹介します。

＜家庭分野：第3学年＞

○保育園での体験学習「幼児と触れ合おう」



* 保育園児に絵本を読み聞かせる生徒の様子

■授業のねらい

保育園児との触れ合う活動をととして、乳幼児への関心と理解を深めることの大切さに気付くとともに、かかわり方を具体的に考えさせる。

■キャリア教育との関係性

- ・ 人間関係の大切さに気付くことができる。
- ・ 家庭や地域の一員としての自覚や役割をもつ。
- ・ 幼児に関わる職業（幼稚園教諭・保育士等）について知る。

＜家庭分野：第1学年＞

○生活の課題と実践「お弁当づくり」

■授業のねらい

問題解決的な学習としてのお弁当作りをととして、食生活への関心と理解を深め、食生活の課題を主体的に解決する能力を養う。

■キャリア教育との関係性

- ・ お弁当の特色として発生する制約が、問題解決的な学習につながり、課題対応能力の基礎や主体的に対応できる能力、態度をはぐくむ。
- ・ 家庭の一員としての自覚や役割をもつ。
- ・ 食物や食事に関わる職業に関心をもつ。



* 巻きずしのお弁当を作っている生徒の様子

5 まとめ

新学習指導要領の実施により、技術・家庭科の授業時数は、選択教科としての時間が無くなったことにより減少しました。勤労観や職業観、生き方について考えることのできる教科であることを自負している上で、授業時数の減少は非常に残念です。今後は、より一層授業時間を大切に、教科及びキャリア教育の目標達成のために、価値ある学習にしなければならいと強く受け止めます。



学生の進路実現を図る高専教育の取り組み

—国際的に活躍できる技術者の育成を目指して—

東京都立産業技術高等専門学校副校長 田原 正夫

1. 新たな高専の誕生

都立の高等専門学校は、学校教育法の改正を受けて昭和37年に2高専が設置され、中学校卒業後の若いうちから、理論と実践を踏まえた技術者教育を行い、産業界から求められる優秀な中堅技術者を輩出してきた。しかし、産業構造の変化や専門分野の高度化、複合化は目覚ましく、高等専門学校もそうした変化に対応して変革をする必要に迫られてきた。こうした時代の要請にこたえて、都立の2高専は平成18年4月、従来の東京都立工業高等専門学校と東京都立航空工業高等専門学校が発展的に統合され、新たに東京都立産業技術高等専門学校として開校した。更に平成20年には設置者が東京都教育委員会から公立大学法人首都大学東京へ移管され、新高専は総合大学と専門職大学院大学を擁する公立大学法人傘下の高専となった。

本校の使命は「首都東京の産業振興と課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」であり、同一法人内の他の大学、大学院大学とともに、東京都の高等教育施策を総合的に担いながら、ものづくりを支える技術者を育てる高等教育機関としての位置付けが明確に示された。

新高専は、学科を再編し、新入生は入学時にキャンパスのみを選択し、1年間ものづくりの基礎を学んだ後、2年次からの両キャンパスにまたがる8コースについての教育内容を十分理解した上で、1年次の最後に進級コースを選択する。品川キャンパスには主として基礎工学系4コース、荒川キャンパスには応用工学系4コースが設置されており、学生は、1年次の所属キャンパスにかかわらず、8コースの中から自分の進級コースを希

望と成績により選択できる。特に荒川キャンパスにはロボット工学コースや航空宇宙工学コース、医療福祉工学コースといった全国の高専では見られない特色ある工学コースが設置されていることは本校の特徴の一つである。2年次以降は各工学コースのカリキュラムに従ってそれぞれの専門領域の理論とものづくり技術を習得させ、創造的な実践的技術者として育成してゆく。こうした5年間の教育の上にさらに2年間の課程を持つ専攻科が設置されており、修了生は大学評価・学位授与機構の審査を経て学士号が取得できる。又、本科5年を卒業した学生の約4割は専攻科及び大学の3年生に編入学しており、キャリアパスの1つとして大きな位置づけになっている。

2. 高専卒業生の進路

本校の卒業生の就職については、産業界からの期待もあり、大学卒業生と比してもきわめて順調である。最近の状況をみても1人あたり約7社の求人があり、本人の希望と意欲をもとに就職している。最近の本校で実施した企業アンケートによれば、回答していただいたほぼ84%の企業が本校の教育に満足していると答えている。又、外部評価をお願いしている企業関係者等からなる運営協力者会議から「産業界から見た育成する人材像」という答申をいただいております、今後のカリキュラムの改定の際に、この答申内容を反映させてゆく。

3. 高専のインターンシップ

高専は、新高専発足当時からインターンシップをキャリア教育の重要な1つとして位置づけてきた。本科は、就業体験を目的として4年の夏休み

に1週間から2週間の期間で主として近隣の企業等で実施しており、参加者で合格と認められた者については単位を認定している。一方専攻科については、課題発掘型のインターンシップを全員に課しており、企業における研究・開発および製造現場における仕事の体験を通じて、指導教員とともに自分の研究テーマを発掘してゆくことを目指している。

更に、海外で活躍できる技術者の育成を目指して平成26年度から東南アジア諸国の日系企業において海外インターンシップを実施することになり、平成25年度からその準備に入っている。

4. 国際化について

本校では、国際社会で活躍できる技術者の育成を目指して、高専の国際化について平成20年から積極的に踏み出した。昨年までは、英語教育へのネイティブ教員の積極的な登用や海外語学研修旅行の実施、国内の外国人学生との交流事業を行ってきたが、昨年度から新にシンガポールのNgee Ann Polytechnicと提携を結び、学生国際交流事業を開始した。又、首都大学東京と産業技術大学院大学、高専の3つの高等教育機関の学生がチームを組んでアジアで調査活動をする取組（GCPプログラム）を今年度から行っている。更に前述のように、来年度から東南アジアの日系企業において海外インターンシップを実施する準備を進めている。来年度は10名の学生を派遣し、それ以降は順次その数を増やしてゆく。

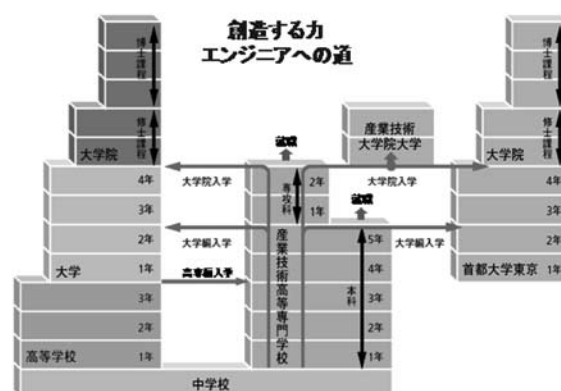
我国がいわゆる知識基盤社会に移行する中で、高等教育は本来有すべき国際性や国際的な通用性が求められてきているが、今後、技術者教育についても、その国際的な通用性が今まで以上に求められると考えられる。東京都は「2020年の東京」の中で「世界に羽ばたく人材を輩出する」ことを目標に掲げている。こうした、高等教育の大きな流れの中で、法人の国際化戦略と連動しながら、高専としての国際化を積極的に進めることが本校の将来にとって重要であると考えている。



5. 東京都の複線型教育システムの充実を

前述のように本校は平成20年に公立大学法人首都大学東京に移管され、新たなスタートを切った。このことは本校の将来にとって極めて重要な意味を持つことになった。

同じ法人内に総合大学である首都大学東京と専門職大学院である産業技術大学院大学があることから、これらの教育機関と連携することにより、今までの教育体系の主流である「中学→高校→大学（学部、大学院）→産業界」というルートのほか、工業高校から高専への編入学や高専専攻科から大学院への進学など、高専を通じて産業界へ多様なレベルの人材を輩出することが可能になった。



科学技術立国を目指す我国では今後10年間に、十万人の技術者が不足するといわれている。産業技術高専は、他の同じ法人内の大学や大学院と連携し、こうした産業界のニーズに積極的に応えとともに、国際的な通用性を持つ技術者を育てていくことが使命であると考えている。



都立専門高校の新たな事業を活用した 農業教育の取組

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 平 柳 伸 幸

1 キャリア教育の重要性

学習指導要領の総則第5款の4「職業教育に関して配慮すべき事項」の(3)では、「学校においては、キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得よう配慮するものとする。」としている。また、平成23年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、専門学科における職業教育の推進方策について「地域の産業・社会を担う人材を育成するためには、学校を卒業しても自らの力を発揮できるような実践性が必要である。このため、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域・社会との連携を図り、体験的な学習や地域企業と連携を図った現場での長期間の実習等を通じて、実践的な教育活動を積極的に実施することが必要である」と示された。

就業体験は、生徒が産業現場等で直接、技術・技能に触れることにより、学習意欲の喚起、主体的な職業選択の能力や高い職業意識の育成、異世代とのコミュニケーション能力の向上など、その教育的意義は大きい。職業に関する学科では、従来から「課題研究」や各科目の実習の一部として、就業体験が行われてきたが、更に生徒の進路実現を図るためには、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮しながら産業現場等における長期間の就業体験を積極的に取り入れたキャリア教育を推進していくことが重要である。

2 都立専門高校の新たな事業

(1) 高校生夕張キャンプの取組

高校生夕張キャンプは、東京都と北海道夕張市の自治体間連携モデル事業の一環として平成24年度から実施している。実施に当たっては、高校生夕張キャンプに参加する専門性の高い高校生を選抜するための「選抜大会」を実施する。今年度は農業5チーム、工業6チーム、商業6チーム、家庭2チーム、計19チームが参加し、「日常の学習成果と夕張支援」というテーマの下、研究・開発部門、広報・PR部門、食品部門の3部門に分かれてプレゼンテーションを行い、代表校6校を選抜した。



選抜大会でのプレゼンテーションの様子

選拔された6校（都立練馬工業高校、都立多摩科学技術高校、都立工芸高校、都立六郷工科高校、都立忍岡高校、都立農芸高校）の生徒30名は、7月23日から26日までの間、JA夕張市での夕張メロンに関する学習や夕張メロン農家での農作業体験、株式会社夕張ツムラの工場見学、夕張市の高校生との地域貢献活動などを行った。特に夕張メロンを栽培している農家での農作業体験

は、夕張市でしか体験することのできない就業体験であり、農家との交流を通じて、職業観やコミュニケーション能力等を高めることができた。

高校生夕張キャンプの取組は、専門高校の生徒一人一人の専門性を高めるとともに、社会人・職業人として自立して生きていくためのキャリア教育を推進していく上で、効果的な教育活動である。今後も専門高校で学ぶ生徒たちが高校生夕張キャンプの取組を通して、自己の進路実現に向けて成長していくことを期待している。



夕張メロン農家での農作業体験の様子

(2) 都立専門高校技能スタンダードの策定

東京都教育委員会は、平成 24 年 2 月に策定した「都立高校改革推進計画 第一次実施計画」に基づき、都立専門高校の生徒の専門性の向上を図るため、専門高校において生徒が身に付けるべき、専門分野に関する主な技術・技能の具体的な内容を「都立専門高校技能スタンダード」として策定した。本スタンダードは、技能スタンダードⅠ（技術・技能編）と技能スタンダードⅡ（資格・検定編）で構成されている。都立専門高校は、本スタンダードを基に、具体的な目標として自校の技能スタンダードを作成し、社会が求める専門的な技術・技能の確実な習得と有用な資格取得の取組を促進することにより、将来の東京の産業を支える人材を育成していく。また、平成 27 年度からの全校実施に向け、平成 25 年度は先行実施する推

進校 10 校を指定し、学科の特色に応じた具体的な技術・技能の習得目標を明示し、校内で組織的・効果的な指導を行うことにより、生徒の専門性を最大限向上させる実践的な研究を推進している。

以下に本スタンダード（農業）平成 25 年度版の一部を紹介する。

①技能スタンダードⅠ（技術・技能編）

食品製造

【基礎】 「クッキー、ジャム類、うどん、マヨネーズなどの食品を安全に製造、製品化することができる。」

【標準】 「発酵パン、菓子パン、スポンジケーキ、豆腐、饅頭を安全に製造、製品化することができる。」

②技能スタンダードⅡ（資格・検定編）

食品系

【A】 全ての生徒に目指させる

「日本農業技術検定 3 級」

【B】 多くの生徒に目指させたい

「食品衛生責任者講習」

3 まとめ

今回、都立専門高校の新たな事業として、高校生夕張キャンプと都立専門高校技能スタンダードを紹介した。いずれの事業も農業教育をより一層充実させていく上で重要な事業である。特に高校生夕張キャンプをはじめとする就業体験の機会を各校が積極的に設けていくことが今後、生徒の進路実現を図る上で必要である。現在、多くの都立農業系高校では、2 学年を中心に 3 日間から 4 日間、園芸農家や動物園、造園会社、食品会社等での就業体験に取り組んでいるが、学習指導要領において、「職業に関する各教科・科目については、就業体験をもって実習に替えることができる」と明記されたことから、産業現場等における長期間の実習を多くの農業科目で取り入れた実践的な農業教育を推進していく。

東京の産業界



未来を担う次世代への貢献

～持続可能な社会実現のために天然ガスができること～

東京ガス株式会社 学校教育情報センター所長 庄 司 武

1. 経営理念～チャレンジ2020ビジョン

『東京ガスグループは、天然ガスを中心とした「エネルギーフロンティア企業グループ」として「快適な暮らしづくり」と「環境に優しい都市づくり」に貢献し、お客さま、株主の皆さま、社会から常に信頼を得て発展し続けていく』

これが当社の経営理念です。

また、この理念を具現化するための企業行動理念として以下の7つを掲げています。

- ① 公益的使命と社会的責任を自覚しながら、企業価値を増大させていく。
- ② 常にお客さま満足の向上をめざし、価値の高い商品・サービスを提供する。
- ③ 法令およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって、公正かつ透明な企業活動を行う。
- ④ 環境経営トップランナーとして、地球環境問題の改善に貢献する。
- ⑤ 良き企業市民として奉仕の精神を深く認識し、豊かな社会の実現に貢献する。
- ⑥ 絶えざる革新により、低コスト構造で、しなやか、かつ強靱な企業体質を実現する。
- ⑦ 一人ひとりの「能力・意欲・創意」の発揮と尊重により、「活力溢れる組織」を実現する。

そして2011年には「エネルギーと未来のために東京ガスグループがめざすこと～チャレンジ2020ビジョン～」を策定し、LNGバリューチェーンの高度化を図り前述の経営理念の実現をめざしています。

2. 毎日がCSR。

『毎日がCSR。』社会の期待に応える毎日の業

務そのものが、CSRにつながっている・・・こんなポスターが当社の事務所には貼られています。特別なことではなく、日々の仕事を通して世の中に対する社会的使命を果たすというのが当社のCSR（企業の社会的責任）です。

現在、「エネルギーセキュリティの向上」「環境への貢献」「地域社会への貢献」をCSRの重点項目とした活動を展開し、これらの活動を通して社会の“持続的成長”に貢献することを心がけています。

3. 持続可能な発展

昨今、“持続可能な発展”“持続的成長”等の言葉をよく耳にすると感じていらっしゃる方も多いのではないかと思います。

昨夏の猛暑や豪雨は、まさに地球温暖化をはじめとした環境問題に真剣に取り組まなければならないということの啓示でした。

また、3.11の東日本大震災および福島第一原子力発電所の事故は、日本のエネルギー問題を一気に露呈しました。

さらにもう少し振り返ってみると、われわれは高度経済成長と公害問題、石油危機とバブル景気等々・・・わずか一世紀（100年）に満たない間に様々な変化を体験してきました。これらの体験を通してわれわれの環境やエネルギーに対する考え方は変わってきています。経済成長優先の考え方は、その支えとなっている環境とエネルギーの問題を抜きにしては考えられないということが一人ひとりの意識の中に芽生えました。

すなわち、「経済の成長・発展」は「エネルギー資源の確保の大切さ」「エネルギー利用が及ぼ

す環境への影響」と密接な関係にあるということ
を常に考えなければならないということを歴史から
学んだのです。

4. 教育界の動き

この変化の流れを受けて学校教育界ではE S D
(Education for Sustainable Development：持
続可能な発展のための教育)の取り組みが活発に
なっています。これからの未来を担う子供たちに
持続可能な発展のため、この地球で生きていくこ
とを困難にするような問題について考え、立ち向
かい、解決するための学びです。

教育の内容は多岐にわたりますが、この中で最
近注目されているのが「環境教育」「エネルギー
教育」です。

また、現行の学習指導要領は「生きる力」の養
成を柱とし、「基礎的な知識・技能」の習得「自
ら考え、判断し表現する力」の育成をポイントに
しています。

このE S Dの活動および指導要領のポイントを
かけあわせると、「環境やエネルギーについての
知識・技能を習得し、自ら地球環境に貢献するた
めに考え・行動する」子供たちの育成が今後の教
育界の大きな課題であるといえるでしょう。

5. 東京ガスの学校教育支援活動

当社では2002年よりエネルギー環境教育を中
心とした学校教育支援活動を実施しています。都
市ガスの原料である天然ガスはその環境性・供給
安定性・効率性等がクローズアップされ注目をあ
びています。

われわれは、『毎日がC S R。』との考えから、
「持続可能な社会実現のために天然ガスができる
こと」をテーマに、未来を担う次世代への貢献と
いうミッションのもとさまざまな活動を日々展開
しております。

エネルギーや環境についての講義・体験を行う
出張授業、先生方に対する知識・情報提供や施設
見学(研修会)、調べ学習をサポートする学習サ
イトや各種教材さらには企業館の活用等、先生や

子供たちにガスや環境に関する“おどろき！”と
“なるほど！”をご提供しています。



6. 未来へ・・・

環境問題やエネルギー問題は、あまり意識しな
いでも生きてこられた・・・少し前までの日本は
こんな感じだったのかもしれませんが。しかし今は
そしてこれからはこの二つの問題を常に考えなが
ら生きていくことが求められています。

特にエネルギー問題については、混沌とした状
況が続いています。なぜこの混沌とした状況が続
くのでしょうか？それはエネルギーについて考え
るという風土が未成熟なことに起因すると推察さ
れます。

また、エネルギー利用については単一かつ絶対
的・恒常的な正解を導き出すことは大変困難です。

より良い未来を創るためには・・・少し時間か
かるかもしれませんが、一人ひとりがエネルギ
ーや環境のことについて自ら気づき・自ら考え・
自ら行動するという文化を醸成することが着実な
方法であると思います。

未来に続くこと、未来へ続けること・・・これ
まではごく当たり前のことでしたが、今その大切
さが問われています。



食べる為に仕事をするのか 仕事をする為に食べるのか

株式会社 昭和理化 取締役 中村 義次

当社は消防用設備・弱電設備の工事・保守を創業昭和37年より50年続けて参りました。消防用設備及び管理には、いろいろな資格が必要です。

消防設備士・消防設備点検資格者

防火安全技術者・防火対象物点検資格者

防火・防災管理者等です。

＜消防設備士＞ 国家試験

建築物に用途・規模に応じ、下表の様な設備を設置する為、8種類の免状が必要です。

消防用設備士免状の種類		消防用設備等の種類
工事又は整備	整備	
甲種第1類	乙種第1類	屋内消火栓設備
		スプリンクラー設備
		水噴霧消火設備
		屋外消火栓設備
甲種第2類	乙種第2類	泡消火設備
甲種第3類	乙種第3類	不活性ガス消火設備
		ハロゲン化物消火設備
		粉末消火設備
甲種第4類	乙種第4類	自動火災報知設備
		ガス漏れ火災警報設備
		消防機関へ通報する火災報知設備
甲種第5類	乙種第5類	金属製避難はしご
		救助袋
		緩降機
	乙種第6類	消火器
	乙種第7類	漏電火災警報器
甲種特類		特殊消防用設備等

＜消防設備点検資格者＞

特種・1種・2種の3種類

それぞれ種類ごとに3日間計9日間講習

火災はいつ発生するかわかりません。いつでも正常に作動又は使用できる様、法定点検が必

要です。

＜防火安全技術者＞ 4日間講習

既存建物のリニューアル・用途変更等に伴う防火安全上のチェックを行うものです。

＜防火対象物点検資格者＞ 4日間講習

一定規模・用途の建物に防火管理上必要な業務・消防法令により義務付けられている消防用設備の設置・維持等について基準に適合しているか定期点検するものです。

＜防火・防災管理者＞

甲種（2日間）乙種（1日講習）

建物の火災を予防するとともに、火災・地震・その他災害等による人命の安全及び被害を軽減する為の管理です。

＜災害は忘れた頃にやって来る＞

＜経営理念＞

我が国の産業発展に伴い多様化する火災及び、地震・災害から国民の生命・財産を守るべく、設備の設置、維持、安全管理の基、安心して生活できる社会育成を目標に努力する所存です。

＜ものづくり日本＞

もともともものづくりは、人類が生きてのに食べ物を得る為、道具をつくりました。

そして便利で安心・安全・快適な生活を求めて衣・食・住が進歩してきました。

しかし昨今は、その進歩の陰に利益追求を求める為、本来あるべき安全・安心・快適が脅かされる弊害がでてきました。

人はものをつくる為に生きているのではなく、食べる為に生きているのではないのでしょうか。

“貴方は仕事をする為に食べているのですか。
食べる為に仕事をしているのですか”

病気・事故・災害・犯罪から身を守るのに、
何が必要なのでしょう。

利益追求のものづくりで家庭が守れず病気になっ
たり、事故にあったりするのは本末転倒だと思
います。

本当に生物に必要な物は、何なのでしょうね。
原点にもどって、考えてみたいと思います。

＜教育はまず家庭から＞

子供の環境は悪化していると思います。

(ケイタイ・パソコン・インターネット・ゲ
ーム・ソーシャルネットワーク等)

この環境で何が大切なのか教え理解してもら
うのは大変な事だと思います。

この様な社会にした大人の責任はいかなもの
のでしょうか。

家庭が一番近い教育の場所です。

忙しく余裕のない状況でも、家族と顔をあわ
せて言葉を交わし、団欒のなかで最低限度のし
つけをする事が大切なのではないのでしょうか。
昨今家庭内の会話が不足している様に思いま
す。難しいことですが、小さな事を1つ1つ丁
寧に積み重ねていく事が大切だと思います。子供
は親の背中をみて育つと云われています。義務
を果たさず、権利を主張する事のないようにし
たいものです(私も含めて)

＜学校の生徒諸君へ＞

私事ですが、私は今の仕事を初める時家業の
手伝いで好きではありませんでした。辛い事も
沢山ありました。しかし将来性のある仕事なの
で何とか続けたいと思い辛い事や難問を少しで
も解消しようと考えた時、解消する方法を工夫
する事にしました。

こうしたら、ああしたら、いやこっちかなと
考えて実行していくと楽しくなりました。私達
の若い頃は職業も今程多様ではありませんでし
た。今はいろいろな職業があります。“駕籠に

乗る人、担ぐ人、そのまた草履をつくる人”

仕事は楽しいものです。自分に合う仕事を探
し、決めたら辛い事も楽しくなる様、創意工夫
をし、1つの仕事を最後まで貫けば必ず満足を
得る人生を送ることができます。苦労を肥やし
に夢と希望を持って、生きていきましょう。涙
の後には笑いがあります。

＜終りにあたり＞

今ではやりがいのある仕事にめぐりあえた
とおもっております。

多様化している災害に対して多くの資格と知
識・経験が必要な我が業界です。

現状では会社が社員の教育を実施してあり
ますが当社を含め零細企業が多く、なかなか行
き届きません。

幸い当社は社員が20年30年と退職もせず
頑張ってくれております。

いろいろな専門学校がありますが、消防行政
の専門学校が現在1校も有りません。

今後レベル向上と安定した技術者の供給の
為何とかして専門学校をつくりたいものと思っ
ています。微力ながら行動を起こしていく所存
です。



情報スクエア



平成 25 年度高校生夕張キャンプ第 I 期 「夕張メロン等農産物の流通体験と現地交流活動」

東京都立工芸高等学校長 松本 光正

1 はじめに

高校生夕張キャンプは、東京都の自治体間連携モデル事業の一環として、東京都の高校生を対象に、夕張市民との交流を深め、夕張市の自然、歴史、文化、施設、産業等を直接体験することを通して、未来への洞察力、発想力、行動力を培うなど青少年の健全育成の実現に貢献することを目的として、今年で2年目となる。今年度は、昨年度の農業、商業系の高校に加え、工業、家庭系の専門高校を対象とし、研究・開発部門、広報・PR部門、食品部門の3部門で、「日常の学習成果と夕張支援」をテーマに、平成25年6月22日(土)、プレゼンテーションによる選抜大会が実施された。17校、19チームの参加があり、都立練馬工業高校、都立多摩科学技術高校、都立工芸高校、都立六郷工科高校、都立忍岡高校、都立農芸高校の6校が参加校に選ばれた。

私は、第I期の団長として、7名の引率教員、5名の事務局員と共に、都立高校生徒30名を引率した。関係各位の御理解と御尽力により、参加生徒は貴重な体験をし、3泊4日の日程を無事に終了することができた。

2 高校生夕張キャンプ第I期の概要

(1) 高校生夕張キャンプ第I期の目的

夕張メロンの流通・販売体験などで夕張市の様々な魅力に触れるとともに、北海道夕張高校生と交流し、夕張市の魅力を表現した商品や広報を開発・研究するための情報収集を図る。

(2) 高校生夕張キャンプ第I期日程

平成25年7月23日(火)～26日(金)3泊4日

(3) 主な見学・体験場所

J A夕張市、夕張メロン栽培農家、夕張ツムラ、

北海道夕張高等学校、石炭博物館等

(4) 宿泊場所 合宿の宿「ひまわり」

3 開会セレモニー



開会セレモニーで、鈴木直道夕張市長、金子一彦東京都教育庁指導部長を始め、多くの方からの激励により、生徒たちは東京都の代表であるとの自覚を一層強くし、選抜大会で発表した内容を夕張市の皆様に発表することにより、キャンプの目的と参加意欲を伝えることができた。

4 農業体験と流通体験、夕張ツムラ見学・体験

夕張メロン栽培農家での農作業体験では6班に分かれ、最盛期のメロン出荷作業のお手伝いを行い、農家の方と和やかな交流と行うことができた。J A夕張市ではメロン栽培の講義や選果場での流通見学を通して、夕張の風土のもとで工夫しながら栽培し守り育ててきたブランドとしての夕張メロンへの思いと誇りを知ることができた。



夕張メロン農家での出荷体験

夕張ツムラでは、夕張工場で漢方の生産施設や貯蔵施設を見学した後、漢方や会社の経営の講義を通して地域産業として新たな「農業」を創出する動きを知るとともに、様々な漢方から生薬の抽出実験や試飲などを行うことで、生徒にとって新たな刺激的な出会いの場となった。



生薬の抽出実験

5 テーマに応じた現地調査

今回の参加校のテーマは、広報・PR部門では、夕張の魅力を広報するためのロゴマークの開発やサテライトショップの運営、ご当地アニメーションの制作、食品部門では夕張特産である夕張メロン、花豆、長いもなどを用いた商品開発、研究・開発部門では、ナノバブル水などを活用した近未来型農業の提案、木材を活用した銘板制作でした。2日目の午後に、夕張市内の各地を訪問し現地調査を行った。実際に夕張を訪れて、東京で考えた企画や商品開発に更に改善、工夫が必要であると生徒は実感することができた。その後、現地で得た情報をもとに、夕張の魅力を表現した企画や商品開発を続行し、秋に報告を行なった。

6 北海道夕張高等学校との交流

3日目の午後、北海道夕張高等学校を訪問し、開会式で夕張高校生による夕張太鼓や吹奏楽部によるウェルカムコンサートの歓迎を受けた後、夕張高校生と一緒に近隣の地域での草刈りボランティア活動で汗を流した。夕食では草刈り体験のグループ同士が同席となり、高校生活や夕張での生活などについて意見を交わすことで交流を図ることができた。



草刈りボランティア

7 まとめ

昨年からはじめた高校生夕張キャンプに今回参加した農業系、工業系、家庭系の専門高校の生徒にとって、専門高校で学習していることの意義や役割を改めて再認識するとともに、地域社会や産業の発展のために何ができるのかを考えることにより、課題を解決するための洞察力、発想力、行動力を培う機会に接することができたことは、非常に得がたきキャンプであった。

また、今回の3泊4日のキャンプを通して、夕張の自然、文化、歴史、産業に直接触れることにより、生徒たちは、地域社会の持つ重要性和魅力を感じることができたと考える。東京の生活ではなかなか地域について身体感覚で捉えることが難しい状況であるが、夕張の高校生との交流や地域に溶け込んでの現地調査、体験などを通して、生徒たちは地域社会の役割について肌を通して理解した。言うまでもなく、それぞれの地域社会が元気で活性化していることが、日本全体の社会を活性化させる。夕張や東京を始め、自分たちの住んでいる地域の視点から社会への貢献を考えていくことが、スペシャリストとしての人材の育成につながっていく。専門高校で身につけた専門性をどのように深化・活用させていくのか、自分たちができるところから社会のために何をするのか、今回のキャンプを通して、これから未来を背負っていく高校生にとって、充実した体験になったと確信している。



第23回全国産業教育フェア愛知大会での取り組み

東京都立荒川商業高等学校 主任教諭 早田 智 洋

今日の日本経済を取り巻く環境として、経済のグローバル化や国際競争力の激化、産業構造・就業構造の変化、また、少子高齢化の進展に伴う労働力人口の減少など、日本社会はますます激しく変動してきている。また、東日本大震災からの復興とともに日本経済全体の活力を取り戻すためには、地域の力を高め、地域産業の活性化を図ることが不可欠となっている。地域産業を担う専門的

な職業人を育成する専門高校に対する期待は、ますます高くなってきており、我が国の将来社会を担う専門高校生は、学校で

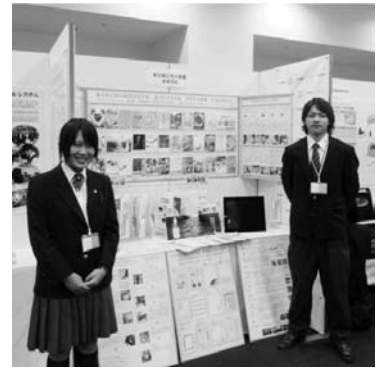


習得した知識や技術を活かし、地域の産業社会、そして、日本の産業社会の活性化を図る将来の担い手として活躍を期待されていることは間違いない。

このような社会環境の中、全国産業教育フェアは、専門高校で学ぶ生徒たちが全国から集まり、日ごろの学習の成果を発表する晴れの舞台として、文部科学省の主催で平成3年から毎年開催されている。本校は、自校の特色ある教育活動の素晴らしさを全国の高校生、教育関係者、広く社会一般の方々に知っていただく良い機会ととらえている。

産業教育フェアとは、農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉・総合学科・特別支援学校などの専門高校で学ぶ全国の生徒たちが学習成果を発表する祭典である。

第23回全国産業教育フェア愛知大会では、「感じよう産業の魅力伝えようものづくりの心」をキャッチフレーズに、課題研究等で制作し



た作品や研究成果の展示・実演、小学生を対象とした仮想の街で職場体験や消費の仕組みを学習するキッズビジネスタウンの実施、学校で生産した農産物の展示販売、フラワーアレンジメントコンテスト、ロボット競技大会、知財学習成果の研究発表、ビジネスマナー実演、ガーデニングコンテスト、などが行われた。

東京都立荒川商業高等学校は、東京都足立区の西部に位置し、北に荒川、南に隅田川が流れ、情緒あふれる場所にある。地域には中小の工場と住宅、大型マンションが立ち並んでいる。また、最寄りの都電小台停留所を中心に広がる多くの商店街は、毎日、賑わいをみせている。

平成14年度からは、これまでの商業科・情報処理科を廃止し、総合ビジネス科を立ち上げた。総合ビジネス科とは、1年生で商業に関する基礎的な科目を学習し、2年生から自分の興味・関心・進路・適性に応じた系列を選択し、専門性を高めることのできることに特徴があり、5つの系列には、マーケティング・情報・デザイン・会計・ビジネスがある。

また、平成17年4月、本校は教育活動の活性化を図るため、全校生徒を社員とした模擬株式会

社を立ち上げた。模擬株式会社「レガロ工房」は、ポスターやホームページの制作、シンボルマークやロゴマークのデザインを主な事業内容とした広告企画会社で、「地域交流」・「地域活性化」・「社会貢献」を基本理念としている。



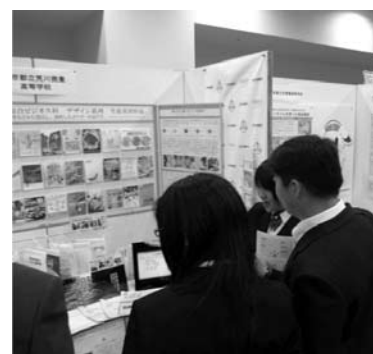
本校の特色ある取り組みを全国の方々に発表する場として、本校は、平成17年度の東京大会「日本科学未来館」から毎年

参加している。今年度は、作品展示に向けて9月から準備に取り掛かった。昨年12月から現在までに取り組んできた内容を振り返り、商店街実習で制作したポスターや各種企業・団体様からご依頼のあった販売促進用ポスターなどをはがきサイズに印刷し、展示することとした。より多くの生徒たちの作品を展示したいと考えると、実寸大での展示では、スペースが足りず、どれもミニチュア版として展示した。地域商店街に採用いただいた商店街フラッグも小さいサイズに制作し直し、地域商店街との連携の流れについても展示した。また、ポスター制作の流れや地域商店街との営業活動から納品までの流れについてのパネル展示も行った。

平成25年11月8日（金）、この日は、会場準備にあたっていたが、会場に到着すると、水産・工業などのブースには、大型の展示物や大漁旗が飾られ、また、受付の生徒の対応の素晴らしさに感動した。展示会場内は、専門別に仕切られており、多くの関係者が展示の準備に取り組んでいた。本校の展示ブースは、会場の一番奥にあり、隣に茨城県立水戸商業高校・都立芝商業高校があった。展示用の大型ポスターを掲示し、生徒が作成した企画書や学校案内、商店街フラッグなどを並べる。本校の準備が終了後は、会場内を散策し、他学科の展示を見に行った。

平成25年11月9日（土）開幕セレモニーがスタートし、会場は盛り上がりを見せていた。10時には、一般の方々の入場が開始され、本校のブースにも多くの方々にご来場いただいた。本校生徒2名が一生懸命に「本校の特色」について説明し、多くの来客があった。本校は、全国的にも注目度が高く、鋭い質問も寄せられた。作品展示のブースには、生徒が立ち説明にあたっており、展示校同士交流を深め、それぞれの地域の特徴や素晴らしさを語り合っていた。文部科学省教科調査官永井克昇氏や西村修一氏、愛知県の知事にもお越しいただいた。

平成25年11月10日（日）展示2日目、愛知県内の高校に呼びかけがなかったせいもあり、地元の高校生が多数来場した。初日は、教職員・教育関係者・一般の方々など大人の方が目立っていた。持参した学校案内200部が2日間で無くなり、多くの注目を集めていたことがわかる。2日目の最後には、配布する学校案内もなくなり、来ていただいた方に渡すことができず残念であった。



平成25年度の学習指導要領の改訂にともない平成27年度には、「広告と販売促進」「商品開発」「電子商取引」などの科目が実施される。そうした中、本校の取り組みは、全国的にも注目度は高く、この2日間を通じて、多くの方々にご来場いただくことができたのではないかと考える。本校の特色ある取り組み、また、模擬株式会社「レガロ工房」の取り組みを全国に発信することができたものとする。次年度以降についても、産業教育フェアの場を活用し、全国に本校の取り組みを発信することは、大変重要であると考えたとともに、東京都立商業高等学校全体の発展のためにも、その責任を果たしていくべきだと考える。



都立芝商業高校「模擬株式会社 芝翔^{しばしょう}」 の活動をととして

東京都立芝商業高等学校 主幹教諭 久保 静生

東京都立芝商業高校は、大正13(1924)年に設立され、平成26(2014)年に創立90周年を迎える学校である。本校は、商業教育を核とした教育活動を通してグローバル化する社会環境の中で、自立することのできる人材の育成を使命とし、人権尊重・社会貢献の精神を育み、勤労意欲に溢れ、正しい職業観と社会性を持った人間を育成することを目指している。そこで、学習指導の取り組みとして、基礎学力の向上、実社会を知るビジネス教育の推進、役立つ技術・技能の習得と検定・資格の取得、国際的な視野を広めることなどを目標とし、それぞれ具体的な方策を掲げ実践している。

平成25年11月9日(土)・10日(日)に開催された「さんフェア愛知2013」への参加についても、生徒にとって産業の魅力を肌で感じるとともに、将来の自らの在り方生き方について考える機会となっている。そして、その体感は、参加生徒から全校生徒へと還元することができている。

「さんフェア愛知2013」では、作品展示部門において、本校の「模擬株式会社 芝翔(しばしょう)」の取り組みを紹介するとともに全国の高校生と情報交換を行った。本校は、企業が必要とする人材の育成を目標に、実践的な教育に力を注ぐため、2年生の学校設定科目および3年生の原則必修科目「課題研究」の中の「模擬株式会社 芝翔」の講座において、模擬株式会社を運営している。実際の企業の方と交渉をすることや、校内販売を行うためにオリジナルパンの企画、メーカーとの値段交渉、販売促進のための広告等の制作など、ビジネスのさまざまな場面を体験し実践している。第9期となる平成25年度も、さまざまな取り組みを実践している。

まず、羽田空港で人気の空弁(そらべん)「羽田空港ひとくちおこわ」の商品を企画・販売してい

る企業と商品開発をし、生徒のアイデアを取り入れていただくことができた。今後は、校内や各イベント等での販売を実施することになっている。



【企業の方との商品開発の企画会議の様子】

次に、校内には昼食を購入するところがないことから、「パン等の販売をしてほしい」というニーズがあり、その実現のために、地元で販売経路を拡大したいと願っていた特定非営利活動法人樹林館に製造を依頼し、オリジナルパンの企画・販売を実践している。在校生徒が求めるニーズを的確につかみ、顧客満足を実現し、さらに顧客感動につながるサービスを提供できることを目的に、企画や売上に関するさまざまな分析や販売促進について検討を重ねて、販売回数を増やしている。



【オリジナルパン試作品の作成と評価の様子】

また、商品開発については、本校キャラクター「マリンちゃん」の商標登録と行うとともに、このキャラクターの認知度を高め、さまざまな情報を発信するためにオリジナルのクッキーやゴフレットの商品を開発し販売している。



【本校キャラクター「マリンちゃん」関連商品】

一方、商品開発に限らず、本校では、地域貢献のための企画やサービスを考案し、さまざまなところへ提案している。

本校は、東京都港区に位置し、最寄駅には山手線浜松町駅があり、劇団四季や伊豆七島への発着港の竹芝桟橋がある竹芝地区に立地している。竹芝地区は、特定都市再生緊急整備地域及びアジアヘッドクォーター特区に指定されており、国際金融等の中枢業務拠点である大手町・丸の内・有楽町地区、東京と国内外を結ぶ交通結節点であり国際競争力の高い拠点に囲まれている。また、羽田国際空港から至近の距離にあり、東京の国際競争力強化を目指す拠点として重要な位置にある。さらに、東京湾に面し、地区内及び周辺地域には複数の駅が存在するとともに、旧芝離宮恩賜庭園、浜離宮恩賜庭園といった二つの文化財庭園が存在している。本校の周辺では、汐留の開発に加え、品川・田町の開発や浜松町駅周辺等の新たなまちづくりの動きもあり、こうした背景の下、竹芝地区においても、新たな都市開発への機運が高まりを見せている。そこで、地区内外と連携しつつ、国際競争力の強化に資する開発を推進していくとともに、防災対応力を備えたスマートシティの実現に向けた展開が求められていることから、再開発事業者により、都有地を再開発することになっている。数カ月単位で滞在する外国人ビジネス客向けのサービスアパートメントや英語対応の保育所を設け、職住近接の国際ビジネス拠点にすることや、本校を挟む形になる浜松町駅から竹芝客船ターミ

ナルまでをつなぐ歩行者デッキを造り、観光客の往来を増やしてにぎわい創出につなげることが計画されている。このエリアマネジメント業務に関して、本校も参加させていただくことになっている。これは、本校の今までの教育活動が認められ、模擬株式会社 芝翔における地元への地域貢献活動や、その一環として取り組んだ大阪商業大学主催「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」での学校賞受賞や、日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・グランプリ」での高校生ビジネス・ベストプラン 100 の入選の実績等も高く評価していただいた結果である。模擬株式会社 芝翔では、今後、商品開発事業、エリアマネジメント業務を中心に地域貢献を果たしていく。



【芝商業高校も携わる本校周辺の再開発地区】

「さんフェア愛知 2013」では、このような取り組みを紹介・発信するために参加させていただいたが、参加生徒は、他校の専門高校生等の優れた技術・技能に直接触れることができ、また同時に相互に交流をとおすことで産業教育のすばらしさや大切さを認識することができたことが何よりも貴重な体験となった。

今後、商業科目の「マーケティング」や「商品開発」などを通じて、全国の産業教育に関わる高校から「ヒット商品を生み出す高校」「地域や日本、そして世界へ貢献するサービスを提案・実現する高校」が多く輩出してくるのが楽しみである。商業高校・商業教育、産業教育の大切さを感じる「さんフェア愛知 2013」であった。



第11回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長 加藤 譲司
中央区立佃中学校長

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下のとおりである。

1. 主催 東京都中学校技術・家庭科研究会
2. 後援 東京都教育委員会
東京都産業教育振興会
東京都中学校長会
3. 日時 平成25年11月9日(土)
平成25年11月16日(土) 食部門
4. 場所 東京都立工芸高等学校
女子栄養大学(食部門)
5. 対象者 東京都内中学校に通学する中学生
6. 内容
 - (1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト
東京地区予選(授業内部門・応用部門)
 - (2) 「木工チャレンジコンテスト」東京地区予選
 - (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
 - (4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
 - (5) 生徒作品コンクール東京地区予選
 - (6) 東京都中学校ロボットコンテスト(二足歩行ロボット格闘部門)
7. 開催へ向けて
創造ものづくりフェア in TOKYO も11回を

数え常連校が増えると同時に各中学校に定着した。毎年ながら会場校の校長先生をはじめ諸先生方には多大なるご理解とご支援をいただいての開催である。そして主開催会場を東京都立工芸高等学校へ移して、5年目の実施となる。その実績と経験を生かし会場への機材の搬入等の準備が順調に進められた。また作品展の事前搬入や当日の会場準備にも会場校のご協力をいただきながら、開催へ向けての準備を進められた。今年度も日程調整の結果、食部門のみ日程を分けて2週に渡っての開催となった。



生徒作品展の様子

生徒作品コンクールは、各地区各校で選ばれた作品が直接会場校へ送られてきている。その結果、当日持参分も含めて各地区相当分の作品は出展され、完成度の高い作品が多く見られた。

しかし授業計画との関係により総出品数は昨年同様に減少傾向であった。

開催のスタッフは、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部員を中心に工芸高校会場40名、女子栄養大学会場で25名の体制で準備を進めた。

8. 開催結果

今年の参加生徒数は、見学の保護者を含めると両会場併せて700名



調理風景(女子栄養大)

を超えた。その内訳と各部門の内容は次のとおりである。

＜関東甲信越大会に向けての予選大会＞

○「創造アイデアロボットコンテスト」の授業内部門：中学校技術・家庭科の授業においてロボットを題材とした学習を履修した生徒による作品の部門です。授業での取り組みを想定して、モーター3個まで使用したロボットでゴミをかき集め、一定時間内で相手コートにどれだけ投げ込めるかを競う1対1の競技。26チームの生徒達が参加。応用部門：中学校技術・家庭科で学んだ知識や技能を応用して製作された生徒作品の部門です。主ロボットのモーターは7個まで使用することができ、制限時間内に、自陣エリアにあるアイテム（庭球大のプラボール40個）を相手エリアに送り込む競技である。さらに今年度は自動制御の要素を取り入れ、コート中央にあるビックリドッキリメカエリアに、自動制御で動くビックリドッキリメカ（各チーム製作による）を主ロボット操作により配置することができる。最終的に送り込んだボール数と自動制御ロボ配置による付加ポイントの合計点で競う対戦型ゲームである。42チーム168名以上が参加した。

○当日示された設計図により、決められた大工道具や木工機械を正しく使用し、寸法通り正確に作品をつくる「木工チャレンジコンテスト」には各地区から選ばれた14名が参加した。

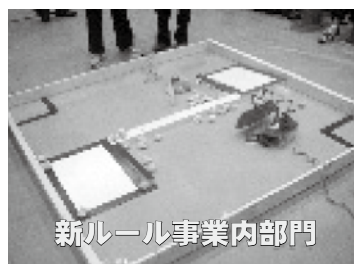
○「生徒作品コンクール」には、各地区で選ばれた技術分野と家庭分野で、合計67作品であった。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、レポートと写真の応募作品の審査を経て、当日の本大会は14校20チーム55名が参加した。

○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール 東京地区予選」では事前選考の4校17作品の参加であった。

＜東京都ロボットコンテスト＞

◇東京都独自として実施したロボットコンテストは、格闘型のロボットが主流になっている。



「格闘部門（団体戦）」は、900 mm × 900 mmのリングで1チーム3台（先鋒、中堅、大将）の2

足歩行ロボット同士が戦う競技である。2勝した方が勝ちになる。引き分けの場合は代表戦で勝負を決める。24チーム72台が参加した。

また、「格闘部門（個人戦）」では61チームの参加により競い合った。

9. 成果と課題

創造ものづくりフェア in TOKYO 全体としては、参加生徒もここ数年一定数おり、中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関等の認識を深められていると捉えている。しかし、部門によっては多少の増減がみられ、全体としては昨年度の減少傾向は回復していない。現指導要領による選択授業の消滅は、授業内部門や作品展への実数減の大きな要因と考えられる。授業内容を工夫改善していくことにより、ものづくりの楽しさや魅力をいかに実感させるかが課題である。来年度のものづくりフェアに向けて、更に魅力的な事業となるよう授業時数を踏まえたルールや運営方法等を改善することにより、興味・関心・意欲を一層高め広めていきたい。また、土曜日に授業を実施する中学校も一定数あり、参加できない生徒がいることも新たな運営上の課題である。

開催会場の東京都立工芸高等学校、女子栄養大学のご理解、そして東京都教育委員会をはじめ東京都産業教育振興会、東京都中学校長会から表彰状をいただいたことは、フェアの盛り上がりと充実に結びついており感謝申し上げる。

第23回 全国産業教育フェア愛知大会

—さんフェア愛知 2013—

感じよう産業の魅力 伝えようものづくりの心

第23回全国産業教育フェア愛知大会（さんフェア愛知 2013）が、平成25年11月9日（土）・10日（日）の両日にわたり、愛知県産業労働センター（ウインクあいち）をメイン会場として、愛知県体育館、刈谷市産業振興センター、刈谷市総合文化センター等で開催された。

ウインクあいち2階の大ホールで9日午前9時30分から始まった総合開会式は、生徒の実行委員による司会のもとで、愛知大会実行委員会会長の挨拶、文科省初等中等教育局長・愛知県副知事・愛知県議会議長等が祝辞を述べた。



また生徒実行委員会委員長が歓迎のことばを元気に述べた。

つづいて大会各部門の表彰に移り、キャッチコピーの部では表題の「感じよう産業の魅力 伝えようものづくりの心」が、マスコットデザインの部ではユルキャラの「とりてんくん」が、ポスター原画の部ではポスターと大会要綱表紙の2点、さらにイメージソングの部等採用された生徒が栄誉を受けた。

開会式後オープニングアトラクションに移り、まず尾張の三英傑に扮した女生徒が愛知県の地理・産業・観光等についてスライドを用いて面白おかしく説明した。次に県内高校のブラスバンド部のマーチング演奏と会場全員合唱等





があり、会場はおおいに盛り上がった。

ウインクあいちの5階から8階までの全フロアでは、2日間にわたって意見・体験・研究発表、全国の専門高校による作品展示・展示即売、体験・実演コーナー等がコンパクトにまとめて展示され、各階の会場は熱気に溢れていた。東京都からは8階商業系の展示場に、都立荒川商業高校の「広告ビジネスにおける作品展示」（本誌 p.34 参照）と都立芝商業高校の「『模擬株式会社 芝翔』の取組み」（同 p.36 参照）が出展された。また9階では全国フラワーアレンジメントコンテストと展示が、10階では全国高校生介護技術コンテストが行われた。

9日午後は、トヨタ自動車株式会社の三輪日出雄氏（デザイン本部・トヨタデザイン部主幹）による「夢を現実へ 白い紙に思いを込めて」と題した記念講演があった。



三輪氏は地元の県立愛知工業高校デザイン科を卒業後、トヨタのデザイン部に入社し、セリカ・クラウン・カローラ・セルシオ・プリウス

等のエクステリアデザインを担当した車デザインのベテランである。ユーザーの価値観をどのように車のデザインに活かすかなど、生い立ちから現在までの仕事について熱く語りかけ、満員の聴衆を感動させていた。

このほかにウインクあいちを会場として、次のイベント等が行われた。

○参加・交流イベント（生徒実行委員会による来場者との交流）

○キャリア教育フォーラム（小中学生を対象とした専門高校等の各学科紹介）

○ファッションショー（愛知県内の家庭に関する学科の生徒による被服製作ファッションショー）

○ビジネスマナー実演（県内のビジネスマナー競技会の優秀生徒の実演と競技内容紹介）

○知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業に関する各校の取組み内容や成果の展示発表

○企業・大学・専門学校等の紹介・展示・実演（協賛いただいた諸団体）

○愛知県ハイスクール・起業家コンテスト（発表と表彰式）

また名古屋市内の愛知県体育館では、第21回全国高等学校ロボット競技大会が、同体育館の屋外亀甲広場では県内ガーデニングコンテストが、どちらも2日間にわたり大盛況のうちにおこなわれた。

刈谷市産業振興センターでは、刈谷会場開会式、技能五輪・アビリンピック選手による実演と展示紹介、県内特別支援学校作品コンテストと展示、同学校フラワーアレンジメントコンテストと展示、ビジネスマナー実演、キッズビジネスタウンあいち（小学生を対象とした職業体験や消費を通じた社会のしくみの学習）などが行われた。

さらに刈谷市総合文化センターでは、全国高校生クッキングコンテスト（全国の家庭系学科で学ぶ生徒による、開・閉会式、コンテスト作品展示等を含む）が行われ、調理実習室は高校生の若さと料理の美味しそうな香りに包まれていた。（山）

第55回 全国産業教育振興大会(愛知大会)

主催 全国産業教育振興会連絡協議会

公益財団法人産業教育振興中央会

会場 愛知県産業労働センター(ウインクあいち) 11階

日時 平成25年11月9日(土) 15:30～17:00

第55回全国産業教育振興大会(愛知大会)は11月9日(土)愛知県産業労働センター(ウインクあいち)で、全国から参集した関係者の出席もと開催された。

開会のことばと、国歌斉唱の後、主催者として浦野光人(公財)産業教育振興中央会理事長と榊原卓三愛知県産業教育振興会副会長が挨拶された。続いて文部科学省初等中等教育局主任視学官と愛知県教育委員会教育長が来賓として挨拶された。

つづいて講演会に移り、「からくりから見たものづくり」と題して、玉屋庄兵衛氏(からくり人形師・愛知工業大学客員教授)と末松良一氏(名古屋大学名誉教授)のお二人にお話をうかがった。

尾張地方は昔からからくり人形が盛んであることや、「からくり」という語は、機械装置全般・仕掛け・仕組み等広い意味を持つ日本特有の言葉で、その代表が「からくり人形」であることをうかがった。「茶運び人形」「弓曳き童子」「竹田からくり芝居」「山車からくり祭」「からくりの改善」等々について、伝統と地域活性化等について熱のこもった講演であった。

講演後、西澤宏繁全国産業教育振興会連絡協議会理事長(都産振会長)を議長として、大会決議文が協議され、右記の決議文が採択された。最後に次年度開催県である宮城県産業教育振興会の白石喜久夫常任理事から決意表明と挨拶があり、大会を終了した。(山)



決 議

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以下「専門高校」）は、我が国の社会、産業の発展を支える原動力として大きな役割を果たしてきた。近年では、地域の産業を支える人材の高齢化や団塊世代の退職に伴い、専門的な知識、技術・技能を身に付けた後継者の育成や、高齢化社会を支える医療や福祉を担う人材の育成が強く求められるなど、専門高校の役割と期待は年々大きくなっている。

一方、高等学校の再編・整備においては、専門高校の統廃合や縮減が進むなど、専門的な知識、技術・技能を身に付けた多くの専門的職業人を必要とするという社会からの要請に応える上から極めて憂慮すべき状況にある。

今日、我が国は、少子高齢化、グローバル化、高度情報化などの進展により、我が国社会は大きく変化している。また、東日本大震災からの復興をはじめ多くの課題を有している。我が国が将来にわたって持続的に発展していくためには、若い人材の力が必要であり、将来のスペシャリスト（専門的職業人）を育てることを目的とする専門高校の充実是不可欠である。

全国産業教育振興会連絡協議会は、全国の専門高校の生徒による第23回全国産業教育フェア愛知大会にあわせ、産業界と教育界の強い繋がりの下、第55回全国産業教育振興大会を開催し、専門高校のより一層の充実・発展に全力を傾け、次の事項の実現に向けて取り組むことを表明する。

一、先端的・伝統的な知識、技術・技能の習得のための教育内容の充実。生徒が取り組む各種検定試験、各種発表会・競技会、特色ある教育活動、及び長期インターンシップの推進及び支援。

一、少人数指導に対応した教職員定数の改善。専門教科担当教員の養成及び採用の拡充。研修機会の確保及び研修内容の充実。力量ある社会人実務経験者の任用、特別免許状の積極的活用。専門高校での教育に不可欠な実験・実習施設、設備の整備推進。東日本大震災被災校に対する施設、設備の早急な整備支援。

一、専門高校卒業生の採用枠の確保・拡大及び地域による格差是正、女子の採用促進など就職支援の充実。

一、大学等の入学者選抜における専門高校の特性を踏まえた「入試教科・科目」の導入、及び各種資格・検定等の取得やインターンシップ等の活動実績を反映した多様な入学者選抜の実施・拡充。専攻科における学修を大学等の単位として認定する制度、及び専攻科を修了した国家資格取得者（看護師、海技士等）の大学又は短大専攻科（保健師、助産師等）への編入学を認める制度の早期実現。

一、専門高校への理解・啓発を図るための「全国産業教育フェア」等への支援・充実。保護者の経済的負担の軽減を図るための就学支援等の充実。社会的・職業的自立に資する小学校段階からのキャリア教育の推進。生徒の個性を尊重した中学校における進路指導の充実。

以上決議する。

平成 25 年 11 月 9 日

第 55 回全国産業教育振興大会（愛知大会）

報 告

平成25年度 総会・功労企業表彰 報告

平成25年度総会・功労企業表彰及び講演会が6月3日(月)午後2時から、都庁第二本庁舎31階特別会議室21において開催されました。

来賓として(公財)産業教育振興中央会専務理事の富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会副会長の後藤哲様(東京都立農産高等学校長)、東京都公立中学校長会副会長の榎本智司様(新宿区立新宿中学校長)をお迎えしました。

開会にあたり、西澤宏繁会長から「先日、産業教育振興中央会の総会があり、最近の動静についてということで、中教審が出した第2期教育振興基本計画についてお話がありました。その中で職業教育への目配りが、少しずつ具体化されていると感じました。震災や様々な社会現象を受けて、現場で頑張ってくれている人たちの重要性や、フリーターなどの課題が長年の日本の大きなテーマであることなどについて理解が深まり、具体的な対応が議論され、案としていろいろなものが出てきつつあるように感じています。専修学校についての記述もあり、良い傾向であると思います。

産業教育振興会では皆様のお力を借りて、地道ではありますが着実に役割に立てるように、ご尽力をいただけてやっていきたいと思ひます。何卒今年度もよろしくお願いしします」との挨拶がありました。

引き続き、常任理事の直原裕都立学校教育部長からは次のような挨拶がありました。

「本会は産業界、教育界、行政が協力しながら産業教育の振興に寄与するということを目的に発足して半世紀以上が経っています。これまでの成果を我々の代で更に進めて行きたいと考えています。これまで、デュアルシステムの導入や、産業高校等の新しいタイプの学校をつくるなどの取組を進めてきました。しかし、年々減少してきているものの、未だに多くの生徒が中途退学しているなどの課題があります。そこで昨年2月に新しい高校改革を進めていく計画を策定しました。

その一つとして、この4月に都立専門高校技能スタンダードというものを策定いたしました。これは、専門高校の生徒が在学中に身に付けるべき技能、資格の目標を明確にしたものです。

今後とも引続き、産業界と教育界が一体となって、

産業教育の振興に取り組んでいきたいと思っています。忌憚のない、ご意見・ご指導をいただければ幸いです。」

来賓を代表して富岡逸郎様よりご挨拶を頂いた後、西澤会長を議長として、事務局から6議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案どおり承認されました。(総会資料等承認議案は会員企業・学校等に配布済みです。)

本年度の役員を紹介いたします。

会 長	西澤 宏繁(留任)
副 会 長	久保村昭衛(留任)
同	金子 昌男(留任)
同	徳田 安伸(新任)
理 事 長	比留間英人(新任)
常任理事	直原 裕(留任)
同	伊藤 彰彦(新任)

議事終了後、産業界会員功労者(永年会員)の表彰が行われました。本年度の表彰企業は次の6社でした。(五十音順)

(株)大崎コンピュータエンジニアリング	太平観光(株)
(株)キクチ	日本自動ドア(株)
(株)キトウ	山崎教育システム(株)

当日ご出席いただきました、株式会社キトウ代表取締役社長 鬼頭眞一郎氏、太平観光株式会社 代表取締役社長 北垣繁氏に、西澤会長から感謝状と記念品が手渡されました。



北垣繁氏 西澤会長 鬼頭眞一郎氏



平成25年度 講演会報告（講演要旨）

「社会総がかりでキャリア教育の実践を！！」

講師 朽原 克彦 氏

（日本商工会議所理事）

本日は、都産振の総会にお招きいただきましてありがとうございます。私どもの気持ちが少しでも皆様方にお届けできればということで、お時間を拝借する次第です。

【商工会議所とは】

1599年にフランスのマルセイユにできたのが、そもそもの発端です。日本では、明治11年に渋沢栄一翁が設立し、商工会議所は世論の形成、殖産興業のために活動を始めました。

商工会議所法に基づき設立されている商工会議所は、企業と社会を結ぶ役割を持ち、行政や企業のみならずいろいろな団体、NPO、市民との接着剤になりえる性格を持っています。また、全国514商工会議所の総会員数は127万人にのぼり、海外の商工会議所も含めた幅広いネットワークを使い、中小企業活力強化や地域経済活性化等のために、政策提言活動や具体的な事業を行っています。

1. 商工会議所とは②

日本商工会議所

日本における主な歴史

- 明治11(1878)年3月 日本初の「東京商法会議所」設立（初代会頭・渋沢栄一）
- ・ 商工業者の声を国の政策に反映させるために発足。
- 以来、行政への意見具申は、今日に至るまで最も重要な活動。
- ・ 英国の商工会議所（加入・脱退自由、会員会費により運営）を模範に設立
- 大阪（8月）、神戸（10月）と続き、明治18年（1885年）までに32の商法会議所が誕生

明治11年、内務卿伊藤博文、大蔵卿大隈重信らが不平条約改正の動向に目撃した際、英商公使バーナードに条約改正は国民の世論でないと述べた。するとバーナードは、「それはおかしな話。今、あなた方は、条約改正は国民の世論であると言われたが、国も商工会議所がない日本が、どこでどのようにして国民の世論を聞く方法があるのか、そのような便利な方法があれば、不肖バーナード、後手のために教えていたのだ」と認められた。

そこで伊藤らは、早速欧米の商工会議所制度などを調べ、どこでも商工会議所があるべきだと結論に至った。

従来専ら政府一己で政策決定がなされていたが、伊藤らは全面的に協力した。

- 明治23(1891)年 全国の経済の発展と国際化の進展に伴い、会議所制度の強化が必要とされ条例が施行。
- 明治25(1893)年 全国15の商業会議所が商業会議所連合会設立（日商の前身）
- 昭和28(1953)年8月 商工会議所の機能強化のため、幾多の変遷を経て、現在の商工会議所法が成立（議員立法、同年10月施行）

＜設立は国による認可制をとっているが、地域の商工業者の自主的な発意に基づいて設立＞

【社会総がかりでの教育支援活動】

第一次安倍内閣で教育基本法の抜本改正が行われることとなり、社会総がかりで教育支援活動を推進することが、政府、産業界でも共有され、商工会議所がその中心的な役割を担うべく「教育再生に関する意見」を取りまとめ、全国の商工会議所へ取り組みを呼びかけました。

これを受け、教育支援・協力活動を実施している商工会議所数は、平成20年に190だったものが平成24年には269に、活動数は平成20年に273だったものが平成24年には406に伸びています。

3. 地域力の底上げをめざす

日本商工会議所

キャリア教育実践事例の紹介①

＜以下、「商工会議所キャリア教育活動白書」より抜粋＞

）全国514の商工会議所を対象に実施した「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」で、キャリア教育活動を実施していると回答した267商工会議所の中から、特に先進的に取り組んでいる15事例を取り上げ、その活動のポイントを紹介する。

）経済産業省や文部科学省が実施する表彰制度等において、高い評価を得る商工会議所もある。各地商工会議所においても、以下のポイントを参考に、キャリア教育活動の具体的な取り組みを、より一層推進していただきたい。

○教育支援・協力活動を実施している商工会議所数等の推移

白書があった371商工会議所のうち267商工会議所が教育支援・協力活動を実施しているとしており、実施率は72%（72.8%）を超過した。調査を開始した平成20年度と比較すると、180ヶ所から267ヶ所に77ヶ所（増加率約40%）増加した。



○教育支援・協力活動の実施内別活動数等

活動内容の内訳は、調査を開始した平成20年度と同様、「インターンシップ・職場体験」が最も多く、全体の55.4%を占める。04年度と比較すると、「教育機関への社会人講師の派遣」の割合が倍増（4.0%→8.9%）

	20年度	24年度	増減率
インターンシップ・職場体験	153	225	45.8%
教育機関への社会人講師の派遣	11	36	8.9%
民間企業等への教員の受け入れ	4	4	1.0%
地元大学との連携（人材育成等）	25	31	7.6%
民間人材関係の連携	0	0	0.0%
教育機関（教育委員会等）への参画	15	13	3.2%
各種講座・授業の開催	17	20	4.9%
その他	40	53	13.1%
合計	273	406	100.0%

【具体的事例】

東京商工会議所では、教育・人材育成委員会を設置し、キャリア教育の推進策等についての調査研究や教育政策に関する提言活動などを行っています。また、都立高校の教員採用試験の面接官の派遣や都立高校の10年目教員のインターンシップ受入れ先の開拓にも協力しています。その他、東京商工会議所の各支部でも様々な活動を行っています。

墨田支部では、講演会や講習会を行いマナー向上や職業観の醸成、製造業の体験や模擬的なワークショップ等を実施しています。豊島支部では、夢の職業にフォーカスし、サッカー選手、ダンスのインストラクターなど「憧れの職業人」が子ども達とふれあい、文化的な夢のある職業に就く手伝いをしています。荒川支部では、理数系に焦点を当て、先端科学研究者の講義を聞く機会を作っています。

日立商工会議所では、「ひたちものづくり探索少年団」という、ものづくりのための職業観の育成に役立つような活動をしています。

足利商工会議所では、「5 S運動」（整理、清掃、整頓、清潔、躰）に軸足を置いて活動をしています。

前橋商工会議所では、街全体を大学のキャンパスにみたと、商業系、工業系、医療福祉系のイベントを1年間通して実施しています。

川口商工会議所では、川口ブランドのIH鍋、釜を作り、地元のSOGOで販売するに至っています。

狭山商工会議所では、事業の立ち上げから仕入れ・販売までを模擬体験させています。

草加商工会議所では、ものづくりイコール産業観光

という位置づけで、観光産業とものづくりを一体にして教育しています。

横須賀商工会議所は、日本全国で一番の先進事例です。地域の人材は地域で育て、地域の企業に送り込むということをモットーに活動しています。

三島商工会議所では、理数系の子ども達を育てたいということで、ものづくりの面白さや醍醐味を伝える活動を実施しています。

半田商工会議所は、教育委員会改革まで深くかわり、答申にも協力しています。

瀬戸商工会議所は、事務を一手に引き受けて地域との接着剤、プラットホームの役割を果たし、地域総がかりでキャリア教育事業を行っています。これも横須賀に次ぐ先進事例です。

桑名商工会議所では、工業高校等の学生が実際に企業の工場現場に行って実体験するというインターンシップを平成8年から実施しています。

御坊商工会議所は、最先端のロボットを招聘し、ものづくりへの理解を深める活動を行っています。

福井商工会議所青年部は、地元の優れた企業を通じ、ものづくりの良さを伝えて将来の地域を担う人材育成をしています。

会津若松商工会議所青年部は、模擬会社を設立・運営する体験を通して自分たちで決め、自ら行動する習慣をつけさせるような活動を行っています。

商工会議所でも検定試験を実施しており、すべてジョブカードに記載できるようになっています。検定試験を受ける過程でいろいろな知識が身に付きます。現場の先生からは「資格の価値を教えれば、学生も積極的に受験するようになる」、生徒からは「最初は難しくて全く分からなかったが、卒業する頃になると必要性や重要性が分かってきた」等の声も聞かれます。

【産業界からみた教育界への期待】

1つ目は、幼少期から職業観の醸成を図っていただきたいという事です。子ども達の職業観の醸成に資する教育体系にしていきたいと思います。

2つ目は、社会人基礎力を身につけていただきたいという事です。企業と学校のミスマッチもあるのではないかと思います。社会人基礎力を付けた人が企業に就職し、すぐに働いていただけるような時代になってほしいと思っています。

3つ目は、起業家精神を養ってほしいという事です。起業家精神は、結果的に会社を起さなくても会社の中で役立つので、教育の中で少しでも起業家精神を涵養できるようにならないかと思っています。

教育界や企業の方に、今の学生に不満があるか聞くと、不満を持っていると答える人は少ないです。ただ、

社会人になって責任を果たす意識、組織人としてしっかり仕事をする意識が足りないのではないかと思います。道徳的な話になりがちですが、幼い時からそのような訓練をされていない人たちが多いのではないかと思います。

先日、リクルート・キャリアの担当者から話を聞いたのですが、有効求人倍率が0.65と低いから大学生が就職できないというのは、データの読み違いであり、転職する人たちも含めた平均が0.65で、2014年3月に卒業する大学生の有効求人倍率は1.28あるそうです。これは、全学生が就職できる倍率です。

ところが、計画していた採用数に満たなかった場合の対応を企業に調査すると、3割の企業が「採用しない」、5割の企業が「求める人材レベルは下げない」という回答だそうです。求人はあるけれども、求人のレベルに達しない学生が3割いるという状況です。社会人基礎力、職業観、責任感、熱意が足りない等いろいろなケースがあると思われますが、決して不況だから採用されないのではなく、学生にもう少し頑張ってもらう必要があるということです。

企業側からみると、求める人材レベルを下げても採用しようとは思っていないので、送り出す大学、高校側の方は、企業が求める人材レベルに近づける学生を育てることが重要になってくるのではないかと思います。やはり一過性の職場体験では職業観の醸成はできないので、幼い時から育てていくことが必要であり商工会議所としても深掘していく必要があると思っています。

グローバル人材の育成については、単に英語力の有無だけでなく、近代史を教えていないのが問題だという指摘があります。明治の終わりや大正時代、戦前からここ数年の社会環境の変化をしっかりと勉強しておかないと近隣諸国と付き合えません。どこを教えて、どこは教えないという問題は機微に触れる話ではあるのですが、正しく教えないとビジネスはできないのではないかと問題提起されています。グローバル化が進めば進むほど避けて通れない問題です。

最終的には、社会貢献に通じる規範意識や責任感、社会を生き抜く力、自分自身のライフプランのようなものをしっかり持つことが大事だと言われています。社会人基礎力というところに行き着いてしまうかもしれませんが、教育現場を越えて大人たちが子ども達にしっかりと教えないと共通的な共通の課題ではないかと感じています。少しでも斟酌していただければ幸いです。とりとめの話でしたが与えられたお時間となりました。ご清聴ありがとうございました。(質疑応答が活発に行われましたが、割愛しました)

平成 25 年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

平成 25 年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」「産業教育功労者（短期大学）」に対する表彰式を平成 25 年 11 月 18 日（月）に都庁第二本庁舎 31 階特別会議室 25 で挙行政いたしました。

表彰式では、本会西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して堤雅史教育庁都立学校教育部長から祝辞がありました。続いて公益財団法人産業教育振興中央会専務理事富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会会長柴田哲様、東京都中学校長会会長中村一哉様の 3 名のご来賓の方々からご祝辞をいただきました。表彰状授与と祝辞を受け、受章者を代表して町田市立武蔵岡中学校長守屋裕一様から謝辞が述べられました。

表彰式の出席者は、「御下賜金記念産業教育功労者」22 名中 19 名、「中学校技術・家庭科教育功労者」6 名、「産業教育功労者（短期大学）」1 名の計 26 名でした。（山）

受章者は次の方々です（順不同・敬称略）

I 御下賜金記念産業教育功労者（22 名）

東京都立農産高等学校	副 校 長	須 賀 秀 次
東京都立農業高等学校	副 校 長	大 山 宗 一
東京都立農芸高等学校	主任教諭	森 田 純 一
東京都立瑞穂農芸高等学校	主幹教諭	渡 辺 堅 二
東京都立蔵前工業高等学校	校 長	豊 田 善 敬
東京都立北豊島工業高等学校	副 校 長	中 村 辰 夫
東京都立中野工業高等学校	主任教諭	山 本 茂 夫
東京都立工芸高等学校	教 諭	小 林 実
東京都立墨田工業高等学校	主任教諭	相 川 孝
東京都立墨田工業高等学校	主任教諭	谷 上 二 朗
東京都立総合工科高等学校	副 校 長	守 屋 誠 一
東京都立総合工科高等学校	主任教諭	大 鷲 徹
東京都立総合工科高等学校	教 諭	佐 藤 敏 昭
東京都立田無工業高等学校	主幹教諭	浦 和 信 行
東京都立田無工業高等学校	主任教諭	山 本 伸 一
愛国高等学校	顧 問	森 富 士 夫
大森学園高等学校	教 諭	小 用 誠
昭和第一学園高等学校	校 長	及 川 勉
安田学園高等学校	教 諭	柴 崎 照 男
安田学園高等学校	教 諭	松 本 温
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	進 藤 康 人
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	若 海 弘 夫

II 中学校技術・家庭科教育功労者（6 名）

新宿区立牛込第一中学校	主幹教諭	原 島 秀 夫
新宿区立新宿中学校	主任教諭	能 勢 良 弘

大田区立東調布中学校
世田谷区立砧南中学校
町田市立武蔵岡中学校
羽村市立羽村第二中学校

主任教諭 杉 本 弥 生
主任教諭 和 田 政 子
校 長 守 屋 裕 一
校 長 愛 甲 慎 二

Ⅲ 産業教育功労者（短期大学）（1名）

愛国学園短期大学

教 授 龍 野 久 子



平成25年度 東京都産業教育振興会後援事業

下記の団体に対し後援を行い、状況は以下の通りであった。

	対 象 事 業	開催期間	実 施 場 所	参加者数
1	全国農業高等学校協会第132回全国理事会・第126回総会並びに平成25年度秋季研究協議会	10月 24日～25日	国立オリンピック記念青少年総合センター	250
2	平成25年度全国高等学校水産教育研究会 関東・東海地区研究協議会	6月 13日～14日	東京都立大島海洋国際高等学校	40
3	第29回葛飾区産業フェア	10月 18日～20日、 25日～27日	テクノプラザかつしか 城東地域中小企業振興センター	延べ 90,000
4	平成25年度第41回関東地区工業高等学校研究協議会東京大会	12月6日	東京電機大学 東京千住キャンパス 丹波ホール等	120
5	第1回東京都総合学科高等学校教育活動成果発表会	12月23日	東京都立晴海総合高等学校 視聴覚ホール	242
6	平成25年度第20回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会	11月16日	東京都教職員研修センター 視聴覚ホール	168
7	第11回創造ものづくりフェア in TOKYO	11月9日、16日	東京都立工芸高等学校 女子栄養大学（お弁当コンクールのみ）	1,000
8	第14回全国中学生創造ものづくり教育フェア	1月25日～26日	新木場タワー、女子栄養大学 及び中央区立佃中学校	11,000

平成 2 5 年 度 産 学 懇 談 会

平成 25 年 11 月 14 日 (木) 午後 1 時から、東京都立農芸高等学校において、本年度の産学懇談会を実施しました。同校は都内に 5 校ある農業系専門高校の一つで、園芸科学・食品科学・緑地環境の 3 学科が設置されています。

主催者挨拶と日程説明の後、5・6 校時の授業と実習見学、併せて校内の施設及び農場見学が、吉野副校長の解説と案内で行なわれました。

その後懇談会に入りました。まず岡本校長、吉野副校長から学校の概要・教育目標・教育方針・特色ある教育活動等について説明がありました。続いて参加者全員から自己紹介を兼ねて、見学の感想と当校の教育的意義等について述べていただきました。順不同で紹介いたします。

- 当校は極めて良好な教育環境にある農業系高校で、優秀な専門教科教員が集まっている。
- 生活の基盤を教えることが重要で、これがきちんと徹底されていることに感動している。地元の商工会議所と連携して「花と緑」のイベントに協力してもらっている。普段の学校生活で成長している姿を見るにつけ、社会に出てから伸びると期待している。
- 衛生管理の行き届いた食品加工実習、一人ひとりが課題を持って学習に取り組むバイオ実習など素晴らしい。工業学科ではどうしてもグループ実習になり、うらやましい。
- 生徒たちが落ち着いて実験実習や学習に取り組んでいるし、施設設備等が充実している。
- 当校の近所を通る度に、どのような事をしている学校なのか興味が尽きなかったが、本日見せて頂き、校内の広さや教育内容の深さ、緑地環境等に思いをはせることが出来た。
- 中学校では栽培分野が選択だったが、教育課程の改訂で「生物育成」が必須になった。「技術」の授業時数が漸減する中、「栽培」を経験していない教員が増加する傾向にあり、その意味でも第一次産業である農業教育は重要だと思う。
- 家庭学科でも農業教育が総合的な分野として重要な位置を占める。家庭科と農業科は関係が深く接点が多いと思っている。

懇談の間に本日の授業・実験実習と生徒指導を終えた先生方 6 名が参集され、それぞれ本日の授業等の位置づけ・内容・問題点などの説明がありました。

会場をご提供くださった当校の岡本校長、吉野副校長、実習担当の先生方、また地元東京商工会議所杉並支部 井口一与副会長様に感謝申し上げます。(山)

食品加工実習の見学



懇談会（校長の説明）





分析実験の見学



懇談会



農場見学



懇談会

産学懇談会の参加者は以下の方々です（敬称略）

【産業界】西澤 宏繁（本会会長）

井口 一与（東京商工会議所杉並支部副会長）

【教育界】徳田 安伸（東京都立園芸高等学校長）

大林 誠（東京都立第四商業高等学校長）

松本 光正（東京都立工芸高等学校長）

高石 公一（東京都立葛飾商業高等学校長）

宮川 隆史（東京都立足立西高等学校長）

及川 勉（昭和第一学園高等学校長）

三浦 登（府中市立府中第二中学校長）

【会場校】東京都立農芸高等学校

岡本 利隆（校長）

吉野 剛文（副校長）

高橋 元幸（主幹教諭）

友光 俊一（主幹教諭）

戸辺 広二（主任教諭）

森田 純一（主任教諭）

大坂 操（主任教諭）

高島 豊（主任教諭）

【教育庁】臼井 万寿雄（教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長）

有馬 育子（教育庁都立学校教育部高等学校教育課計画担当係長）

平柳 伸幸（教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事）

平成25年度 「作文コンクール」 入選者一覧と最優秀作品

今年度の「作文コンクール」の応募者数は、中学校の部が38校179名、高等学校の部は16校93名、専修学校の部は2校8名で、総数56校280名でした。

昨年度に比べ中学校の部は20名の増加、高等学校の部は1名の減、専修学校の部は13名の減少でしたが全体で6名約2%の増でした。来年度も更に都産振の作文コンクールをPRし、各学校での取り組みをお願いしていく必要があります。

応募作文は、各部の選考委員による第一次選考を経て、約19%、53作品が第二次選考にあがりました。第二次選考は、中学校の部が10月29日に、高等学校・専修学校の部は11月1日に行われました。厳正な選考の結果中学校の部は最優秀賞：1、優秀賞：3、佳作：22の26名入選（約15%）、高等学校・専修学校の部からは最優秀賞：1、優秀賞：3、佳作：12、計16名（約15%）が入選され、中学校の部及び高等学校・専修学校の部の総計の入選者数は42名（15%）となりました。

入選者に対する表彰式は12月20日に選考委員、本会役員、東京都教育庁管理職等の出席を得て、東京都庁都民ホール（都議会議事堂1階南側）において行われました。

入選者は以下の通りです。

中学校の部

最優秀賞 大切	北区立王子桜中学校	2年 高橋 和也
優秀賞 働くことは簡単ではない	新宿区立落合第二中学校	3年 大中 璃子
優秀賞 「指物との出会い」	練馬区立開進第三中学校	3年 大西 直己
優秀賞 「笑顔のおすそわけ」	東京都立白鷗高等学校附属中学校	2年 門岡 春花
佳作 私の夢	愛国中学校	1年 横尾 才咲
佳作 大きく変わることに	新宿区立牛込第三中学校	3年 戸田 百香
佳作 農業体験で得たもの	世田谷区立松沢中学校	3年 舟橋 朋央
佳作 相手になったつもりで	世田谷区立喜多見中学校	3年 沖山 慎之介
佳作 大工への道	世田谷区立喜多見中学校	2年 光井 良太
佳作 物をつくる喜び	中野区立中野中学校	1年 神山 瑛理
佳作 私が思う職業観	荒川区立第七中学校	2年 田中 千尋
佳作 今からできる仕事の基本	練馬区立中村中学校	2年 高崎 野乃子
佳作 創造ものづくりフェアIN TOKYO	足立区立第六中学校	3年 村山 ほのか
佳作 私の将来	足立区立第六中学校	3年 杉浦 結奈
佳作 職業体験を通して学んだこと	葛飾区立堀切中学校	3年 山本 魁
佳作 責任	葛飾区立一之台中学校	2年 齋藤 優里奈
佳作 職場体験を通して学んだこと	調布市立第四中学校	3年 吉井 季里
佳作 心に残る言葉	東京都立白鷗高等学校附属中学校	2年 峯 琴子
佳作 「農業体験で収穫したもの」	東京都立白鷗高等学校附属中学校	2年 遠嶋 美月
佳作 「大自然の中で」	東京都立白鷗高等学校附属中学校	2年 峰 壮鴻
佳作 職場体験を経て	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年 荒川 七音

佳	作 職場体験で学んだこと	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	常 泉 乃 愛
佳	作 仕事	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	岡 本 晋
佳	作 職場体験で学んだこと	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	篠 原 すみれ
佳	作 職場体験で学べたこと	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	立 石 桐 子
佳	作 職場体験を通して	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	佐 仲 杏 美

高等学校の部

最 優 秀 賞	命を学ぶ責任	東京都立瑞穂農芸高等学校	3年	畠 明 宏
優 秀 賞	夢の通過点	愛国高等学校	3年	鈴 木 香 南 子
優 秀 賞	ボランティア活動を通して	東京都立農産高等学校	1年	加 藤 幸 乃
優 秀 賞	農業を学んで思うこと	東京都立農産高等学校	3年	千 野 田 雅 美
佳	作 将来の夢	愛国高等学校	3年	田 邊 好
佳	作 鉄道実習を通じて学んだこと	岩倉高等学校	3年	菅 野 敦 也
佳	作 子供の健康を守りたい	蒲田女子高等学校	3年	細 井 千 春
佳	作「私が学んだこと」	国際理容美容専門学校	2年	高 橋 真 理
佳	作「成長」	東京都立農芸高等学校	3年	若 松 な つ き
佳	作「努力する事の重要性について」	東京都立赤羽商業高等学校	2年	清 水 紗 弥 加
佳	作 デザインを伝えるということ	東京都立忍岡高等学校	3年	矢 代 美 菜 萌
佳	作 将来の夢	東京都立農産高等学校	1年	雑 賀 優 花
佳	作 インターンシップによって学び得たこと	東京都立第五商業高等学校	2年	中 山 真 穂
佳	作 伝統を受け継ぐ	東京都立農業高等学校	3年	深 瀬 彩 加

専修学校の部

佳	作 舞台設営の力	中央工学校	2年	廣 田 遥
佳	作 専門学校に入って学んだこと	中央工学校	1年	若 松 正 太 郎

生徒作文コンクール最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

大 切

北区立王子桜中学校 2年 高橋 和也（たかはし かずや）

先日、母が納戸の片付けを始めた。

「捨てればいいのに。」

と、思うもので溢れ返っている。ふと一番上の棚に目をやると、見慣れない木箱が二つ並んでいた。手を伸ばして取り出すと、輸入品のアスパラガスが入っていたと思われる木箱だった。

「何でこんな物が…。」

母に尋ねると、

「数年前に、行きつけの青果店で目に止まったからもらっておいたのよね…。」

「こんな物を取っておくから片付かないんだ。」と思い、捨てることをすすめたが。

「木箱の印刷と手書きの文字が輸入品って感じで、いいのよね。何かに使いたいんだけど…。」

と捨てる気がない母に呆れてしまった。

その時、夏休みの課題が頭に浮かんだ。アイデア工夫作品の製作、技術の宿題だ。授業でCDボックスを作ったことがある。一枚の板をのこぎりで切り、釘を打つ。ヤスリをかけ、ニス二度塗りする。蝶番、取っ手などを取り付けて完成させた。一つ一つが初めての経験で、根気のいる作業ばかりだった。完成させた時の喜びは、今までに味わったことのないものだった。その時の経験を生かせば、何か作れるかもしれない。

この箱をリメイクしようと決めた。母のために、台所仕事をおしゃれに効率よくしてあげたいと思った。

台形の木箱。すのこ状に付けられた木には、手書きでメモが書かれている。基本形を生かし、母が気に入っている印刷や手書きのメモはそのまま残したい。箱をいろいろな角度から眺めた。箱を横に置くと傾斜ができる。

「野菜ストッカーだ。」

蓋を取り付ければ中身が見えない。座って野菜の皮むきもできる。小柄な母の踏み台にもなる。

箱はホチキス止めで大雑把に組み立てられていた。まず、ホチキス止めの針をマイナスドライバー、釘抜き、ペンチを使って丁寧に抜き取った。目の粗い板はヤスリをかけ、クギを打ち直した。体重がかかる時の強度を考えて、二つの箱の間に板を挟んだ。蓋になる板は、父の日曜大工の残りから見つけた。板に線を引いて切ったのに、合わないことも屡々あった。嫌になりかけたこともあったが、小学生の時、牛乳パックで作った小物入れを母の日にプレゼントしたことを思い出した。とても喜んでくれ、今でも台所で愛用している。母に喜んでもらいたい、という思いが原動力になった。箱の形が出来上がり、ニスを二度塗りした。蝶番を取り付け、編んだ紐を穴に通して持ち手にした。母が気に入っていた輸入品らしさを残したスリーウェイボックスの完成だ。

八月二十四日は、母の誕生日。学校に提出する前に、母に渡したかった。

「誕生日おめでとう。」

と、完成したスリーウェイボックスを手渡した。

「ステキ。アスパラガスの箱だったとは思えないほどおしゃれなボックスに大変身したね。」

と完成したスリーウェイボックスをととても喜んでくれた。母の笑顔を、その言葉が嬉しかった。

私たちは、お金を払えば様々な物を手に入れることができる環境で生活している。百円ショップでは日用品、雑貨、文具、玩具などの充実した商品を買うことができる。

「これも百五円で買えるの？」

と、思うほど気の利いた商品がたくさんある。その一方で、ごみステーションでは気楽に捨てられたものが溢れ返っている。

「ものを大切に使いましょう。」

と、いう言葉をよく耳にする。ものづくりの苦労と喜びは、ものを大切にする心を育ててくれる。ものづくりには、作り手の心が一杯に詰まっている。だから、お金では買えないオンリーワンのものを手にした人は、ものを大切に大切に使ってくれるのだと思う。

これからも、素敵な材料との出会いを大切に、ものづくりを楽しみたいと思う。

高等学校の部 最優秀賞

命を学ぶ責任

東京都立瑞穂農芸高等学校 3年 畠 明宏（はた あきひろ）

私の将来の目標は畜産分野に貢献すること。具体的には食鳥処理衛生管理者になることです。私がこの仕事を目標に持つようになったのは、高校での実習がきっかけです。

私が通っている畜産化学科では、実際に動物を飼育することが授業の一環です。飼育するということは「命に対する責任」を伴うということです。入学したばかりの頃はそんなに大げさなこととは思わず、日々の管理に追われていました。一年も半ばを過ぎた頃、私は「命への責任」を痛いほど実感させられました。それは「と畜」の授業でした。

これはヒヨコを若鶏になるまで飼育し、最後は食肉にするという授業です。ヒヨコの頃はとても可愛くて、これをお肉にすることなど想像もつきませんでした。しかし、食用の鶏はびっくりするほど早く育つように品種改良されているので、どんどん大きく成長します。日々育っていく鶏を見て「あ、そういえば、この鶏、と畜するのだ」と現実味を帯びてくるようになりました。

と畜の実習の日、まずは先生がお手本を見せてくれました。凄くあっという間で、数秒足らずで終わってしまいました。でも首を切られた後も、鶏はもがいていました。自分の番になり鶏の脚を持つと、まるで何かをされるのが、わかったかのように、必死でもがいていました。と畜用の包丁は見慣れた包丁とは違い、先端が怖いほど、とがっていて、鉛色で冷たい刃物でした。この包丁を握ったとき、私はこれから鶏を殺すのだと思い、すごく怖くて、体が震えてきました。でも、中途半端に切ると、切れが悪く、よけいに苦しみます。私は覚悟を決めて頭部の下の頸動脈のところを首の骨に刃があたるまで、グサッと切ると、鶏は目を閉じて「クー」と言う鳴き声を出しました。すぐ頭を下にして放血器に掛けると、黒い血液が流れ出て、辺りは血の匂いが充満していました。この何とも言えない切った感じが、その日ずっと手の中に残っていたのを今でも覚えています。

そして、この肉を家に持ち帰り調理をしました。調理をしている肉は、いつもの見慣れた肉と同じでしたが、この肉を食べた瞬間、「命」をいただいているのだな、という気持ちが心の底から湧きあがってきました。私はこれまでに、動物からたくさんの「ありがたさ」を教えてもらってきました。

しかし、たくさん教えてもらった中でも「命」という分野に関してはあまり知る機会がありませんでした。

私は「動物が死ぬこと」には大きく二通りあると考えます。1つめは、ペットとして育ててきた動物が、動物本来の寿命を終えることです。これは、幼い頃から自宅で動物を飼育してきたので、たまに経験することがあり、自然と分かってはいました。2つめは、食べ物になるための動物が、と畜されることです。この「死」は今まで知ることも、考えたこともありませんでした。しかしそれを学校で学ぶことができました。とても大変なことが多いですが、将来の職業を決めるというこの時期に多くの貴重な経験をするのができ、本当にこの学校に入学して良かったと心から感じています。恐らく農業高校に通っていなければ、「命を学ぶ責任」について考えることはなかったと思います。

と畜を体験したことで、すべての食べ物に対しての考え方が変わりました。このことは鶏だけではなく、全ての家畜や野菜にも言えることだと思います。特に野菜は規程のものにならなかった場合は捨てられることが多いです。その規程に達した野菜だけが市場に出回り消費者に届きます。これはまるで生存競争、「命のオーディション」といっても過言ではないかもしれません。この壮絶なオーディションを勝ち残った野菜を、ただ「嫌い」というだけで食べ残すのは、その野菜を生産する過程で捨てられてしまった野菜と、野菜を生産した過程に携わる全ての人に失礼だと思います。

と畜の授業を経験してから、私はそのように考えるようになり、さらには、大学で畜産を学び、食鳥処理衛生管理者の資格を取得して、畜産分野に貢献したいという将来の明確な目標を持つようになりました。

食鳥処理衛生管理者とは、獣医師や大学の畜産科を卒業した者、または食鳥処理経験三年以上に従事した者などが受験資格を持つ国家資格です。鶏の飼育の現場から解体過程における衛生管理者の責任者として、各処理場の責任者として、各処理場の規模に応じて人員を配置することになっています。私は「と畜」の経験で、家畜を肉にすることは「責任」を伴うことなのだと思います。この責任とは、飼育するだけでなく、と畜してから、食卓に届くまで必要だと考えます。ですから、私は、大学に進学し家畜の飼育技術を学んだ上で、食鳥処理衛生管理者の資格を取得し、と畜する工程をしっかりと管理し、売れ残りが無く、安全で、美味しく食べられるように、最後の役割までを果たしたいのです。食べ物は、食べ物になるまでが使命ではなく、食べた相手の血と肉になり、今でも私たちの体の中で活動しています。とまり「命」と「命」をつないでいるということです。

私の学んだことは限られた人が経験できることです。私たちの暮らす東京では家畜の飼育現場を見る機会は殆どありません。しかし、東京で暮らす私たちだからこそ考えること、知っておくべきことがあると思います。その肉や野菜がどうやって私たちの食卓に届いたのかということです。「残さずに食べる」とこの責任から実践していきたいと思います。そして、心から感謝をこめて「いただきます」と言える人になりたいです。

平成25年度 作文コンクール 応募校一覧

<中学校の部>

番号	区・市名	学校名	応募人数	入選者数
1	新宿区	牛込第二中学校	3	
2		牛込第三中学校	1	1
3		落合第二中学校	9	1
4	文京区	第六中学校	3	
5	墨田区	桜堤中学校	2	
6		立花中学校	1	
7	品川区	日野学園	10	
8		荏原第一中学校	1	
9	目黒区	第八中学校	10	
10	大田区	大森第一中学校	1	
11		大森第六中学校	1	
12	世田谷区	松沢中学校	10	1
13		喜多見中学校	4	2
14	中野区	中央中学校	2	1
15	豊島区	池袋中学校	9	
16	北区	浮間中学校	2	
17		王子桜中学校	2	1
18	荒川区	第七中学校	10	1
19		原中学校	2	
20	練馬区	中村中学校	8	1
21		開進第三中学校	1	1
22		開進第四中学校	2	
23	足立区	第六中学校	10	2
24		第七中学校	5	
25		第十二中学校	8	
26		洲江中学校	1	
27		千寿青葉中学校	3	
28	葛飾区	新宿中学校	2	
29		堀切中学校	10	1
30		常盤中学校	1	
31		一之台中学校	7	1
32		葛美中学校	3	
33	府中市	府中第九中学校	1	
34	調布市	第四中学校	10	1
35		第六中学校	1	
36	都立	白鷗高附属中学校	10	4
37		大泉高附属中学校	10	6
38	私立	愛国中学校	3	1
計			179	26

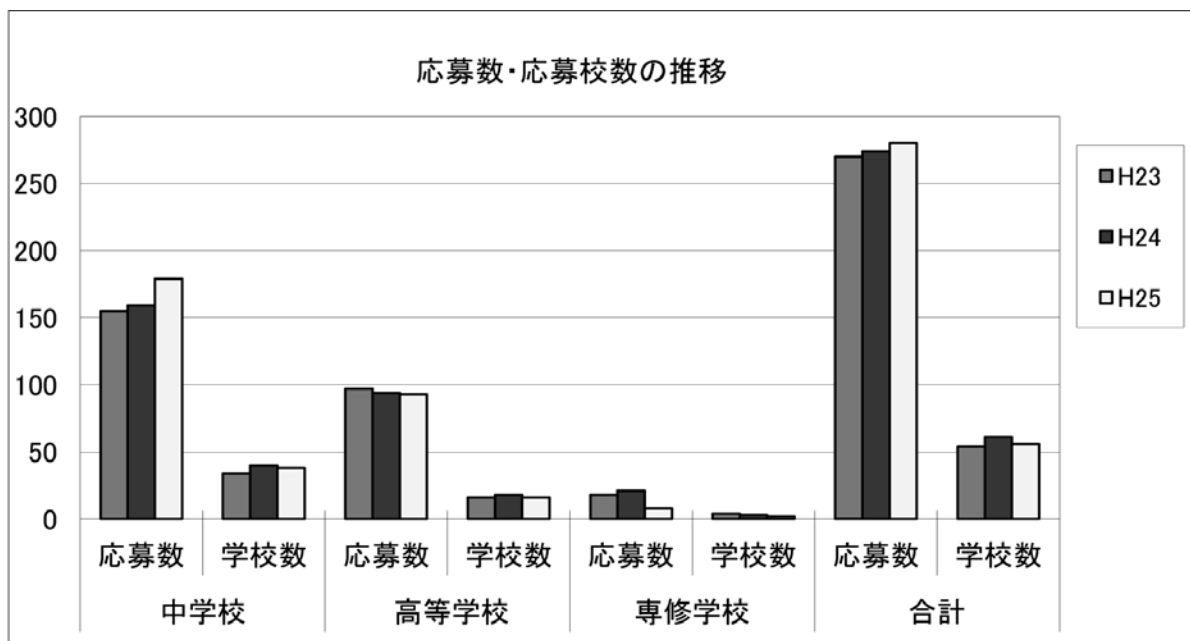
<高等学校・専修学校の部>

番号	学校名	応募人数	入選者数
1	都立中野工業高等学校	3	
2	都立農芸高等学校	1	1
3	都立赤羽商業高等学校	4	1
4	都立北豊島工業高等学校	1	
5	都立忍岡高等学校	10	1
6	都立墨田工業高等学校	1	
7	都立農産高等学校	10	3
8	都立橘高等学校	4	
9	都立野津田高等学校	1	
10	都立瑞穂農芸高等学校	10	1
11	都立第五商業高等学校	3	1
12	都立農業高等学校	10	1
13	愛国高等学校	10	2
14	岩倉高等学校	7	1
15	蒲田女子高等学校	8	1
16	国際理容美容専門学校	10	1
計		93	14

1	青山製図専門学校	5	
2	中央工学校	3	2
計		8	2

まとめ

校数 (入選校数)	応募人数	入選者数
中学校 38校 (16校)	179	26
高校 16校 (11校)	93	14
専修 2校 (1校)	8	2
総計 56校 (28校)	280	42



	中学校		高等学校		専修学校		合計	
	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数
H23	155	34	97	16	18	4	270	54
H24	159	40	94	18	21	3	274	61
H25	179	38	93	16	8	2	280	56

応募数の変化（前年度から見た変化）

校 種	平成 22 年度 (10)		平成 23 年度 (11)		平成 24 年度 (12)		平成 25 年度 (13)		平均 応募数
	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	
中学校	161 ⇒ 142	12% 減	142 ⇒ 155	9% 増	155 ⇒ 159	3% 増	159 ⇒ 179	13% 増	159
高 校	96 ⇒ 126	31% 増	126 ⇒ 97	23% 減	97 ⇒ 94	3% 減	94 ⇒ 93	3% 減	103
専修学校	9 ⇒ 19	111% 増	19 ⇒ 18	5% 減	18 ⇒ 21	14% 増	21 ⇒ 8	62% 減	17
総 数	266 ⇒ 287	8% 増	287 ⇒ 270	6% 減	270 ⇒ 274	1% 増	274 ⇒ 280	2% 増	279

作文コンクール 入選数の集計

校 種	平成 22 年度 (10)			平成 23 年度 (11)			平成 24 年度 (12)			平成 25 年度 (13)			平均%
	応募数	入選数	%	応募数	入選数	%	応募数	入選数	%	応募数	入選数	%	
中学校	142	23	16	155	22	14	159	23	14	179	26	15	15%
高 校	126	20	16	97	16	17	94	15	16	93	14	15	16%
専修学校	19	3	16	18	3	17	21	3	14	8	2	25	18%
総 数	287	46	16	270	41	15	274	41	15	280	42	15	15%
参 考	選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			—

分野別応募数 高校・専修の部(本年度)

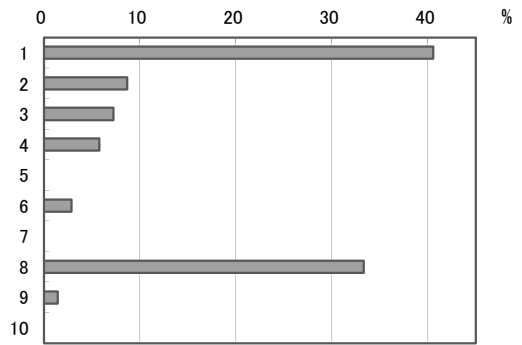
＜作文の内容＞

(1) 中学校の技術・家庭科、高等学校及び専修学校等における専門教科の学習を通して体験したことについて述べたもの

＜作文のテーマ＞

	数	%
①授業等を通して学び得たこと	28	40.6
②インターンシップ(就業体験)や現場実習等によって学び得たこと	6	8.7
③職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと	5	7.2
④つくることの喜び、ものづくりの喜び	4	5.8
⑤働くことの喜び	0	0.0
⑥学習に対する心構え	2	2.9
⑦私の生きがい	0	0.0
⑧私の進路、将来の夢	23	33.3
⑨私の職業観	1	1.4
⑩その他	0	0.0

合計 69



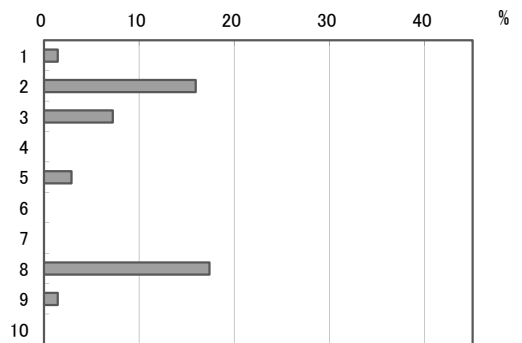
＜作文の内容＞

(2) 勤労に係わる体験的な学習によって学び得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの

＜作文のテーマ＞

	数	%
①授業等を通して学び得たこと	1	1.4
②インターンシップ(就業体験)や現場実習等によって学び得たこと	11	15.9
③職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと	5	7.2
④つくることの喜び、ものづくりの喜び	0	0.0
⑤働くことの喜び	2	2.9
⑥学習に対する心構え	0	0.0
⑦私の生きがい	0	0.0
⑧私の進路、将来の夢	12	17.4
⑨私の職業観	1	1.4
⑩その他	0	0.0

合計 32



分野別応募数 中学校の部(本年度)

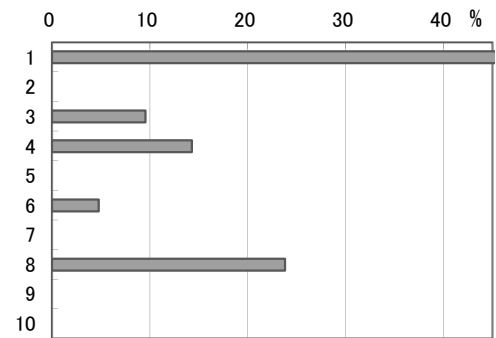
＜作文の内容＞

(1) 中学校の技術・家庭科、高等学校及び専修学校等における専門教科の学習を通して体験したことについて述べたもの

＜作文のテーマ＞

	数	%
①授業等を通して学び得たこと	10	47.6
②インターンシップ(就業体験)や現場実習等によって学び得たこと	0	0.0
③職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと	2	9.5
④つくることの喜び、ものづくりの喜び	3	14.3
⑤働くことの喜び	0	0.0
⑥学習に対する心構え	1	4.8
⑦私の生きがい	0	0.0
⑧私の進路、将来の夢	5	23.8
⑨私の職業観	0	0.0
⑩その他	0	0.0

合計 21



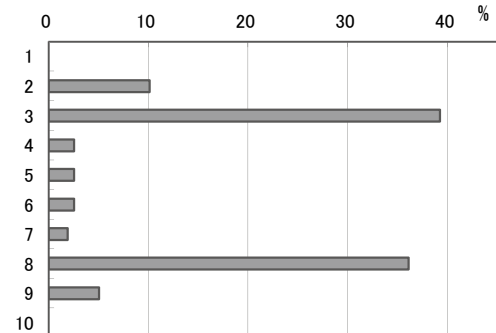
＜作文の内容＞

(2) 勤労に係わる体験的な学習によって学び得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの

＜作文のテーマ＞

	数	%
①授業等を通して学び得たこと	0	0.0
②インターンシップ(就業体験)や現場実習等によって学び得たこと	16	10.1
③職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと	62	39.2
④つくることの喜び、ものづくりの喜び	4	2.5
⑤働くことの喜び	4	2.5
⑥学習に対する心構え	4	2.5
⑦私の生きがい	3	1.9
⑧私の進路、将来の夢	57	36.1
⑨私の職業観	8	5.1
⑩その他	0	0.0

合計 158



本会の概要

平成25年度 事業経過報告

(平成26年2月20日現在)

1 会計監査

4月16日(火) 午後3時から、都庁第二本庁舎28階 第三会議室を会場
常任監事、監事2名による各種帳簿類等の監査実施(本会事務局長立会い)

2 理事会

5月10日(金) 午後3時から、都庁第二本庁舎31階 特別会議室25で開催

※臨時理事会 11月18日(月)午後2時30分から、都庁第二本庁舎31階特別会議室25で開催

3 総会・講演会

6月3日(月) 午後2時から、都庁第二本庁舎31階 特別会議室21で開催

○ 講演 演題 「社会総がかりでキャリア教育の実践を!!」

講師 日本商工会議所 理事 朽原 克彦氏

※総会報告は会報第144号に、講演報告は第145号に掲載し、本会誌に転載しました。

(本誌 p.44～46)

4 委員会

(1)企画推進委員会 7月5日(金) 都庁第二本庁舎31階 特別会議室26で開催

(2)中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会

9月20日(金) 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

(3)作文選考委員会 6月20日(木) 全体会 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

10月29日(火) 分科会(中学校の部) 都庁第二本庁舎28階第三会議室で開催

11月1日(金) 分科会(高等学校・専修学校の部) 都庁第二本庁舎28階 第三
会議室で開催

5 振興奨励事業

(1)教育功労者表彰：中学校技術・家庭科教育功労者(6名)、産業教育功労者(短期大学)(1名)及び御下賜金記念産業教育功労者(22名)の表彰式を11月18日(月)午後3時から都庁第二本庁舎31階・特別会議室25において挙行了。公益財団法人産業教育振興中央会と本会よりの表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。(本誌 p.47～48)

(2)研究団体助成：産業教育関係の研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(3)作文コンクール：中学生、高校生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は280点であった。その中から最優秀賞2名(中学校1名、高校1名)、優秀賞6名(中学校3名、高校3名)、佳作34名(中学22名、高校10名、専修学校2名)計42名の入選者を選定した。12月20日(金)に都議会議事堂1階都民ホールにおいて「作文コンクール表彰式」を行い、賞状と賞品を授与した。また、入選されなかった応募者全員に記念品を贈呈した。

(本誌 p.51～58)

(4)卒業生選奨：優良卒業生に対し、各学校の校長を通じ、本会会長並びに公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○本会会長の表彰

中学校（国公立中等等） 895 名 高等学校（国公立等） 213 名

専修学校 53 名 高専・短大 14 名 計 1175 名

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校 計 116 名

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援の名義使用を承認している。本年度は 8 団体 8 事業に対して後援名義の使用を承認した。（本誌 p.48）

6 産学交流事業

産学懇談会を 11 月 14 日（木）（午後 1 時～5 時）に都立農芸高等学校を会場として行った。農業学科の教育内容や産学連携等について話し合い、有意義な懇談会であった。参加者は会場校校長・教員および産業界・公立高校・公立中学校の管理職等、教育庁指導部・高校教育課職員等計 20 名であった。懇談会終了後、西荻窪駅近くで自由参加（10 名）による教育懇親会を持った。（本誌 p.49）

7 情報連絡事業

- (1) 本年度は会報「東京の産業と教育」を年 2 回発行、第 144 号を 7 月 12 日、第 145 号を 12 月 1 日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第 51 号を 3 月初旬に発行し、全会員及び関係諸機関に配布する。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第 24 号は入選作品 42 編を掲載して、3 月初旬に発行し、入選者及び全会員・関係諸機関に配布する。
- (4) 全国産業教育振興会連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議は、5 月 30 日（木）東京の工業教育会館で開催された。本会より会長、事務局長が出席した。
- (5) 文部科学省・愛知県教委・産業教育振興中央会ほか主催の第 55 回全国産業教育振興大会・第 23 回全国産業教育フェア愛知大会が 11 月 9 日（土）～10 日（日）、愛知県産業労働センター（ウインクあいち）をメイン会場として開催され、本会から会長と会員数名が参加した。
- （本誌 p.40～43）
- (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月一回更新した。
- (7) 公益財団法人産業教育振興中央会の実施する「産業教育改善に関する特別研究助成」また同会主催の「産業実地研修会」、「海外産業教育事情視察」等の事業には、今年度は本会よりの応募者・参加希望者はなかった。

8 会員の増加運動の推進

専修学校会員 2 校および個人会員 2 名が新規に加入した。

平成24年度 決算書

総収入額 ¥3,091,132
 総支出額 ¥2,561,531
 差引額 ¥529,601

[収入の部]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
会 費	2,426,000	2,422,000	△4,000	1 学校関係 1,508,000
				① 公私立中学校 409 校 818,000
				② 都立高校 全 56 校 336,000 定 31 校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 20 校 120,000 定 1 校 3,000
				④ 高専・短大 4 校 24,000
				⑤ 専修学校 18 校 19 口 114,000
				2 産業界関係 914,000
				① 企 業 58 社 90 口 900,000
				② 個 人 7 名 7 口 14,000
利子収入	413	145	△ 268	預金利息
雑収入	165,000	175,000	10,000	広告料ほか
繰越金	493,987	493,987	0	前年度繰越
合 計	3,085,400	3,091,132	5,732	

[支出の部]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
事務費	530,000	349,860	180,140	
項 目	需用費	90,000	58,800	31,200 総会資料印刷、消耗品費等
	役務費	400,000	291,060	108,940 配送費、郵便振込手数料、郵券等
	旅 費	40,000	0	40,000 全国産業教育フェア(岡山)
会議費	100,000	59,170	40,830	理事会、総会、講演会、各種委員会
事業費	2,287,000	2,087,501	199,499	
項 目	振 興 奨励費	839,000	63,824	①教育功労者表彰 171,825 775,176
				②研究奨励助成 112,000
				③作文表彰 393,988
				④永年会員表彰 9,793
				⑤表彰状印刷 56,700
				⑥表彰状筆耕料 30,870
	情 報 連絡費	1,438,000	131,325	①会報発行(2回分) 226,800 1,306,675
				②会誌50号発行 490,405
				③作文集23号発行 400,470
				④HP更新費 189,000
				⑤全産協参加費 0
				⑥中央会図書費 0
産学交流費	10,000	5,650	4,350	産学懇談会
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会
予備費	103,400	0	103,400	緊急対応
合 計	3,085,400	2,561,531	523,869	

(注)科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成25年度 予算書

総収入額 ¥3,149,000

総支出額 ¥3,149,000

差引額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
会 費	2,454,000	2,426,000	28,000	1 学校関係 1,514,000
				① 国公立中学校 409 校 818,000
				② 都立高校 全 56 校 336,000
				定 31 校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 20 校 120,000
				定 1 校 3,000
				④ 高専・短大 3 校 18,000
				⑤ 専修学校 20 校 21 口 126,000
				2 産業界関係 940,000
				① 企 業 60 社 92 口 920,000
				② 個 人 10 名 10 口 20,000
利子収入	399	413	△ 14	預金利息
雑収入	165,000	165,000	0	広告料ほか
繰越金	529,601	493,987	35,614	前年度繰越
合 計	3,149,000	3,085,400	63,600	

[支出の部]

(単位：円)

科 目		本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	増△減 (A-B)	摘 要
事務費		520,000	530,000	△ 10,000	
項 目	需用費	80,000	90,000	△ 10,000	総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費
	役務費	400,000	400,000	0	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費
	旅 費	40,000	40,000	0	全国産業教育フェア（愛知）
	会議費	100,000	100,000	0	理事会、総会、講演会、各種委員会
事業費		2,358,000	2,287,000	71,000	
項 目	振 興 奨励費	960,000	839,000	121,000	①教育功労者表彰 190,000
					②研究奨励助成 130,000
					③作文表彰等 420,000
					④永年会員表彰 100,000
					⑤表彰状印刷 80,000
					⑥表彰状筆耕料 40,000
項 目	情 報 連絡費	1,388,000	1,438,000	△ 50,000	①会報発行(2回分) 250,000
					②会誌51号発行 520,000
					③作文集24号発行 420,000
					④HP更新費 190,000
					⑤全産協参加費 6,000
					⑥中央会図書費 2,000
項 目	産 学 交流費	10,000	10,000	0	産学懇談会
	分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会
予備費		106,000	103,400	2,600	緊急対応
合 計		3,149,000	3,085,400	63,600	

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成 2 5 年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

☆印：新任

平成 25 年 11 月 18 日現在

1	会 長	前(株)企業再生支援機構 代表取締役社長	西 澤 宏 繁
2	副 会 長	(株)カナック企画 相談役	金 子 昌 男
3	”	☆ 東京商工会議所 総務統括部長	小 林 治 彦
4	”	東京都立園芸高等学校長	徳 田 安 伸
5	理 事 長	東京都教育委員会教育長	比留間 英 人
6	常任理事	東京都教育庁都立学校教育部長	堤 雅 史
7	”	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長	伊 藤 彰 彦
8	理 事	公益社団法人経済同友会常務理事	伊 藤 清 彦
9	”	東京経営者協会常務理事	平 井 康 行
10	”	信川化学工業(株)取締役社長	信 川 仁 道
11	”	(株)日刊工業新聞社代表取締役社長	井 水 治 博
12	”	三和電気工業(株)代表取締役社長	石 井 卓 爾
13	”	墨田区教育委員会教育長	横 山 信 雄
14	”	江東区教育委員会教育長	岩 佐 哲 男
15	”	武蔵野市教育委員会教育長	宮 崎 活 志
16	”	目黒区教育委員会学校運営課長	秋 丸 俊 彦
17	”	杉並区教育委員会学務課長	岡 本 勝 実
18	”	東京誠心調理師専門学校長	廣 瀬 道
19	”	岩倉高等学校長	浅 井 千 英
20	”	安部学院高等学校長	安 部 元 彦
21	”	東京都立工芸高等学校長	松 本 光 正
22	”	東京都立園芸高等学校長 (副会長兼任)	徳 田 安 伸
23	”	東京都立第四商業高等学校長	大 林 誠
24	”	東京都立忍岡高等学校長	浦 部 万里子
25	”	東京都立世田谷総合高等学校長	五十嵐 善一郎
26	”	府中市立府中第二中学校長	三 浦 登
27	”	足立区立東島根中学校長	池 田 敦 彦
28	”	東京都教育庁指導部長	金 子 一 彦
29	”	東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	江 本 敏 男
30	”	東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)	小 塩 明 伸
31	”	東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長	白 井 万寿雄
32	理 事 ・ 事務局長	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課計画担当係長	有 馬 育 子
33	常任監事	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長	高 橋 秀 幸
34	監 事	(有)飯吉製作所代表取締役	飯 吉 修一 呂
35	”	中野区立第十中学校長	関 年 隆

平成25年度 東京都産業教育振興会各委員会委員（敬称略・順不同）

企画推進委員会

東京都立農芸高等学校長	岡 本 利 隆
東京都立田無工業高等学校長	池 上 信 幸
東京都立葛飾商業高等学校長	高 石 公 一
東京都立足立西高等学校長	宮 川 隆 史
東京都立葛飾総合高等学校長	三 田 清 一
中央区立佃中学校長	加 藤 譲 司
昭和第一学園高等学校長	及 川 勉
京北学園白山高等学校副校長	杉 原 米 和
東京工科自動車大学校理事長	山 本 匡
東京都立産業技術高等専門学校長	荒 金 善 裕
教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	平 柳 伸 幸
教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	富 永 大 優

作文選考委員会

東京都立農産高等学校長（高校・専修の部委員長）	後 藤 哲
東京都立府中工業高等学校長	瀧 澤 勝
東京都立赤羽商業高等学校長	昼 間 一 雄
東京都立広尾高等学校副校長	石 坂 敦 子
東京都立王子総合高等学校長	今 澤 秀 夫
安田学園高等学校教頭	稲 村 隆 雄
安部学院高等学校長	安 部 元 彦
国際理容美容専門学校教頭	佐 谷 肇
足立区立第十二中学校長（中学校の部委員長）	杉 浦 伸 一
東大和市立第二小学校長	井 内 潔
港区立神応小学校長	高 松 政 則
小平市立小平第十五小学校長	熊 井 久 乃
青梅市立泉中学校長	高 橋 章 次
立川市立第四小学校長	大 神 田 佳 明
新宿区立落合第二中学校副校長	深 井 明 美
新宿区立牛込第三中学校副校長	寺 島 京 子
荒川区立峡田小学校副校長	出 井 玲 子
立川市立立川第九中学校副校長	坂 詰 悦 子
教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	鈴 木 誠
教育庁指導部高等学校教育指導課課務担当係長	二 宮 浩 二
教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	富 永 大 優
教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	吉 川 泰 弘

東京都産業教育振興会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、東京都産業教育振興会という事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿 2-8-1）内におく。

第2条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第2章 会 員

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの

第3章 役員及び職員

第5条 この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第8条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、平成20年度、平成22年度

産 業 界 会 員 名 簿

50 音順

	企業会員名	所在地	過去 5 年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
1	(株)秋月電子通商	世田谷区	—	電子部品（主としてコンピュータパーツ）、及び制御コンピュータ用 応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接販 売。世界各国の最新機器の日本への紹介。
2	浅地事務所	港区	—	経営相談、コンサルティング、社外役員の紹介及び仲介他
3	(株)イーナ	千代田区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	当社は、より安心で快適な社会の実現を目指し、高輝度蓄光式誘導標 識をはじめ、蓄光技術を様々な形に変えて、皆様に「安全」と「環境」 と「省エネ」をご提供してまいります。
4	(有)飯吉製作所	葛飾区	—	金属プレス加工業を昭和 24 年創業、昭和 37 年会社設立後、永年培っ た技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を 始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャスターを 開発、製造販売を始め、現在に至る。
5	(株)エイコー	葛飾区	(○) 高校卒	昭和 35 年にビルメンテナンス業を創業。 平成 13 年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメ ンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
6	エス・イー・シーエレ ベーター(株)	台東区	(○) 高校卒 (○) 専門学校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	エレベーター、エスカレータの保守点検及び新設、ニューリアル工事
7	(株)エヌ・アール	千代田区	—	不動産の賃貸及び管理業
8	(株)大崎コンピュータ エンジニアリング	品川区	(○) 高専卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	「信頼とサービス」をモットーに、営業・システム・施工保守・技術 部門が一体となって、システム開発から通信ネットワーク構築、アウ トソーシングサービスまで、トータルな IT 環境を提供する総合イン テグレータ。富士通・富士電機・NTT グループのディーラー業務等。
9	(株)オーム社	千代田区	(○) 高専卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	科学技術関係の書籍及び月刊誌を発行。情報科学、情報通信、電気電子、 応用物理、機械制御、土木建築、空調衛生設備、化学環境、生命科学、 医用電子など理工学全分野に及ぶ。定期雑誌は『OH M』『新電気』『電 気と工事』『設備と管理』『ロボコンマガジン』の月刊・隔月刊 5 誌。
10	OZAWA 小沢(株)	中央区	(○) 四大卒	紳士服、婦人服製造卸売（オーダー有り）
11	(株)カナック企画	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	当社は、カーオーディオやカーナビゲーションなどカー AV(Audio Visual) 機器の取付キットビジネスの最前線を常に開拓するリーディ ングメーカーです。ISO9001・14001 を取得して品質を重視し、環境 に配慮した商品の開発を行っております。
12	亀有信用金庫	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心 に 24 店舗 (1 出張所を含む) を構え、お客様との信用・信頼を第一に 地域のコミュニティバンクとして活躍しています。
13	(株)川邑研究所	目黒区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売
14	機械研究(株)	台東区		教育・研究用実験試験装置設計製造。大学、高専、工業高校、職業能 力開発校、民間企業等に多数の納入実績があります。
15	(株)キクチ	品川区	(○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス。 設備管理サービス。電気計装工事。内装・補修工事
16	(株)キトウ	千代田区	(○) 四大卒	中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・ 工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実 させています。
17	恵雅堂出版(株)	新宿区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	卒業アルバム及び一般書籍の出版。
18	(株)小葉印刷所	中央区		創業 80 年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディ トリアルデザインや Web 用のデータ作成業務に力を入れている。
19	(株)コヤマ服装	府中市	—	学生服他、製造販売。
20	三和電気計器(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	1941 年創業、従業員 70 名の現場用電子計測器の専門メーカーです。 高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、 絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界 74 ヶ国以上に輸 出し、SANWA ブランド製品として高い信頼を得ています。
21	実教出版(株)	千代田区	(○) 四大卒	高等学校用教科書・補助教材類・専門図書等の出版・販売および不動 産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試 験等にも注力している。1941 年創業、従業員 150 名。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
22	(株)昭和理化	豊島区	(○) 高校卒	消防用設備(自動火災報知設備、消火設備、避難設備)、弱電設備(インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯)の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。
23	(株)鈴木塗装工務店	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大大卒	全国主要都市に支店・営業所を有し、ビル・マンション・工場等のリニューアル工事を多岐に亘り施工しております。また、安全・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、ISO 9001:2008 認証取得により品質管理を徹底しております。
24	青和信用組合	葛飾区	(○) 四大大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される約103,090世帯(人口214,310人)と、地域内で事業を営まれる中小企業、並びにそこに勤務される方々を対象に営業しており、現在約46,010世帯(64,045人)の個人の皆様と、2,353先の法人等にお取引をいただいております。
25	千住金属工業(株)	足立区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大大卒 (○) 大学院卒	スマートフォンやコンピュータ等には欠かせない「はんだ」では世界のトップメーカーです。半導体メーカー世界最大手のインテル社より2012年度最優良納入業者として表彰(世界で8社)を受けました。海外拠点も26ヶ所あります。
26	第一科学(株)	文京区	(○) 高校卒	高校、大学、官公庁(都内)への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売
27	太平観光(株)	練馬区	(○) 専修卒 (○) 四大大卒	昭和38年創業。学校関係主体の旅行業者。資本金8,000万円、従業員25名(常勤役員4、正社員19、パート2)。年商10億。学校関係70%、海外旅行10%、国内募集旅行10%、個人一般旅行10%。
28	大洋塩ビ(株)	港区	—	
29	(株)竹尾	千代田区	(○) 四大大卒	1899年の創業以来、一般印刷用紙、特殊印刷用紙(ファインペーパー)の開発、販売を通して「情報の伝達」「環境の保護」「文化の向上」等の社会貢献に寄与しています。「ファインペーパーの竹尾」と全国に知れ渡り、約400銘柄、9,000種の紙を取り扱い、市場ニーズにあった製品の提供を続けています。
30	(株)チバダイス	葛飾区	(○) 専修卒 (○) 四大大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの3割は海外との取引です。
31	(株)ツバサ・翼学院	葛飾区	(○) 短大卒 (○) 四大大卒 (○) 大学院卒	学習障がい、不登校、非行歴のある子など約200名の塾生が在籍(青砥駅前校、水元校)、当塾から都立高、私立中高、大学へと巣立っていきます。児童発達支援・放課後等デイサービスつばさクラブを併設して生活訓練や、社会との関わりに関する訓練も行っています。また高校中退者が当校で高校を卒業できるシステムもあります。「学校でさじをなげた子を何とかしてくれる機関」として文部科学省や各地域の教育委員会からの視察、著書やメディアからの取材も多数あります。
32	鉄道機器(株)	中央区	(○) 高校卒 (○) 四大大卒	大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に低騒音化、低振動化、地震対策等、時代のニーズに対応した分岐器の開発・改良に注力しています。
33	東京ガス(株)	港区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大大卒	当社は、1885年の創立以来、120年余りの長きにわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客様の豊かな暮らしや産業の発展を支えてまいりました。現在では、1000万件を超えるお客さまに対し、都市ガスに加え、電力・熱供給などエネルギーまわりの付加価値を提供させていただいております。
34	東京書籍(株)	北区	(○) 四大大卒 (○) 大学院卒	1909(明治42)年の創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小中高等学校の教科書を中心に、ワークブック・問題集・辞典などの教材、ビデオ、パソコンソフト、辞典、エッセイなどを幅広く発行。
35	東京スマイル農業協同組合	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 四大大卒	概要:指導・信用・共済・経済事業等を行っている。 特色:地域に密着した取組をしている。
36	(株)東京都民銀行	港区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大大卒	昭和26年の創立以来、金融サービスを通じ、地元東京と中小企業の発展、個人の豊かなライフステージの実現のために、東京の頑張る人を応援している地方銀行です。お客様のニーズに合わせ、各種預金商品、融資商品の提供、近隣地銀の横浜銀行、千葉銀行やセブン銀行等と提携し、首都圏約9,500ヶ所のATMで平日日中に手数料無料でお引き出しできるネットワークの充実を図っています。給料日前に働いた範囲内で給料を受け取るサービス「前給」(特許取得済)の取扱、ビジネスマッチングのための展示商談会の開催、中国でのビジネス支援をするコンサルティング会社としての上海現地法人「都民銀商務諮詢(上海)有限公司」の設立、M&A等のご相談等様々な金融ビジネス展開を行なっています。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
37	(有)東京プリンテック	世田谷区	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。
38	(株)日刊工業新聞社	中央区	(○) 四大卒	わが国唯一のモノづくり総合紙
39	(株)日本化薬東京	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	当社はインクジェットプリンター用色素、繊維・紙パルプ用染料を製造しております。会社運営のキーワードとして(3つのC S Q E), 即ち「コストダウン」「コンプライアンス」「コミュニティ」「セーフティー」「クオリティ」「エコロジー」を掲げ、高機能都市型工場を目指しております。
40	日本自動ドア(株)	中野区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
41	信川化学工業(株)	葛飾区	—	超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、J A 機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機 2,700t、2,200t、1,600t × 2、1,200t、850t × 4、650t × 2 他計 21 台。クレーン 20t、10t 他。
42	(株)箸勝本店	千代田区	—	明治 43 年創業の箸箸専門店です。業務用から家庭用まで、300 種類以上の特徴あるお箸を揃えております。昭和 25 年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。
43	日野自動車(株)	日野市	(○) 中学卒	「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地域の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。
44	日の丸自動車興業(株)	文京区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	当社は観光バスから乗合バスまで幅広くビジネス展開している会社として、無料巡回バスやスカイバスを手掛けており、今後も水陸両用バス計画など新事業に積極的に取り組んでまいります。
45	丸工化学(株)	葛飾区	—	プラスチック製品製造業。従業員 17 名。主に容器の製造。中空成形機 14 台。小はスポイト位の物から大は灯油缶位の物迄できる。
46	(株)ムトーエンジニアリング	世田谷区	(○) 専修卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	設計製図機器、光学式計測器の開発・製造・販売、リサイクルトナー販売。LED 関連製品の製造・販売、オゾン関連商品の販売。CAD ソフト及びデバイス類の販売
47	森山精機(株)	文京区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	流体実験装置の製造販売並びに教育機器の販売を 50 年継続。
48	山崎教育システム(株)	東村山市	(○) 専修卒 (○) 四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売(全国代理店 500 社)
49	山崎製パン(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	パン・和洋菓子等の製造及び販売
50	ヤマ産業(株)	文京区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	教育備品を販売して 50 年。学校よりの信用を得て、安定している。
51	(株)読売新聞社東京本社	中央区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	「読売新聞」は 1874 年(明治 7 年)11 月の創刊。全国紙として成長し、1994 年に発行 1000 万部を達成した。発行部数は世界一。千代田区大手町に新社屋を建設中(2014 年秋に完成予定)で、その間、中央区銀座に一時移転している。
52	ルネサスエレクトロニクス(株)	千代田区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	2010 年 4 月に(株)ルネサステクノロジと NEC エレクトロニクス(株)が合併して発足した半導体企業です。創造力を発揮し、絶え間ない技術革新により、世界中のお客様のニーズに誰よりも早く応えます。そして、信頼されるパートナーとして、持続的に成長する強いグローバル半導体企業を目指します。

個人会員

- 堀居 英治
- 齋藤 武捷
- 倉持 俊義
- 梶谷 正義
- 末松 茂孝
- 内川 武雄
- 中村 浩
- 小島 勤
- 増田 英二

学 校 会 員 名 簿

50 音順

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
--	-----	-----	----	------------------------	----------

私立高校

1	爱国高等学校	江戸川区	全	普通科 (240) 商業科 (120) 家政科 (80) 衛生看護科 (40) 衛生看護専攻科 (40)	昭和 13 年創立以来、「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。平成 22 年春に新学生寮落成。普通科は A(一般教養)・B(進学)の 2 コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の 2 コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科(上級 2 年コース)は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学(人間文化学部)・短期大学(家政科)・保育専門学校(幼児教育科・介護福祉士専攻科)がある。
2	安部学院 高等学校	北区	全	商業科 (200)	1940 年(昭和 15 年)に創立して以来、一貫して「商業科のみの女子高校」と歩み続け、現在で満 73 年を迎えました。在校生には、「5 つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。2 年次よりコース制になり、簿記 1 級の取得を目指す「会計コース」と、パソコン等の実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の 2 コースに分かれて授業を行っています。卒業後の進路は、以前は就職する生徒が多く占めましたが、現在は就職希望者よりも、進学希望者も増えています。
3	岩倉高等学校	台東区	全	普通科 (240) 運輸科 (210)	我が国最初の鉄道学校として明治 30 年に創立。多くの卒業生が鉄道・運輸業界で活躍している。また、近年、就職のみならず大学進学希望者が増加していることに伴い、普通科に S 特コースを設置するなど、進学教育にも注力している。平成 26 年度の入学から「男女共学化」、「普通科・運輸科の 2 科システム」を実施し、学校の変革を進めている。平成 21 年 4 月に完成した新校舎など充実した環境の中で、特色ある教育内容や新コースの設置等、生徒の夢を具現化するカリキュラムで学力の向上に取り組んでいる。
4	大森学園 高等学校	大田区	全	普通科 (160) 工業系 (200) 機械科 電気科 情報技術科 総合技術科	【創立】昭和 14 年大森地区の中小機械工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。 【学校改革】創立 70 周年(平成 21)にむけて「学校改革」始まる。平成 16 年、新校舎建築に着手。平成 17 年、学校名を「大森工業高校」から「大森学園高校」に変更。同時に普通科を新設し、第 1 期生をむかえる。平成 19 年校舎建築完了、普通科を共学化。平成 21 年 4 月、創立 70 周年記念式典を挙行了。
5	科学技術学園 高等学校	世田谷区	通	普通科 (2,750) 電気科 (900) 機械科 (600)	昭和 39 年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和 52 年普通科設置し現校名に変更する。昭和 53 年昼間定時制課程を設置し、単位制総合高等学校として様々な生徒のニーズに対応できる教育環境を整えている。通信制課程では集団(企業・専修学校等)を対象とした技能連携コース(全国に 35 校)と個人を対象とした単位制コースを持ち、単位制コースには「週 4 日通学コース」、週に 1～3 日通う「登校コース」インターネットで学習する「e ラーニングコース」と生徒個々の学習環境に合わせたコースを設置している。昼間定時制課程(男子のみ募集)は、主要教科は習熟度別学習プログラムでわかる授業を実践し、また社会へのプロローグとして「ものづくり」を中心とした体験学習を特別活動として導入し、生徒目線の教育活動に取り組んでいる。
6	蒲田女子 高等学校	大田区	全	普通科： 幼児教育 (80) 生活文化 (80) 総合進学 { 医療福祉 (30) デザイン (30) スポーツ (30)	昭和 16 年に漢学者・簡野道明の遺志により設立。「子供の教育に最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である。」にもとづく、道徳しつけ教育に重点をおき、自立する女性の育成を行っている。教育内容改革改善の取組みとして特に医療福祉では、介護職員初任者研修の資格が取得でき、2 年次より看護系進学者に対する指導にも力を入れ特進クラスも設けている。
7	関東第一 高等学校	江戸川区	全	特別進学コース(男女 40) 進学 A コース(男女 200) 進学 G コース(男女 210) スポーツコース(男 80)	大正 14 年、帝国書院の創立者守屋荒美雄・初代校長村上周三郎によって神田錦町に関東商業学校として設立。普通科に 4 つのコースを設置。「英知、聡明、平和を尊び、社会に敏感に反応し、国際社会で活躍し生涯学び続ける生徒の育成」を教育理念とし、コース別指導で進路目標達成に力を尽くす。
8	京華商業 高等学校	文京区	全	商業科 (150)	生徒一人ひとりの個性を伸ばすオンリーワン教育を推進。資格検定試験合格にむけたきめこまかい指導を行っている。また、はやくからインターンシップをとり入れるなど、キャリア教育にも力を入れている。
9	京北学園 白山高等学校	文京区	全	商業科 (160)	人間力を ①自己学習能力 ②コミュニケーション能力 ③プレゼンテーション能力の 3 つの力と定義し、その育成に努力する。 現役大学進学率 7 割の新しいスタイルの商業科進学校
10	昭和第一学園 高等学校	立川市	全	普通科 (336) 工学科 (240) 総合工学コース 機械コース 電子情報コース 建築デザインコース	普通科：特進コース、総合進学コース(2 年次より文・理選抜)。 工学科：1 年次共通の科目を学ぶ。2 年次から 4 つのコースに分かれる。 総合工学コース、(進学向けのコース)、機械コース、電子情報コース、 建築デザインコースで専門科目を学ぶ。
11	昭和鉄道 高等学校	豊島区	全	鉄道科 (215)	昭和 3 年創立、平成 16 年共学。鉄道専門科目を通し、実践的な教育に取り組み、鉄道業界を中心に多くの卒業生を送り出している。

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
12	大成高等学校	三鷹市	全	普通科： 特別進学コース (75) 文理進学コース (290) 情報進学コース (40)	117 年の伝統校でありながら、常に改革を進め教育の充実に努めています。さらに施設の面での充実が学習環境を支えており、特進コースはもちろん文理進学コースでの進学実績も向上しています。また、情報進学コースでは、全員に情報処理検定 1 級合格を目指して専門技術の習得に力を入れています。
13	中央学院大学 中央高等学校	江東区	全 通	普通科 (35) 商業科 (65) 22 年度閉課程	少人数クラスをベースにしながら、生徒一人ひとりの将来を考えた教育を展開しています。中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導に特色があります。
14	東京学園 高等学校	目黒区	全	普通科： 普通コース (280)	男子に特化した多様な教育によって、生徒一人ひとりの強みを引き出し、自信を持って生きていける知力・気力・体力と他者を尊重する心を養い、優れた学力と逞しい人間力を育成します。また、平成 18 年には目黒区と協定を結び、本校の敷地内に目黒区の災害用防災倉庫を設置し、地域の方々にも貢献する事が出来る態勢を整えています。
15	東京実業 高等学校	大田区	全	機械科 (135) 電気科： 電機コース (45) ゲーム IT コース (45) 普通科： ビジネスコース (180) 文理コース (90)	全科男女共学。週 5 日制。総合学園高校として各科、各コースの生徒は目的を持って学校生活を送ります。自立できる人間を育成するために、3 年間で各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定に役立てます。また、転科試験で学校生活を見直す機会を持ち、国際理解教育の一環として、米国コロラド州ボルダー地区の公立高校との間に交換留学制度があります。 電気科ゲーム IT コースは平成 22 年度より開設。
16	日本工業大学 駒場高等学校	目黒区	全	普通科： 特進コース (20) 理数特進コース (20) 総合進学コース (70) 工業科： 理数工学科 (120) 国際工学科 (30) 機械科 (80) 建築科 (40) 電子情報システム科 (40)	106 年間培ってきた工業技術教育を大切に、その有用性を生かした新しい時代の新しい普通科と工業科により、生徒の卒業後進路の多様化に具体的な支援をする。普通科・工業科の生徒とも進学の成果をあげています。 また、カナダ・アルバータ州のクロウズネストパスにある本校のカナダキャンパスは、中高の短期留学と高校卒業後の州立大学留学の拠点となっています。
17	八王子実践 高等学校	八王子市	全	普通科： 特進コース (40) 文理コース (160) 普通コース (280) 調理科 (80)	建学の精神は「自重・自愛・自制・自立」、そして伝統的教育理念である「実践」を根幹として「知育・徳育・体育」の調和のとれた全人教育を目標に 87 年の歴史を歩んでいます。普通科は特進コース、文理コース、普通コースの 3 コースを設け、進学や就職など、多様な進路選択ができるよう学習指導を行っています。 一方調理科は、和・洋・中・製菓の全般の知識と技術を習得。卒業と同時に調理師の資格が習得でき、食育インストラクター、栄養士、管理栄養士といった資格への道も開かれています。
18	朋優学院 高等学校	品川区	全	調理科・ 調理コース (45) デザイン科・ デザインコース (45) 普通科・ 特進コース (60) 進学コース (185) 美術コース (45) 国公立コース (15)	調理コース：食の幅広い知識として調理専門科目を学習。卒業時に調理師免許取得。 デザインコース：コミュニケーションツールとしてのデザイン、コンピュータや手作業による造形を体験学習・共同作業などで学習。 全コース (3 学科 6 コース) とも男女共学。
19	村田女子 高等学校	文京区	全	普通科 (80) 商業科 (82)	夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。 村田は二科四コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。 その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。
20	安田学園 高等学校	墨田区	全	普通科 (236) 進学コース (140) 特進コース (72) S 特コース (24)	本学園は、創立者 安田善次郎翁の建学の精神のもと、幅広い社会の中でその世界のトップクラスとなる人材を育成することを目指しています。平成 25 年度に創立 90 周年を迎えるにあたり、普通科のみの募集へ転換、最難関国立大を目指すコースの新設、男女共学化の準備など、一連の大幅な改革を実践しております。
21	日野工業 高等学園	日野市	通	(40)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダーの育成を目指す企業内高校です。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があります。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。

都立高校

▽農業に関する学科				
1	都立園芸 高等学校	世田谷区	全 定	園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35) 園芸科 (30)
				平成 20 年度に 100 周年を迎えたが、平成 18 年度に重点支援校の指定を受け、地域や NPO 等との連携のもと「園芸高校リバイバルプラン」を推進している。園芸科、食品科、動物科では、2 年次から、生徒の特性等に応じたコースを設け、食品科では、専門学校との連携により在学中に調理師の資格取得が可能である。 定時制では家庭的な雰囲気での学習が進められ、園芸技術専修生制度もある。

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
2	都立農業 高等学校	府中市	全	都市園芸科 (35) 緑地計画科 (35) 食品科学科 (35) 服飾科 (35) 食物科 (35)	1909 年（明治 42 年）に創立された多摩地区で長い伝統と歴史をもつ専門高校です。104 年にわたり常に社会の変化に対応した先進的な取組を行い、農業及び家庭に関する専門教育とそれを支える普通教育を両輪として 21 世紀を担う人材を育成しています。全日制では、「自分の未来は自分でつくる」をテーマに、①手の仕事の面白さ、②本物体験で心を豊かに、③普通教科の学習は一生の基礎、④チームワークで協調性、⑤発表力や表現力を磨く、⑥プロ講師の授業という 6 つの学びの特色を生かして、本校でしか学べない学習内容を生徒が熱心に取り組んでいます。 定時制では、教育目標「他者への思いやりをもって、未来を切り拓く人間の育成」を達成するため、普通科及び農業科としての特色ある教育活動を展開し、きめ細かい指導を通じて生徒一人一人の進路希望の実現を目指しています。
3	都立農芸 高等学校	杉並区	全	園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35)	今年度で創立 110 余年の歴史と伝統のある専門高校である。全日制に園芸科学科、食品科学科、緑地環境科の 3 学科 4 学級、定時制に農芸科 1 学科を設置している。都心にありながらも緑に囲まれた校舎、実習棟や農場などあわせて 73,304 ㎡という広い敷地を持ち最新の施設や設備が導入されている。 JR「阿佐ヶ谷」駅前の花壇作り、小学生を本校に招いての豆腐作り教室等、地域貢献活動を推進し、学校の教育機能を積極的に地域社会に提供している。また、平成 18 年度のエコアクション 21(環境省認証)取得を契機に、環境にやさしい農業高校を目指している。なお、都立高校唯一の馬術部を設置し馬場馬術競技の練習に励んでいる。
4	都立農産 高等学校	葛飾区	全	園芸デザイン科 (70) 食品科 (70)	東京東部にある唯一の農業高校で、「食と緑の文化あふれる学校」を目指し教育活動が行われている。 全日制では、2 学科 4 類型を設置している。園芸デザイン科では栽培からバイオ、フラワーデザインまで、食品科では加工から食品デザインまで広く体験を通して学べる。定時制は、園芸系と食品系両方を学ぶことができ、通常授業の前後に行なわれる授業を受けることにより、3 年間で卒業できる制度があり人気が高い。
5	都立瑞穂農芸 高等学校	西多摩郡 瑞穂町	全	畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70)	都内唯一の畜産科学科があり、大動物の飼育・管理が学習出来る。豊かな自然環境、恵まれた施設・設備の下、充実した専門科目の学習に取り組める。キャリア教育の一環として地域と連携した教育活動を推進し、望ましい職業観や豊かな社会性を育んでいる。定時制も規模が小さく、きめ細かな指導が行われ、大変落ち着いた学習環境である。
定				併合科（普通・農業）(30)	
▽工業に関する学科					
6	都立足立工業 高等学校	足立区	全	総合技術科 (175)	機械・電気系の総合技術科。1 年は機械、電気の基礎を共通履修、2 年から機械系か電気系を選択、選択科目で得意分野を伸ばす。 第二種電気工事士を中心に資格取得に力を入れている。地域密着の工業高校として、2 学年全員のインターンシップ実施や小中学校や地域連携を積極的に推進している。施設・設備拠点校に指定され、施設・設備が充実している。
7	都立荒川工業 高等学校	荒川区	全	電気科 (70) 電子科 (35) 情報技術科 (70)	本校は、平成 25 年度創立 全日制 50 周年、定時制 65 周年を迎え、歴史と伝統のある都内唯一の電気系専門高校である。 全日制では「ものづくり」に関する技術・技能を身につけさせる。電気系専門技術者に必要な基礎的な学力をつけさせる。社会で役立つ資格（第 2 種電気工事士等）を取得させ生徒に自信をつけさせ、より確かな進路実現を図る。特に、第 2 種電気工事士の合格者は、毎年 30 名以上の実績を誇る。 定時制では基礎・基本の徹底を図り、分かる授業を行い、分かるまで教える。良いことを誉め、悪いことは正す。資格取得や検定合格で自信と意欲を育てる。
8	都立葛西工業 高等学校	江戸川区	全	機械科 (70) 電子科 (35) 建築科 (70)	都教委指定のデュアルシステム導入校（平成 23 年度入学生～） 施設が充実しており、設備拠点校実習を行なっている。 地域産業界、小中学校と連携し、ものづくりを担う人材を育成。 地域と協働し、実践力ある生徒を育てる。
9	都立北豊島工業 高等学校	板橋区	全	総合技術科 (175)	○全日制 機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を幅広く学び、社会に貢献できる人材育成に取組み、電気工事士、危険物取扱者、工事担任者など社会で役立つ資格取得に力を入れ、確かな進路実現を図り、就職決定 100%を保持している。平成 21 年 6 月に「エコアクション 21」の認証を取得し、環境教育に全学年で取り組み環境問題や資源リサイクルへの啓発から具体的なアクションへと繋げている。 東京都教育委員会より工業実習の拠点校として指定され施設・設備が整え、近隣の工業と連携し、ものづくりの技術・技能習得と継承に力を入れている。 新たに、企業と高校が連携した新しい職業教育システムであるデュアルシステムを取り入れた教育課程を編成して、日本のものづくりの後継者育成を目指している。
定				機械科 (30)	○定時制 機械科の単科の定時制である。各学年一学級 30 定員で、ものづくりの加工技術・技能を習得し、確かな進路実現を目指し、人材育成に取り組んでいる。就職希望者の内定率 100%を維持している。軟式野球部などを中心に、部活動を通じて心身ともに成長を促し、資格取得指導の充実により、より確かな進路実現への力を培っている。

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
10	都立蔵前工業 高等学校	台東区	全 定	機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35) 建築工学科 (30)	○全日制 東京都教育委員会よりものづくり人材育成教育プログラムに関わる「特定分野推進校」及び「ものづくり高大連携教育推進校」の指定を受け、都立工業高校を牽引する役割を担い、スペシャリストの育成を目指したものづくり人材の育成教育を実践している。 進路指導では、理工系大学への進学を高大連携事業などで生徒に動機付けをし、明確な目標を持たせると共に一人ひとりの能力や希望に応じた進学活動を実践している。就職では、伝統校として安定した求人数があり、生徒の将来を見据えた就職活動を実践している。来年度 (26 年度)、本校は 90 周年を迎える。この伝統に裏打ちされた教育活動により、多くの卒業生が産業界で活躍し、日本の工業界をリードしている。 ○定時制 都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。 学修方法によっては、3 年間で卒業も可能。 学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。
11	都立工芸 高等学校	文京区	全 定	マシンクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科 (35) マシンクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアーツ科 (30)	本校は、100 年を越える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only One のものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来 2 万人を越える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。 また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。 卒業後の進路は、進学の割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野への進学しています。
12	都立小金井工業 高等学校	小金井市	定	機械科 (60) 電気科・電子科 (30)	平成 22 年 3 月に全日制課程が閉課程となり、平成 22 年度から定時制単独校になる。施設設備が充実していて、多摩地区唯一の定時制工業高校である。ここ数年、入学者が定員枠いっぱいまで入ってきている。校舎の改築改修工事が進み、新校舎が平成 23 年 8 月に完成した。23 年 9 月から座学の授業は新校舎で、実習の授業などは旧校舎で行っている。全日制課程は多摩科学技術高校となり、平成 22 年 4 月に第一期生が入学している。
13	都立杉並工業 高等学校	杉並区	全	機械科 (70) 電子科 (70) 理工環境科 (35)	都立工業高校で唯一 (都立高校全体で 2 校)、環境マネジメントシステム ISO14001 を取得し、全教科で環境保全に関する学習を進めている。風力発電及びビオトープがある。平成 20 年度に高反射率塗装 (屋上) 及び窓遮熱フィルム貼付、太陽光発電設備拡大。資格取得に力をいれている。平成 17 年度の資格取得者数が都立高校 No.1。 部活動が活発で、柔道部及び陸上競技部の関東大会出場など、どの部も輝かしい実績を残している。平成 19 年度、「キャリア教育優良取組団体」として文部科大臣表彰、「環境学習及び地域温暖化防止取り組み等」において環境大臣表彰及び東京都教育委員会表彰を受けた。平成 25 年度、都立専門高校技能スタンダード推進校の指定を受けている。
14	都立墨田工業 高等学校	江東区	全 定	機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35) 総合技術科 (30)	全日制は、4 学科を持つ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率 100% を常に維持している。今年度 113 周年を迎える歴史と伝統を持ち、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。 定時制においても全日制と同じく進路希望達成率 100% を実現しており、生徒主体の実践的教育に取り組んでいる。
15	都立総合工科 高等学校	世田谷区	全 定	機械・自動車科 (70) 電気・情報デザイン科 (70) 建築・都市工学科 (70) 総合技術科 (60)	平成 18 年 4 月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校。全日制では、大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、学科の枠を越えた魅力ある学校設定科目を多く設定することで、充実した専門教育を行なう。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動の振興を図る。 定時制では、資格取得を中心に、2 年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの 3 コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3 年間での卒業が可能な三修制を実施する。
16	都立田無工業 高等学校	西東京市	全	機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35)	本校は、機械科、建築科、都市工学科の三科からなる工業高校である。都市工学科は全国でも数少ない学科であり、建築科は多摩地区の工業高校では唯一本校に設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの科も地域に根ざした技術者の育成を目標としている。また来年度からデュアルシステムを開始いたします。インターンシップについても、引き続き実施しております。
17	都立多摩工業 高等学校	福生市	全	機械科 (70) 電気科 (70) 環境化学科 (35)	・昭和 38 年、西多摩地域に唯一の工業高校として開校、平成 24 年度に 50 周年を迎えた。平成 13 年度、時代とともに進展する生徒の多様化、産業社会のニーズ等に対応するため、工業化学科を都立高校で唯一の環境化学科に学科改編した。 ・さらに、地域産業を担う人材の育成、生徒個々の進路希望に応えるために、学科ごとに類型コース制を導入し、合わせて教育課程の改編を行った。 ・全校をあげての環境教育、環境活動が環境省の提唱する「エコアクション 21 環境経営システム・環境活動ガイドライン」の要求事項に適合するということで平成 19 年 3 月「エコアクション 21」に認証・登録された。 ・平成 23 年度～平成 25 年度 東京都教育委員会「言語能力向上推進指定校」 ・平成 23 年度～「デュアルシステム」導入校 ・平成 24 年度 「防災教育推進指定校」 ・平成 24 年度 「安全教育推進指定校」

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
18	都立中野工業 高等学校	中野区	全 定	総合技術科 (175) 総合技術科 (30)	本校では、総合技術科の特色を生かして、一人一人の自己実現を応援する教育を行っている。また、都内で、唯一食品工業が学べる工業高校である。 1 学年で、工業の基礎を学習しながら、自分が目指す専門分野を探索する。全日制課程では、2 学年から、機械類型、食品工業類型、工業化学類型の係わる各コースを選択し、専門性を深める。定時制課程では、2 学年から、機械類型、食品工業類型のいずれかを選択し、専門性を深める。
19	都立練馬工業 高等学校	練馬区	全	キャリア技術科 (175)	平成 18 年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3 年生では 6 系列（機械加工技術、オートメカニク技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP 技術、インテリア技術）から選択して、より専門的な学習を行います。
20	都立府中工業 高等学校	府中市	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	都教委より「ものづくり人材育成プログラム」の指定を受け各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。 野球部を中心にバスケット部、陸上部、少林寺拳法部、自動車部など活発に活動し実績をあげている。
21	都立本所工業 高等学校	葛飾区	定	総合技術科 (30)	・少人数指導の特色を生かし、きめの細かい・わかりやすい指導を推進している。 ・生涯にわたるキャリア設計に基づいた進路実現が図れるよう支援する。そのための技能・資格取得の指導が充実している。 ・平成 18 年に新校舎が落成。平成 19 年度にグラウンド、人工芝テニスコートも含め、全面改修工事完了。
22	都立町田工業 高等学校	町田市	全	総合情報科 (175)	総合情報科は、情報デザイン、アプリケーション、情報システム、電気システム、機械システムの 5 つの系列からなりますが、1 年次では系列に関係なく同じ内容で学習します。 2 年次から生徒自らの興味や関心、進路希望に基づき 5 系列にわかれ学習します。選択科目も数多く設置しており、充実した施設・設備の下、自分に適した学習ができます。
▽工業に関する学科 (単位制)					
23	都立六郷工科 高等学校	大田区	全 定	プロダクト工学科 (70) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (30) 普通科 1 学年 (30) 生産工学科 1 学年 (30)	平成 16 年 4 月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。東京都初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。全日制課程には、機械系のプロダクト工学科、自動車 3 級整備士資格取得可能なオートモビル工学科、電気電子情報系のシステム工学科、コンピューターグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン工学科の 4 科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科目も 1 学年と 2 学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。 デュアルシステム科は、将来のものづくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大 29 単位卒業の単位として認めている。 定時制には、単位制と 3 修制を取り入れた生産工学科と普通科の 2 科がある。
▽科学技術科					
24	都立科学技術 高等学校	江東区	全	科学技術科 (210) 専攻科 (40)	都立高校改革推進計画に基づき設置された新しいタイプの進学型の専門高校です。平成 24 年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに再指定され「科学技術と人間」などの特色ある学校設定科目の設置、理系進学に対応した豊富な学習量と少人数指導などを特徴として、大学や研究機関と連携を図りながら、理論、実験、研究の 3 ステップ学習による科学技術教育を行っています。
25	都立多摩科学 技術高等学校	小金井市	全	科学技術科 (210)	理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高めます。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。
▽商業に関する学科					
26	都立赤羽商業 高等学校	北区	全	商業科 (210)	昨年、創立 50 周年の記念すべき年を迎えました。商業の専門高校として伝統を引き継ぐとともに、新たなチャレンジに向かって 51 年目のスタートを切りました。 【資格の赤商】【部活の赤商】【ボランティアの赤商】の 3 つの柱のもとで、社会での自立を目標に、就職や進学など生徒の多様な進路実現を支援します。スポーツ科学センターや赤羽自然観察公園など、「西が丘」の恵まれた環境のもとで、商店街連携など地域に育てられ、地域とともに歩む学校です。
27	都立足立 高等学校	足立区	定	普通科 (90) 商業科 (30)	学級数 16、在籍生徒数約 300 名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は 4 学級ある。英語科で習熟度別授業を実施するとともに、芸術科では 2 名の専任教諭により豊かな情操を育てている。定時制のコンピュータ教室は 18 年度最新機種に更新された。学校規模を生かし文化祭やスポーツ大会など数多くの学校行事が行われる一方、部活動もさかんである。

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
28	都立荒川商業 高等学校	足立区	全 定	総合ビジネス科 (210) 商業科 (90)	平成 18 年度より文部科学省「目指せスペシャリスト」スーパー専門高校に指定（3 年間）され、特色ある教育活動を展開している。地元商店会の PR フラッグのデザインを考案（年 4 回更新）したり、生徒のデザインによるラッピング都電（外装塗装）を、平成 18 年より 22 年 3 月まで通常運行させるなど地域に根ざした教育活動が高く評価されている。生徒商業研究発表大会・全国産業教育フェアにも参加。平成 21 年度創立 50 周年を迎えた。
29	都立五日市 高等学校	あきる野 市	全 定	普通科： 「ことばと情報」の コース (80) 商業科 (70) 併合科 (30)	本校は四季折々に変化する武州の山なみに囲まれた静かな五日市に位置しています。普通科は平成 17 年度より「ことばと情報」コースに改編しました。このコースではコミュニケーション能力の修得を柱とし 3 年間で「ことばの力」を身につけます。商業科では二年次に「簿記コース」と「情報コース」に別れ、これからの社会に対応した知識・能力・資格の修得を目指します。26 年度入学者選抜では、普通科及び商業科ともにバスケットボール女子 1 名ずつの文化・スポーツ特別推薦を実施します。定時制は面倒見が良い指導で定評があります。進路実現 100%を目指しています。
30	都立葛飾商業 高等学校	葛飾区	全 定	商業科 (140) 情報処理科 (70) 普通科 (30) 商業科 (30)	全日制は、平成 23 年 4 月に創立 50 周年を迎え地域に根ざした専門高校として、キャリア教育を推進し、資格取得の向上を図り、生徒ひとりひとりの進路実現に取組んでいる。健全育成に努め、社会に貢献できる人材育成を目指している。22・23・24 年度部活動推進、23・24・25 年度言語能力向上推進の各指定、25 年度規範意識向上先行実施校の指定を受けて、あらゆる機会を通して生徒の資質向上と学校生活の充実に取り組んでいる。定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門の部活動が盛んで、生徒の活躍が学校全体の活力になっている。
31	都立江東商業 高等学校	江東区	全	総合ビジネス科 (175)	ビジネス三言語（IT、会計、英語）に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでいる。同時に、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒の指導を行っている。さらに、クラブ活動の振興を積極的に図り、学んで楽しい学校作りを目指している。
32	都立芝商業 高等学校	港区	全	商業科 (210)	平成 17 年度より 4 年連続日本商工会議所 1 級合格者（大学卒業レベル）を出す。公認会計士や税理士の道が開かれています。このような高度資格取得を基に、就職と進学にも力をいれています。「天下の芝商」として、商業（ビジネス）教育の先導的役割を果たしている学校です。
33	都立第一商業 高等学校	渋谷区	全	商業科 (210)	東京都の商業高校のリーダーとして、生徒に愛され、地域に愛され、都民の皆様に信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動をすすめている。高度な資格取得、大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導を充実させており、大学進学では指定校や公募推薦等で現役合格している。平成 22 年度には、卒業生が 20 歳で公認会計士試験にで合格した。ソフトボール部や女子バレー部及び簿記部など部活動も盛んであり、地域連携では、学校開放事業、地域の行事への参加、公開講座や出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。
34	都立第三商業 高等学校	江東区	全 定	商業科 (210) 商業科 (30)	全日制・定時制ともにこれからの日本の経済社会を担う人材を育成する学校として常に商業教育の充実を図っています。基礎・基本を重視するとともに高度資格取得にも力を入れています。また、企業とのつながりを大切にしながら、進路保証 100%を実現を目指しています。今後も優良企業への就職や大学進学に十分に対応できるよう教育活動の点検・改善に鋭意取り組んで参ります。
35	都立第四商業 高等学校	練馬区	全	商業科 (140) 情報処理科 (70)	一マナーの四商、資格の四商、社会人基礎力を養成する学校—昭和 15 年の開設から今日に至るまで、70 年を超える伝統と歴史の中で一貫して産業界で活躍する多くの有為な人材を育成してきました。商店会等と連携した Web ページ・ポスター作成等の体験的授業の実施や IT パスポート試験合格など着実に力をつけています。部活動も盛んで、珠算部・簿記部・ワープロ部の全国大会出場、アーチェリー部は関東大会出場、他にも硬式野球部、女子バスケットボール部、女子バレーボール部、吹奏楽部なども学校として力を入れている。
36	都立第五商業 高等学校	国立市	全 定	商業科 (210) 商業科 (60)	全日制課程は、「資格の五商」「部活の五商」といわれる伝統校です。生涯にわたる学ぶ土台となる基礎基本を幅広く身につけ、社会人としてふさわしい感性やマナーを磨く学校です。定時制課程は、①基礎基本の学習を大切にします。②生活指導に力を入れて指導します。③資格取得と進路実現に力を入れます。④一人ひとりの夢を実現するために計画的に指導します。
▽ビジネスコミュニケーション科					
37	都立千早 高等学校	豊島区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	・英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 ・「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取入れ、会話もイングリッシュキャンプ（1 年）、海外修学旅行（2 年）と行事で実践。 ・新しいビジネス教育分野に NPO / NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。
38	都立大田桜台 高等学校	大田区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	「本当に英語を使える人」を育てるために 10,000 冊の英書を活用した「英語多読」の授業や「アメリカン・キャンプ（1 年生）」「キャリア・アップ修学旅行 in 九州 APU（2 年生）」などの学校行事を通し国際理解を深めます。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「プレゼンテーション技術」「ファイナンス」「ビジネスモデル研究」など多様な学校設定科目により充実したビジネス教育を行います。

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
▽家庭に関する学科					
39	都立忍岡 高等学校	台東区	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	平成 18 年 4 月 1 日、全日制・単位制、普通科と生活科学科の併置校として開校した。 学科の目標は、普通科「大学進学希望の実現」、生活科学科「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成、大学進学希望の実現」である。 単位制を活用して様々な選択科目を設置するとともに、習熟度別授業、少人数授業により基礎的・基本的な学力の定着に努めている。また、大学・専門学校と連携した専門性の高い授業も実施している。茶道、華道、将棋などの「日本の伝統文化」を自由選択科目として第 7 限に設置している。
▽福祉に関する学科					
40	都立野津田 高等学校	町田市	全	福祉科 (35)	平成 8 年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成 18 年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。
▽国際関係に関する学科					
41	都立大島海洋 国際高等学校	大島町	全	海洋国際科 (80)	「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験的な国際教育・海洋教育により、21 世紀の課題を発見・探求するとともに、これに貢献する高い志と国際化社会に対応する優れたコミュニケーション能力、良識、学力、逞しさをもつ国際人を育成します。2 年生からは「国際社会系」と「国際海洋系」に分かれ、前者は文系 4 年制大学、後者は理系・海洋系 4 年制大学や海洋系公務員等を目指します。また、都立高校唯一の実習船大島丸による国際航海学習、海外語学研修を行い、寄宿舎においては自律的な生活習慣を育て、学習サイクルと「宅習 3 時間」による学習習慣により、生徒の進路実現を図ります。
▽併合科					
42	都立大島 高等学校	大島町	全	普通科 (80) 併合科 (農林・家政) (35)	生命と環境のスペシャリストを育てる農林科では、17 万㎡という広大な敷地の中で、草花、野菜、畜産、森林の農業の各分野を、実習をとおして学習できるという特徴があります。広大な農場で、気持ちいい汗をいっぱいかきながら、島民の期待に応える最高の生産品を作り、環境を創造していく実習はこころも身体も健康にしてくれます。生活産業のスペシャリストを育てる家政科では、大島の生活産業現場や社会福祉施設と幅広く連携し、教科書にはない専門的な技術や知識を習得できます。また、地域産業を視野に入れた学習で社会性を磨き、職業観を養い、生徒が自らの進路を深く考えられる授業を展開をしています。
			定	普通科 (30)	
43	都立八丈 高等学校	八丈町	全	普通科 (120) 併合科 (園芸・家政) (35)	八丈島唯一の高等学校として、地域のニーズから左記の各科を設置している。 敷地面積は約 7 万平米 (東京ドームの 1.5 倍) を有する。全日制は習熟度別学習や少人数制を導入し、生徒の学力に応じた授業を展開している (昨年度進路実績 96%)。部活動が大変盛んで、生徒の約 84 % が所属している。 定時制は三修制を取り入れるなど、生徒の要望に柔軟に対応している。島のはば中央に位置し、学校内外、花と緑に囲まれた素晴らしい環境にあり、羽田空港から空路約 50 分、1 日 3 便就航。大変至便な学校である。
			定	普通科 (30)	
44	都立三宅 高等学校	三宅村	全	普通科 (40) 併合科 (農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。
▽産業科					
45	都立橘 高等学校	墨田区	全	産業科 (210)	「ものづくりから流通、販売まで」を総合的に学習して、将来、地域社会・産業界を担う人材と起業家を育成します。「ものづくり・ビジネス・IT」を専門教育の柱に、上級学校への進学を視野に入れた好ましい勤労観・職業観を身につけるキャリア教育を実践します。
			定	産業科 (60)	
46	都立八王子桑志 高等学校	八王子市	全	産業科 ：デザイン分野 (70) ：クラフト分野 (35) ：システム情報分野 (35) ：ビジネス情報分野 (70)	本校は IT 特区&学園都市八王子に開校、産業界や地域社会との連携を発展させます。国家試験をはじめ高度な資格取得や検定合格で自信をつけ将来を切り開き、複眼的に考える力と専門性を身につけ各界において活躍する人材を育て、広く社会から信頼される学校を目指します。特色は、桑高ブランド指導計画「千の夢計画」をもって時代の要請に応える「未来の産業人」の育成です。
▽情報科 (単位制)					
47	都立新宿山吹 高等学校	新宿区	定	普通科 (100) 情報科 (65)	都立高校で最初に「単位制・無学年制」の昼夜間開講の普通科と情報科を設置した学校で、定時制・通信制 (通信制は毎週土曜日にスクーリングを実施している) を設置している、23 年目を迎えた特色ある学校である。生徒は自分の生活スタイルや学習ペースに合わせて学習に取り組んでおり、毎年、国立大学、難関私立大学や専門学校への進学をはじめ公務員、就職などにも力を入れている学校である。通信制課程では、添削・スクーリング・定期考査の 3 点セットをクリアしないと単位認定できない全国でも先進的な学校である。
			通	普通科 (60)	

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
▽総合学科 (単位制、チャレンジスクール)					
48	都立青梅総合 高等学校	青梅市	全 定	総合学科 (240) 総合学科 (90)	平成 18 年旧都立農林高等学校跡地に、全・定併置の総合学科高校として開校した。豊かな自然に恵まれ、都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を活用して食・農・環境等の様々な体験活動を通して学ぶ特色ある総合学科高校である。 全日制課程は文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の 5 系列を、定時制課程は生命・自然、生活・福祉の 2 系列を設けている。
49	都立葛飾総合 高等学校	葛飾区	全	総合学科 (240)	平成 19 年 4 月に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。 国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、環境サイエンス、情報メディア、メカトロニクス の 6 系列を通して、生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目と大胆な選択制を採用して、生徒一人ひとりに明確な目的意識を育てつつ、希望進路実現を図る。
50	都立杉並総合 高等学校	杉並区	全	総合学科 (240)	都立桜水商業高校と都立永福高校とを前身として、平成 16 年度に都立で 3 番目の総合学科高校として開校。国際理解教育やキャリア教育を重視、部活動の推進や学校行事の充実などと合わせて、生徒の意欲を高め「生きる力」を育て、個性や能力の伸長をめざす。
51	都立世田谷総合 高等学校	世田谷区	全	総合学科 (240)	○平成 20 年 4 月開校 ○幅広い 6 系列（社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり）に魅力ある様々な選択科目を配置し、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー（身だしなみ、頭髪等）を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視
52	都立つばさ総合 高等学校	大田区	全	総合学科 (240)	平成 14 年に新規開校した都立 2 校目の総合学科高校である。国際・コミュニケーション、美術・デザイン、スポーツ・福祉、情報・サイエンス、生産・テクノロジーの幅広い 5 系列を持ち、生徒の能力、興味・関心に基づいた個人別カリキュラムで勉強ができ、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001（国際環境認証）を取得し、環境教育にも力を入れている。平成 19 年度「環境大臣賞」を、平成 21 年度には「文部科学大臣賞」を受賞した。地域との連携も深めている。
53	都立晴海総合 高等学校	中央区	全	総合学科 (240)	東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成 8 年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会経済の 6 系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図れる学校である。
54	都立東久留米 総合高等学校	東久留米 市	全 定	総合学科 (240) 総合学科 (60)	本校は、平成 19 年 4 月に開校した全日制、定時制併置の総合学科高校。 全日制では、学ぶ意欲を育てるための魅力授業や先進的な進路指導により大学などへの希望進路の実現を図る。自然科学、人文科学、情報・ファイナンス、スポーツ科学、看護・福祉、美術・デザインの 6 系列を設置。 定時制では、教養、情報・ファイナンスの 2 系列を設置するとともに、三修制を実施。
55	都立若葉総合 高等学校	稲城市	全	総合学科 (240)	平成 17 年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の 4 系列を持つ。 教育目標のコンセプト ” TO BE AMBITIOUS, ACTIVE, AND ATTRACTIVE” ※大志を抱き (AMBITIOUS)、生き生きと活動し (ACTIVE)、魅力あふれた (ATTRACTIVE) 若者を育てる学校
56	都立町田総合 高等学校	町田市	全	総合学科 (240)	○平成 22 年度 4 月開校、全日制総合学科高等学校 ○社会での生き方を視野に捉えた「キャリア教育」を教育活動の根幹とした学校 ○校訓「創」;「自分創り」に取組み、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○基本的な学力を養うとともに、生徒一人ひとりが自己実現のための科目を自ら選択する。自分で創る自分自身のための時間割 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の 4 つの系列・自らを磨く「日本文化」の授業・社会と連携し、体験を重視した教育活動・自主・自立・自律の部活動
57	都立王子総合 高等学校	北区	全	総合学科 (240)	平成 23 年度開校、全日制総合学科高等学校。 ○「Design Your Dream」(自己の生き方を真剣に考え将来を切り開く力をつける学校)をキャッチフレーズとしている。自己の進路へ自覚を深め自ら夢を描き、その実現に向かって意欲的に計画し実行する行動力と態度を育てていきます。 ○「メディア・ネットワーク」「ビジネス・コミュニケーション」「工業・デザイン」「伝統文化・工芸」「スポーツ・健康」の 5 つの系列があります。
58	都立大江戸 高等学校	江東区	定	総合学科 (150)	平成 16 年 4 月開校の三部制総合学科 (単位制、定時制) 高校。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行います。体験学習や実習を重視し、少人数の授業で一人一人が分かるまで指導します。「一人一人の学びを実現する学校」「一人一人のチャレンジを支援する学校」「地域に支えられ育てられる学校」
59	都立桐ヶ丘 高等学校	北区	定	総合学科 (150)	平成 12 年度に開校した、最初のチャレンジスクール（総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制）です。 『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の 3 系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。
60	都立世田谷泉 高等学校	世田谷区	定	総合学科 (180)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「製作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
61	都立稔ヶ丘 高等学校	中野区	定	総合学科 (210)	平成 19 年 4 月に開校したチャレンジスクール（三部制定時制、総合学科、単位制）です。各学年 7 学級で、校服（制服）があり静かな学習環境です。心理学に裏づけされた授業「コーピング」があり、「対人関係力、学習スキル」を向上させていきます。「強い（つよい）心」「自立した未来」のもとたくさんの選択科目や少人数授業、体験学習を行っています。
62	都立六本木 高等学校	港区	定	総合学科 (150)	平成 17 年に開校し九年目を迎えたチャレンジスクール。小・中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒及び、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしている。教育目標は“見つけて磨いて 未来を拓く”である。演劇・美容・和太鼓・陶芸等、市民講師による特色ある授業も実施している。三修制により平成 25 年度末には第 7 回目の卒業生が出ます。
▽普通教育を主とする学科（単位制）					
1	都立浅草 高等学校	台東区	定	普通科 (240)	平成 18 年 4 月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9 階建て全館冷暖房完備のオフィスビルディングタイプの校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと保育体験や介護体験のできる「体験学習」などを特色とする。

国立高校

1	東京工業大学 附属 科学技術 高等学校	港区	全	科学・技術科 (推薦 60、一般 140)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2 年次から、材料科学・環境科学・バイオ技術、情報・コンピュータサイエンス、システムデザイン・ロボット、エレクトロニクス・エネルギー・通信、立体造形・デジタルデザインの 5 分野に分かれる。
---	------------------------------	----	---	--------------------------	--

高等専門学校

1	都立産業技術 高等専門学校	品川区	全	ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32)	平成 18 年度に都立工業高等専門学校（工業高専）と都立航空工業高等専門学校（航空高専）の再編統合を行い、本科の”ものづくり工学科”に新たな 8 つの教育コースを設置した東京都立産業技術高等専門学校を開校しました。本校では「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」を目指しています。更に、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる、より高度な総合的実践的技術者を育成することを目指し、本科 5 年の上に 2 年の専攻科課程”創造工学専攻”を設置しています。平成 20 年 4 月には、公立大学法人首都大学東京に移管し、同法人の首都大学東京及び産業技術大学院大学との連携を推進しています。
		荒川区			

専修学校

1	愛国学園保育 専門学校	江戸川区	昼	幼児教育科 (50) 介護福祉士専攻科 (40)	本校は、昭和 44 年に設立された伝統のある専門学校である。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭 2 種免許状が取得でき、介護福祉士専攻科は、卒業と同時に介護福祉士資格が取得できる。学生は、完備された学園において、斯界の権威ある教授に囲まれ、楽しく熱心に勉強している。 就職についてみると、幼児教育科は毎年ほぼ 100% の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職している。介護福祉士専攻科は、毎年 100% の就職率となっており、介護老人福祉施設などに就職している。 卒業生は勤務先から、専門に精通しており、明るく元気で、礼儀正しく、真面目で就職後もよく成長するという評価を得ている。
2	青山製図 専門学校	渋谷区	昼	建築工学科 (35) 建築設計デザイン科 (80) 建築インテリア工学科 (35) 商空間デザイン科 (30) 建築インテリアデザイン科 (65) 建築設計研究科 (60)	昭和 52 年に設立以来、設計・製図・デザイン・CAD の技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の 8 学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
			夜	建築科 (60) インテリア工学科 (30)	
3	国際デュアル ビジネス専門 学校 (新校名) 国際観光専門 学校 (旧校名)	台東区	昼	国際観光学科 4 月生 (40) 10 月生 (40) 国際ホテル学科 4 月生 (80) 航空貿易学科 4 月生 (40) 医薬・医薬学科 4 月生 (40)	実践的な観光、医療及び業従事者の育成を目指し、座学と企業実習を組み合わせた教育を行っている。 現場力のある職業人を養成していく。 平成 22 年 4 月より国際デュアルビジネス専門学校と校名を変更した。
4	国際理容美容 専門学校	荒川区	昼	専門課程⇒ 理容科 (80) 美容科 (120) ビジネス美容科 (120) 【修業年限 2 年】 高等課程⇒美容高等科 (40) 【修業年限 3 年】	理容師・美容師の育成、ホスピタリティマインド豊かなエステティシジャンの養成等で、本校が半世紀に渡る教育を育んできた、技術教育を超えた「技術者教育」と、心と技術が織りなす感動を未来へ伝承することができる「美の創造者」を育成することを目指としています。
			夜	専門課程⇒美容科Ⅱ部 (40) 【修業年限 2 年】	
			通	理容科 (40)、美容科 (80) 【修業年限 3 年】	

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
5	中央工学校	北区	昼	建築学科、建築工学科、 建築設計科、木造建築科、 建築設備設計科、建築室 内設計科 (250) インテリアデザイン科 インテリア科 (40) エン ターテインメント設営科 (20) 都市環境学科、土 木建設科、造園デザイン 科、測量科、地理空間情 報科 (170) 機械学科、メカニカルデ ザイン科、3 D-C A D 科 (50) スポーツ健康学 科 (40)	中央工学校は 1909 年 (明治 42 年) に創設し、2009 年 10 月 21 日創立 100 周年を迎えた。伝統と歴史を誇る専門学校で、社会に送り出した卒業生は 10 万人を超え日本の国づくりをリードしています。教育理念を『厳しい実務教育』『人間涵養教育』『楽しい学校生活』『誇りの持てる学校』とし、時代の変化やニーズに対応した教育内容と実習施設・設備を完備し、本格派の技術者を育成しています。学習面においては、クラス担任制で決め細やかな指導を行い、教師陣も技術革新の時代にふさわしい内容で備えています。学生寮なども充実しており、地方からの進学者にも安心して学べる環境となっています。資格についても建築系の全ての学科で卒業と同時に 2 級建築士の受験資格、土木・造園・測量系学科では国家資格の測量士補が卒業と同時に無試験取得できる学科などプロフェッショナルになるためのカリキュラムを整えており、また、資格取得のバックアップ体制も整えています。就職指導においては、全国に広がった卒業生とのネットワークを活かしてクラス担任と就職指導の担当職員が連携を取り、学生の希望職種に就職できるようにしっかりとサポートしています。毎年ほとんどの学生が自分の目指す職業に内定を決めています。『中央工学校＝就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。
			夜	建築科 (80) 土木科・測量科 (30)	
6	東京エアトラベル・ ホテル専門学校	小金井市	昼	エアライン科 (60) エアポートサービス科 (40) 英語キャリア科 (30) ホテル科 (60) ブライダル科 (40) ビジネスマナー・秘書科 (40) ファッションビジネス科 (40) 観光旅行科 (30) 鉄道交通科 (40) 研究科 (20)	昭和 48 年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、鉄道の各分野に優秀な人材を送り出している。仕事に直結した豊富な実習やインターンシップ実習での現場を体験、ことば遣いや礼儀作法などのホスピタリティ教育、英語の他にも近年需要が高まっている中国語や韓国語などの語学教育など充実したカリキュラムで、社会で通用する人材を育成。こうした教育内容が評価され、航空会社の採用指定校にも選ばれている。
7	東京工学院 専門学校	小金井市	昼	コンサート・イベント科 (60) 音響芸術科 (30) ミュージック科 (30) 放送芸術科 (30) 演 劇・声優科 (40) ゲー ムクリエイター科 (40) CG クリエーター科 (20) Web クリエーター科 (20) マンガ科 (40) アニメー ション科 (30) グラ フィックデザイン科 (30) スポーツビジネス科 (60) 幼児教育学科 (40) こども学科 (40) 教育 専攻科 (30) 公務員科 (30) 建築学科 (40) インテリアデザイン科 (30) 情報システム科 (40) 情報学科 (20) 電 気電子学科 (40) 電気 主任技術者専攻科 (20) 航空学科 (20) 法律情 報科 (30) 経営情報科 (40) 大学併修学科 (40) 研究科 (20)	昭和 34 年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を 50 年以上社会に送りだしている。 27 学科 41 コースもの多彩の専門分野から構成される総合学院であり、各専門分野の知識や技能を修得するのみならず、他の専門分野との学科間、コース間を越えた学びも可能。それぞれの専門分野が協力して成り立っている社会という形を学校内に再現することで、学生たちにとっては貴重な経験となっている。一つのキャンパスで様々な専門分野を学ぶ学生同士が交流できることで、新たな価値観に触れ視野を広げ、コミュニケーション能力を鍛えられるのも特長の一つ。各学科は少人数制なので、学生一人ひとりの個性や適性に合わせた丁寧な指導を実施。また、中央大学、産業能率大学との 4 年制大学通信教育課程と連携した W スクールシステムにより、「専門士」と「学士」の両方の学位の取得も可能。 ビジネスの最先端で求められる力を身につけたスペシャリストの育成を目指している。
8	専門学校東京工科 自動車大学校 (新校名) 東京工科専門学校 (旧校名)	中野区	昼	1 級自動車整備学科 (4 年・40 名) 自動車整備学科 (2 年・160 名) エンジンメンテナンス科 (2 年・80 名)	平成 22 年 4 月より専門学校東京工科自動車大学校と校名を変更し、自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラム改革を展開し、安心できる授業システムによる解る・出来る取れる授業運営をしております。
9	東京誠心調理師 専門学校	大田区	専門	調理師科 2 年制 (120) 調理師科 1 年制 (120) [調理技術・洋菓子製パン・福祉調理]	1970 年創立。2007 年 8 月京急蒲田駅西口すぐそばに H A C C P や I S O 22000 に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。 調理師科 2 年制には、学内レストランにて、一般の方々を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができる。 その他にも地元下丸子の農園と提携し、野菜 (食材) の提供だけでなく学生が体感できる農場実習も実施しています。 この他、毎年 2 月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。 2012 年からは、週 3 日制の夜間部 2 年制を開校。社会人や大学生の方々にも入学し易い学科を設立。
			高等	調理師科夜間部 2 年制 (40)	

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
10	東京デザインテクノロジーセンター専門学校	新宿区	昼	スーパー IT 科 (80) IT・デザイン科 (80) IT・デザインコミュニケーション科 (80)	本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。学科は、IT を核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。
11	東京美容専門学校	新宿区	昼	ヘアスタイリスト科 (専門課程)(80) エステティック科 (専門課程)(16) トータルビューティー科 (専門課程)(40) メイク・ネイルアーティスト科 (一般課程)(40)	本校は 1947 年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に 60 年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約 80 店舗のヘア&ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
			通	美容通信科 (通信) (80) エステティック通信講座 (16)	
12	東京ホテルビジネス専門学校	豊島区	昼	総合サービスビジネス科 (80 名) ホテル・レストランコース、ブライダルプロデュースコース	接客&ホテル業界に的を絞った専門教育を展開。客室、ドア・ベルパーソン、フロントを中心に全般的ホテルビジネスを学ぶホテリアコース、料飲部門 (料理・飲料) のサービススタッフを育成するレストラン&バーコース、ホテルの宴会・婚礼ビジネスを総合的に学び、ブライダルのコーディネーターの仕事とビューティーに関する知識・技術の学べるブライダルプロデュースコースがある。
13	日本電子専門学校	新宿区	昼	コンピュータグラフィックス科 (160)、高度コンピュータグラフィックス科 (40)、CG 映像製作科 (40)、ゲーム制作科 (150)、ゲーム制作研究科 (120)、ゲームCGデザイン科 (80)、ゲーム企画科 (80)、アニメーション科 (80)、アニメーション研究科 (40)、Web デザイン科 (80)、グラフィックデザイン科 (80)、コンピュータミュージック科 (40)、ケータイ・アプリケーション科 (40)、Web システム科 (40)、組込みシステム科 (80)、コンピュータネットワーク科 (80) ネットワークセキュリティ科 (80) 情報処理科 (120) 情報システム開発科 (80) 高度情報処理科 (80)、電子応用工学科 (40) 電気工学科 (50) 電気工事技術科 (50)	「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」という建学の精神により、現在は「最先端の技術をいち早く実学として取り込み、個性を生かせる教育環境の中で、国際社会に貢献することのできる感性豊かなスペシャリストを育成する」を教育理念として掲げ、独自の教育システムを構築している。
			夜	コンピュータグラフィックス科 (40)、キャラクターデザイン科 (40)、ゲーム制作科 (40)、ネットワークセキュリティ科 (40)、情報処理科 (40)、電気工学科 (50)、電気工事士科 (50)	
14	二葉栄養専門学校	武蔵野市	昼	管理栄養士学科 (40) 栄養士科 (120) 調理師科 (136)	二葉栄養専門学校は開校以来数多くの調理師、栄養士の養成をしてまいりました。平成 14 年より管理栄養士学科を東日本地区にて第一番目に設置し、平成 20 年には第 3 期生の 87.8%を合格者として輩出いたしました。栄養士科においては 2 つのコースを 2 年次に選択し、希望の就職先に合わせた教育により就職希望者に対する就職率 100%を実現しています。又、調理師科においては基礎衛生知識と食の安全を中心に学習、調理技術実習は 354 時間設定し、知識と技術をバランスよく学び即戦力に対応できる人材を育成しています。
15	マリールイズ美容専門学校	新宿区	昼	美容本科 (40) ・ブライダルアーティストコース ・国際スタイリストコース	創立者マリールイズ女史の言葉にあります「一に人格、二に技術」をモットーに人材育成に努めております。また、明治神宮・明治記念館・目黒雅叙園にある美容室を運営する関連会社(株)美容マリールイズの協力のもとに、ブライダルアーティストコースと国際ヘアスタイリストコースを設置し、プロを養成する実践的なカリキュラムを編成しております。
16	武蔵野東技能高等専修学校	武蔵野市	昼	総合キャリア学科 (75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間の成長を図る。また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。

	学校名	所在地	課程	平成 26 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
17	日本工学院 専門学校	大田区	昼	放送・映画科 (160) 声優・俳優科 (240) マンガ・アニメーション 科四年制 (40) マンガ・アニメーション 科 (240) ゲームクリエイター科四年 制 (40) ゲームクリエイター科 (120) CG映像科 (40) グラフィックデザイン科(40) インテリアデザイン科(40) プロダクトデザイン科(40) ミュージックアーティスト 科 (120) コンサート・イベント科 (240) レコーディングクリエイ ター科 (80) ダンスパフォーマンス科(40) ITスペシャリスト科(80) 情報処理科 (200) パソコン・ネットワー ク 科 (40) 情報ビジネス科 (40) 電子・電気科 (160) 環境・バイオ科 (40) 建築学科 (40) 建築設計科 (80) 機械設計科 (40) 診療情報管理士科 (30) 医療秘書・事務科 (30) 臨床工学専攻科一年制 (80)	本校は、1947 年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来創造に寄与する」をミッションとし、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、それぞれが各分野の第一線で活躍していることが、本校の教育の何よりもの実績と自負しております。 多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制 長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、グレードの高い専門教育を実現するために、創立 60 周年となる 2007 年にはカレッジ制を導入しました。総合専門学校のメリットはそのままに、これまでの学科を発展させ、より専門性を追求する学習環境を実現。「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わりました。 「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療」の 6 つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造を実現しています。 より充実した教育を提供する「教育設計図」 本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結集・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。すべての学生にこの「教育設計図」に基づいた「専門力」教育を行うとともに、社会人として必要不可欠となる「人間力」の育成にも力を入れ、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。
18	日本工学院 八王子専門学校	八王子市	昼	放送・映画科 (80) 声優・俳優科 (120) マンガ・アニメーション 科四年制 (40) マンガ・アニメーション 科 (120) ゲームクリエイター科四年 制 (40) ゲームクリエイター科 (80) CG映像科 (40) グラフィックデザイン科(40) インテリアデザイン科(40) プロダクトデザイン科(40) ミュージックアーティスト 科 (120) コンサート・イベント科 (120) レコーディングクリエイ ター科 (80) ITスペシャリスト科(40) 情報処理科 (120) パソコン・ネットワー ク 科 (40) 情報ビジネス科 (40) ロボット科 (40) 電子・電気科 (120) 一級自動車整備科 (50) 自動車整備科 (100) 応用生物学科 (40) 建築学科 (40) 建築設計科 (80) 土木・造園科 (80) 機械設計科 (40) 鍼灸科 (60) 柔道整復科 (60) 診療情報管理士科 (40) 医療秘書・事務科 (40) スポーツトレーナー科三年 制 (80) スポーツトレーナー科 (40) スポーツ健康学科三年制 (40) スポーツ健康学科 (120) こども学科 (80)	本校は、1947 年に東京都大田区西蒲田に創立した創美学園を起源とし、1987 年に八王子市に開学しました。「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来創造に寄与する」をミッションとし、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、それぞれが各分野の第一線で活躍していることが、本校の教育の何よりもの実績と自負しております。 多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制 長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、グレードの高い専門教育を実現するため、2007 年にはカレッジ制を導入しました。総合専門学校のメリットはそのままに、これまでの学科を発展させ、より専門性を追求する学習環境を実現。「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わりました。 「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療」「スポーツ」の 7 つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造を実現しています。 より充実した教育を提供する「教育設計図」 本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結集・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。すべての学生にこの「教育設計図」に基づいた「専門力」教育を行うとともに、社会人として必要不可欠となる「人間力」の育成にも力を入れ、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。

短期大学

1	愛国学園 短期大学	江戸川区	全	家政科： 家政専攻 (50) 食物栄養専攻 (50)	家政専攻では、豊かな教養を身につけるとともに、衣食住の分野に渡り実践的なスキルを持つ自立した社会人を育成します。中学校教諭二種免許（家庭）、医療事務管理士（医科）の取得も可能です。食物栄養専攻では、食と健康に関わる専門的な知識と技術をもち、人々の健康の維持・増進に役立つ栄養士を育成します。栄養士の資格に加えて、フードスペシャリストの課程も備えています。さらに、両専攻ともに卒業と同時に社会福祉主事任用資格を、また、所定の単位を取得する（又は所定の科目を学ぶ）ことによりフードコーディネーター3級の資格を取得でき、P検、秘書技能検定、簿記検定、アロマセラピー3級などの検定資格取得も支援しています。
2	東京家政大学 短期大学部	板橋区	全	保育科 (120) 栄養科 (80)	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。

平成25年度会員中学校

公立中学校

	学校数		学校数		学校数		学校数		学校数
千代田区	3	墨田区	11	渋谷区	8	練馬区	34	調布市	8
中央区	4	江東区	23	中野区	11	足立区	37	狛江市	4
港区	10	品川区	15	杉並区	23	葛飾区	24	東大和市	5
新宿区	10	目黒区	10	豊島区	8	江戸川区	33	羽村市	3
文京区	10	大田区	28	北区	12	武蔵野市	6	三宅村	1
台東区	7	世田谷区	29	荒川区	10	府中市	11	合計	398

都立中学校
都立白鷗高等学校附属中学校
都立両国高等学校附属中学校
都立武蔵高等学校附属中学校
都立富士高等学校附属中学校
都立大泉高等学校附属中学校
都立小石川中等教育学校
都立桜修館中等教育学校
都立立川国際中等教育学校
都立南多摩中等教育学校
都立三鷹中等教育学校

私立中学校
愛国中学校
武蔵野東中学校

国立大学法人
筑波大学附属中学校

本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、東京都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善を図り、産業経済の発展に寄与する」等を目的としています。

産業教育に関心のある企業や個人で、入会希望の方または新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

(問合せ先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2 - 8 - 1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課

東京都産業教育振興会 事務局

T E L 03-5320-6729 F A X 03-5388-1727

編 集 後 記

特集テーマは、昨年度に引き続き「生徒の進路実現を図る専門教育の取組」とし、学校会員の各学科での実践的な教育活動や特色ある取り組みについて執筆していただきました。また、産業界へは2社にお願いしてご執筆いただきました。ここに貴重な時間を割いてご執筆いただきました皆様へ感謝申し上げます。

学校や教育行政が産業界と連携して、産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要なことですが、昨今の社会経済状況や普通科志向は、産業教育にとって厳しい現実となっております。従って更なる産業教育の向上・改善・深化に向け、教育力を高める必要があります、本誌が幾許かの参考になればと願っております。今後とも、本会へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。(生)

ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン (平成 24 年度本誌 50 号記念表紙デザインコンクール最優秀作品)

製作者 川口彩花さん (東京都立工芸高等学校 グラフィックアーツ科 3 年:当時)

東京の産業教育 第 51 号

発 行

平成 26 年 (2014 年) 3 月 1 日 発行
東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿 2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課

TEL 03 (5320) 6729 FAX 03 (5388) 1727

印 刷

昭和印刷株式会社

再生紙を使用しています

あらゆる美の感性を磨く。
それは喜びと感動のはじまり。

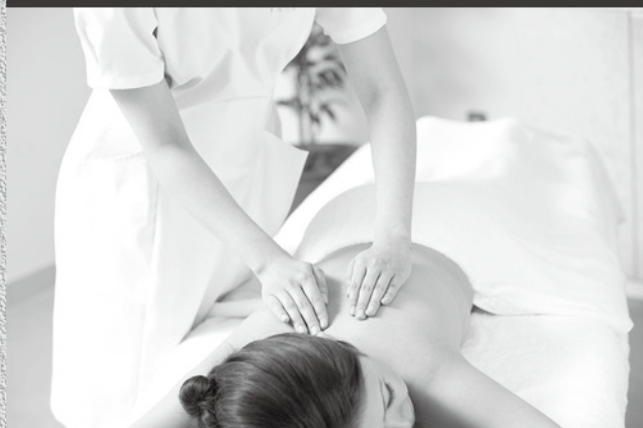
美容総合科 ヘアスタイリストコース



美容総合科 トータルビューティーコース



エステティック科



メイク・ネイルアーティスト科



美容通信科

エステティック通信講座

体験入学

体験実習(選べる2コース)&個別説明
土・日は毎週開催
午前の部:10時~12時30分(先着4名)
午後の部:14時~16時30分(先着4名)

ご予約はコチラ

☎0120-344276
<http://www.tahb.ac.jp/nyugaku/taiken.html>

カット&スタイリングコース・フェイシャル&ネイルアートコース
※希望のコースと土曜日から日曜日の午前か午後をお選びください。



携帯QRコード
からお申込み

tahb*

Tokyo Academy of Hairdressing & Beauty

学校法人 田中芸術学園
東京美容専門学校

〒161-8557 東京都新宿区下落合1-2-4 03-3360-6061 <http://www.tahb.ac.jp> info@tahb.ac.jp

教育備品総合商社

ヤマ産業株式会社

学びの場づくりの一翼をになつて、
教育現場からのきびしい要求にお応えします。

■ スチール・木製家具

■ 各種特別教室

■ 黒板・スクリーン

■ 学校用品

■ 室内装飾

■ 図書館設備

■ 視聴覚設備

■ OA事務機器



〒112-0015

東京都文京区目白台3-26-8

TEL：03(3941)7258

FAX：03(3943)3826

- 東京都指定 児童発達支援・放課後等デイサービス
- 学習困難な児童・生徒のための進学・補習塾
- 東京都支援事業 「オンライン学習塾」

進学・補習の 翼学院

「1か月で偏差値20伸ばす芦澤式学習法」

もくじ



- [第1章] 芦澤式学習法～教育関係者、保護者が心得ておくべき視点
- [第2章] 芦澤式コミュニケーション法～自尊心、意欲向上のために
- [第3章] 芦澤式の真髄～記憶の仕方から問題の解き方まで
- [第4章] こんな授業をする塾、学校を選べ～50人の個別指導を可能とする芦澤式クラス指導法によるチェックリスト
- [第5章] 芦澤式面接・小論文突破法
- [第6章] 芦澤式子育て道
- [第7章] 大きく羽ばたくツバサ生たち～ご家庭との連携による学習支援
- [第8章] 方針も経営も安定した塾選びのための視点

サクセス! 一般常識&図解時事 2015年度版



定評のある「サクセス!」シリーズを今年度は大リニューアル。

特徴1 巻頭は、時事問題を詳しく解説。カラーページも16ページあります。

特徴2 本編は、図や表も多く入り、理解や暗記がしやすい。

特徴3 別冊には、業界ごとに押さえておきたいキーワードも収録。

特徴4 無料で本書のダイジェスト版アプリをダウンロードできます。移動中の確認に便利!

学院長・芦澤唯志の著書や NHK 総合テレビ、雑誌・新聞のインタビュー記事を読んで「葛飾区外・東京都外から通塾」する塾生や「中学・高校のカウンセリングルーム・教員からの紹介」

マスコミで多数紹介!

による塾生が多数在籍!

☆文部科学省委託事業教材普及推進委員

☆東京商工会議所葛飾支部副分科会長



進学・補習の
翼学院

青砥駅前校

水元校

お問い合わせは...

03-5699-5283

ゴーカクツバサ

翼学院

検索

Feel Next Stage

Since 1909

中央工学校

100年を超える伝統と実績！
あなたの夢《未来》を勝ち取る！



建築・木造・設備

- 建築学科 (4年) ■建築設備設計科 (2年)
- 建築工学科 (3年) ■建築室内設計科 (2年)
- 建築設計科 (2年) ■夜間 建築科 (2年)
- 木造建築科 (2年)

《建築関連学科》

— 平成25年1級建築士試験 専門学校トップの合格者数 —
平成25年1級建築士試験「設計製図の試験」学校別合格者一覧が発表され、専門学校では連続トップの成績を収めました。
(平成25年12月19日、財団法人建築技術教育普及センター発表)



室内・インテリア・家具

- インテリアデザイン科 (3年)
- インテリア科 (2年)

《インテリア関連学科》

住空間・商業空間のインテリアデザインから、施工方法まで学び、さらに家具デザイン・家具制作技術などを身につけた、インテリアデザイナーを目指します。



舞台美術・イベント設営

- エンターテインメント設営科 (2年)

《エンターテインメント設営科》

TVや野外ステージなどの設営に必要な設計技術(舞台造形・空間装飾デザインなど)から、仮設足場を計画し、イベント設営物の制作・設営技術まで習得します。



土木・測量・造園

- 都市環境学科 (4年) ■造園デザイン科(2年)
 - 土木建設科 (2年) ■夜間 土木科 (2年)
 - 測量科 (1年) ■夜間 測量科 (2年)
 - 地理空間情報科(1年)
- 《測量士補取得者対象》

《土木・測量関連学科》 ※造園デザイン科を除く

Point 1

卒業と同時に測量士補を無試験取得※

Point 2

2年の実務で測量士を無試験取得※

Point 3

地理空間情報科を卒業すると測量士を無試験取得



機械・CAD

- 機械学科 (4年)
- メカニカルデザイン科 (2年)
- 3D-CAD科 (2年)

《機械・CAD関連学科》

身の回りの工業製品などの、設計技術を作品制作を通して、習得します。
また、最先端のCAD技術を短期間に習得できます。



スポーツ《ビジネス・トレーナー・インストラクター》

- スポーツ健康学科 (2年)
- ・スポーツビジネスコース ・チャイルドスポーツコース
- ・スポーツインストラクターコース ・福祉スポーツコース
- ・スポーツトレーナーコース ・競技スポーツコース

《スポーツ健康学科》

スポーツの専門知識や技術はもちろん身に付きますが、PC・流通・簿記会計のビジネス教育も学び、スポーツ業界で幅広く活躍できるスペシャリストを育成します。

〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目 26-17
TEL : 03-3905-1511 (入学相談室) ☎ 0120-79-1511
PC : <http://chuoko.ac.jp> (携帯からもアクセス可)
Mail : info@chuoko.ac.jp



オフィシャルサイトにアクセスできます。
(資料請求や学校説明会・体験入学の申込可能)



伝承される技術と心。

The beauty training school which was established by The principal Marie Louise at 1912. By keeping the history and tradition for 100 years, it has become The Marie Louise Beauty Special School. We have philosophy that of '1st personality, 2nd technique'. We educate students who will be able to produce the beauty and the happiness. We create originality by absorbing from the leading fashion, yet inheriting from the tradition. Yes! We, Marie Louise Beauty Special School, will send out many 'professionals' to the world.



マリールイズ美容専門学校が新たな歴史を歩み始めました。

初代校長マリールイズが創設した美容講習所は、
100年の歴史を経て現在のマリールイズ美容専門学校に至っています。
「一に人格、二に技術」という理念のもと、美と幸せをプロデュースする人材を育成。
伝統を受け継ぎながらも、時代の最先端をゆく美容を取り入れ、
オリジナリティを大切にした教育方針で、「プロフェッショナル」を送り出しています。

■ 国際ヘアスタイリストコース

海外経験豊かな教員の指導のもと、語学、技術ともに将来グローバルに活躍する美容師育成に力を入れています。

■ ブライダルアーティストコース

マリールイズグループで婚礼美容業務に携わっている教員の指導のもと、着付けはもとより、ヘアセット、アップ、メイクまで丁寧に教育しています。

● 一学年 40 名の少人数体制 ● 美容師免許取得可能 ● 充実したサロン実習

「学校見学 & 体験入学」随時受付中！ ※詳しくは電話又はホームページにてお問い合わせください。



学校法人 マリールイズ学園 厚生労働大臣指定

マリールイズ美容専門学校

＜お問い合わせ＞

TEL: 03-3357-8015 www.marie-louise.ac.jp

「未来」と「世界」を見せる、カナック企画です。

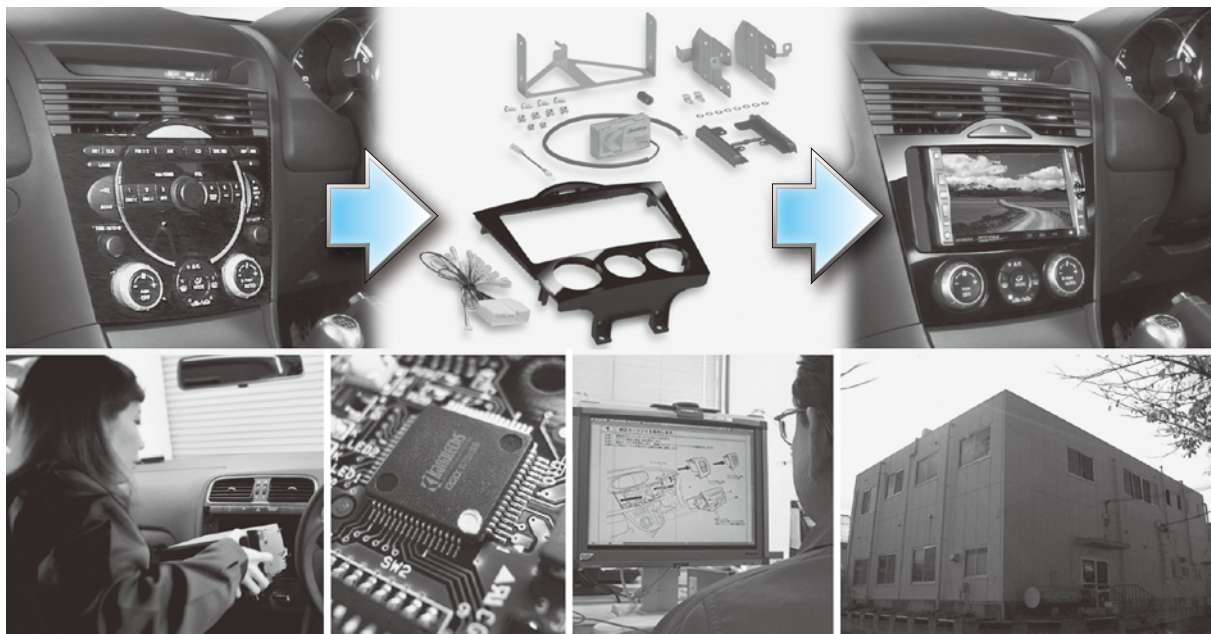
「ものづくり」と「おもてなし」の調和…

良い仕事をすればお客様が喜びます。
お客様が喜ばば利益が生み出せます。
利益を生み出せば社会に貢献できます。
社会に貢献できれば会社が繁栄します。
会社が繁栄すれば社員が成長できます。
社員が成長すれば生活が豊かになります。

・・・だから、私たちは良い仕事をします。

カー A V 取付キット

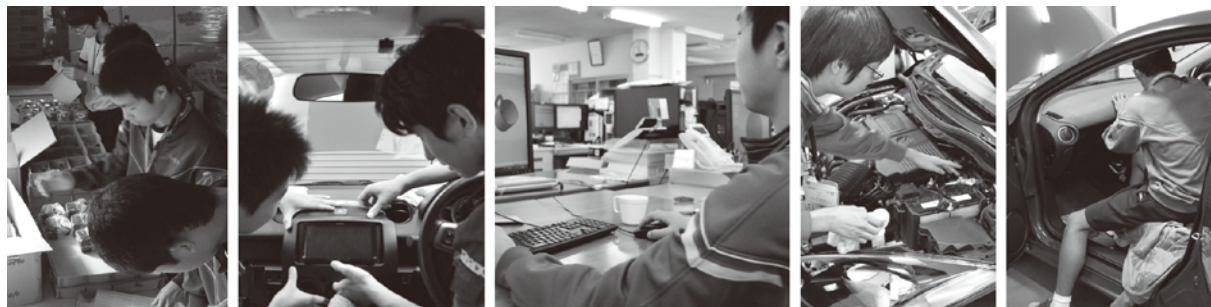
「カー A V 取付キット」とは、車種ごとに違う様々な内装形状に対応した、市販のカーオーディオやカーナビゲーション等のカー A V 機器を取り付けるためのキットです。



1974年、日本で初めて市販カーラジオ用取付キットを開発し以来累計1,000万台以上の取付キットを生産してまいりました。現在では400機種以上の製品をラインナップし、500車種以上の車に対応しています。今も、そしてこれからも取付キット業界において日本のトップメーカーであり続け、世界市場にその視線を向けて行きます。

社会貢献活動

社会貢献活動の一環として毎年地域中学校、高等学校の実習受け入れを行い、次世代技術者の育成に力を注いでいます。インターンシップをご希望の学校がございましたらお問い合わせください。



※写真は2013年に行った職場体験実習の様子です。

kanack 株式会社 カナック企画

〒125-0032 東京都葛飾区水元 1-4-10
Tel 03-5660-1234 (代表) Fax 03-5660-1231
E-mail info@kanack.co.jp URL <http://kanack.co.jp/>



エレベーター
保守・改修
新設

安全性

を徹底的に追及したら、ブレーキが
ダブルになりました。

業界初！エレベーターの新基準

”2” ダブルブレーキシステム

ブレーキの二重化により今まで以上に
安全性の高い巻上機を実現しました。

太陽光発電

土地・建物の空きスペースを活用し

収益化

しませんか？

国・県・市などに補助金の申請が可能
地域によって異なりますので
詳しくは営業担当までお問い合わせください。

ソーラー
発電システム
企画・販売

LED照明
製造・販売

初期費用
「0円」で
LED導入が可能
「ランニングコスト」も
「CO²」も大幅削減！

※リース・レンタル等、お客様に最適なプランをご提案いたします。詳しくはお問い合わせください。

SECメンテナンスサービス全国4万台の実績！



エス・イー・シーエレベーター株式会社
東京都台東区台東 3-18-3 SECビル TEL(03)3833-1171 FAX(03)3833-4330
<http://www.secev.co.jp> E-mail: info-sec@secev.jp

お気軽にお問い合わせください ☎ 0120-83-1171

24時間365日 日本全国150拠点のネットワークで全機種・全メーカーのエレベーターを保守します